2023年12月1日　北海道倶楽部　昭和30年5月30日（第3種郵便物承認）第786号－（別冊1）









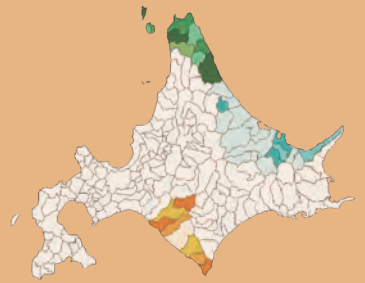







北海道の市と町と村をご紹介

文中のURL部分をクリックするとWEBが開きます



歴史・観光・食の情報











北方領土返還運動を行っています


国土地理院電子地図より


色丹島 2015年8月

バッジ頒布について

－1週間程度で発送します－

北方領土返還運動推進バッジ

●「ブラウンリボン」バッジ　●「千島桜」バッジ




早期実現北海道新幹線バッジ



バッジお申込方法（QRコードを読んでください）

バッジ1組1，000円（1種類ごと4個一組）
1組ごとに、バッジの種類を明記のうえ、「1000円分の切手」と「返信先を記入した120円切手を貼った返信封筒」を同封の上、下記住所へ郵送して下さい。（1組毎に返信用封筒が必要です。）

北海道倶楽部とは

北海道倶楽部は、昭和2年に新渡戸稲造博士等によって東京に設立された公益社団法人です。

北海道の健全な発展に寄与することを目的とし、北海道等のための広報活動、地域活性化事業の支援、北方領土返還運動、ふるさと納税等寄附の推進運動、北海道新幹線早期実現運動などの事業を行っています。

Vol.5　2023.12.01

公益社団法人 北海道倶楽部
http://www.hokkaido-c.or.jp　hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp

公益社団法人 北海道倶楽部
〒100-0014　東京都千代田区永田町2丁目17番17号　北海道東京事務所1階
TEL03-3581-4021　FAX03-3581-4022　http://www.hokkaido-c.or.jp　hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp

2023年12月1日　北海道倶楽部　昭和30年5月30日（第3種郵便物承認）第786号－（別冊1）

北海道の市と町と村をご紹介

目次

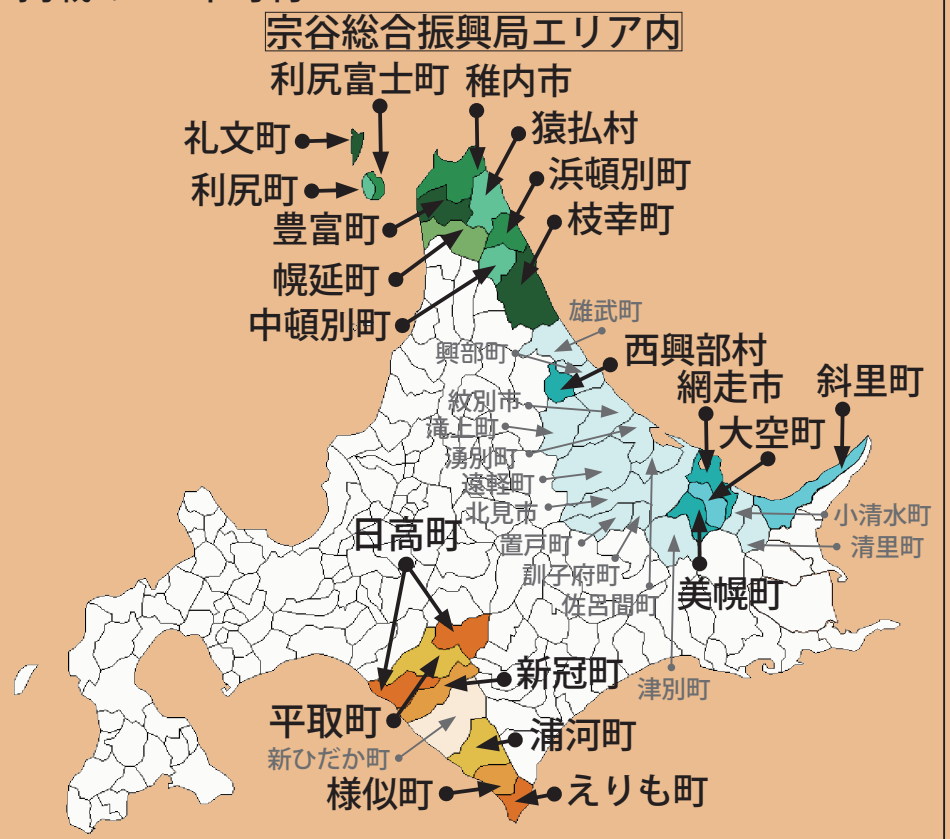
北海道 オホーツク総合 振興局	網走市のご紹介	1
	西興部村のご紹介	5
	美幌町のご紹介	9
	大空町のご紹介	13
	斜里町のご紹介	17
北海道 宗谷総合振興局	稚内市のご紹介	21
	猿払村のご紹介	25
	中頓別町のご紹介	29
	浜頓別町のご紹介	33
	枝幸町のご紹介	37
	豊富町のご紹介	41
	利尻町のご紹介	45
	礼文町のご紹介	49
	利尻富士町のご紹介	53
	幌延町のご紹介	57
北海道 日高振興局	日高町のご紹介	61
	平取町のご紹介	65
	新冠町のご紹介	69
	浦河町のご紹介	73
	えりも町のご紹介	77
	様似町のご紹介	81
	公益社団法人北海道倶楽部のご紹介	85
	公益社団法人北海道倶楽部入会申込書	86

イベント等は新型コロナウイルスの感染対策のため中止になっている場合があります。



色丹島 2015 年 8 月

2023 年北海道 "NOW" 掲載の 21 市町村



この冊子「北海道の市と町と村をご紹介」は北海道情報紙の北海道倶楽部・北海道 "NOW"（2023 年 12 月号）の別冊として刊行しました。

今回掲載したまちは、北海道 "NOW"の2023年1月～12月（2月は休刊）に掲載した21市町村のご紹介をすべて再録したものです。なお、再録に当たり情報を一部更新しました。

北海道開拓の歴史などに関しても記され、食や観光のみならず興味深い内容が含まれております。

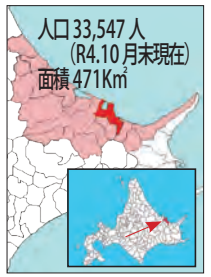
記事は、北海道及び掲載市町村の方のお世話になっております。御礼申し上げます。有り難うございました。

公益社団法人北海道倶楽部

2023 年 12 月 1 日

網走市とは

○概要



網走市は、オホーツク海、網走川、ラムサール条約登録湿地・濤沸湖をはじめ大小5つの湖沼、名勝・天都山から織りなす四季折々の美しい景観、豊かな海や湖、広大な大地からもたらされる食、スポーツに適した冷涼な気候、ここでしか見ることのできない流氷や歴史などの自然豊かな魅力にあふれています。

○歴史

明治5年、網走村の名が与えられ、その後、北見4郡（斜里、網走、常呂、紋別）の中心市として、開拓史根室支庁網走出張所の所在地となりました。水産業、農林・畜産業などの1次産業を基軸とする加工業が栄え、公官庁や事業所が集中し、文化施設の整備が進み、昭和22年2月11日、現在の市制を施行しました。

○産業

網走市の主な産業は、水産業・農畜産業・観光業です。

水産業では、海面漁業、内水面漁業がともに盛んで、流氷や森林などの働きによって栄養豊かな海や湖からは、サケ・ホタテ・スケトウダラをはじめとした豊富で多様な恵みがもたらされています。また、網走市は日本最北の捕鯨基地でもあり、沿岸小型捕鯨業も行われています。

農業では、恵まれた気象条件のもと広大かつ肥沃な土地を利用して、大規模で機械化された営農集団体制を中心とする生産性の高い畑作・酪農畜産などを効率的に営んでいます。畑作では麦類・馬鈴薯・てん菜の畑作3品のほか、豆類や野菜の栽培も盛んです。また畜産では、肉牛は「オホーツクあばしり和牛」、豚は「知床ポーク」、鶏は「知床どり」の名称でブランド化を進めています。

観光業では、冬の流氷や網走監獄以外にも、春は流氷明けのおいしい海産物、夏はホーストレッキング、ネイチャークルーズ、カヤックなどのアクティビティ、秋はサンゴ草など、1年を通じて様々なスポットやアクティビティが楽しめます。

○イベント

・あばしり七福神まつり（9月上旬）

平成6年より中心市街地のにぎわいづくりの一環として、毎年9月上旬に歩行者天国を設け、地元及び全国各地の物産やグルメを集めたイベントです。



あばしり七福神まつりの様子

・オホーツク屋台村（2月上旬）

冬の野外イベントで、市内の飲食店等から出店した屋台が軒を連ね、観光客や市民が網走のグルメを楽しめます。



オホーツク屋台村の様子

市の取組み

網走市総合計画を基本とし、5つの観点からまちづくりに取り組んでいます。

○ひとにやさしく、ひとを育むまちづくり

・地域医療の充実

オンライン診療が可能となる移動型医療サービスの実証運行を進め、通院困難者や医療機関の負担軽減を目指しています。また、救急医療の体制確保と開業医の誘致に努め、医療提供体制の充実を図っています。

・子育て環境の充実

給食費の無償化や認定こども園での一時保育の利用対象年齢を引き下げるなど、子育て世帯の負担を軽減しています。また、発達支援センターでは、専門機関から作業療法士の派遣を受け、療育指導の充実を図っています。

・高齢者や障がい者への支援

聴覚障がい者を対象として要約筆記者の派遣、軽度・中等度難聴者の補聴器購入費への助成のほか、ひとり暮らしの高齢者などを対象に、ＩｏＴ技術を活用した見守りに取り組んでいます。

○グリーンなまちづくり

公共施設の照明をＬＥＤ化し、電力の消費量削減に取り組んでいます。また、森林の環境保全機能の維持のため、植林や伐採、林道施設など計画的な整備を進め、森林の循環に努めています。

○活力あふれるまちづくり

多様な働き方に対応する拠点であるコワーキングスペースの利用促進を支援しています。また、人手不足問題に対応するため、建設業などの社会インフラや公共交通の担い手の育成および人材確保を支援し、若者の地元定着を推進しています。

○安全・安心なまちづくり

自主防災組織への支援や、火災などの疑似体験による防災訓練を実施しています。また、津波浸水想定の見直しに伴いハザードマップを改訂するとともに、津波避難路にソーラー蓄電池式の照明設備の整備を進め、地域防災力の向上を図っています。

○デジタルを推進するまちづくり

観光ＰＲ動画などを活用した広告配信および広告の閲覧状況やアクセス経路分析、デジタルマーケティングを活用した観光プロモーションに取り組んでいます。また、二次元コードを活用した電子納税等の導入により市民や利用者の利便性向上を図っています。

○ふるさと納税（寄附）

当市では「おいしいまち網走」のキャッチコピーのもと「ふるさと寄附」を募っています。寄附金はこども医療費の助成や出産祝い金などの子育て世代への支援をはじめ、スポーツ環境の整備、地域医療の充実、公共交通維持など様々な分野で有効に活用しています。寄附者には御礼として「おいしいまち網走」自慢の品をお届けしています。オホーツク海のカニ・ホタテ・鮭・イクラや道内随一の漁獲を誇るシジミなどの水産物、彩り豊かな地ビール、世界一を獲得したジェラートなど、様々なおいしいものをご用意しています。まずは特設ページをご覧いただき、寄附をご検討いただけますと幸いです。

→特設ページはこちらから


人気の返礼品「網走ビール」

●お問い合わせ
網走市役所　〒093-8555　北海道網走市南６条東４丁目
ＴＥＬ：0152-44-6111　ＦＡＸ：0152-43-4504

「豊かな自然にひと・もの・まちが輝く健康都市 網走市」
観光スポット



○博物館網走監獄

博物館網走監獄は、明治以来、網走市と深く関わりを持っていた旧網走刑務所の歴史的建物25棟を保存展示する野外博物館です。

移築復原された建物は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて建てられたもので、現存する木造行刑建築物としては最古のものとなり、そのうち8棟が国の重要文化財に指定されています。また、デジタル映像や立体音響などの最新技術を採用し、当時の受刑者の過酷な労働に焦点を当てた監獄歴史館の「赫い囚徒の森・体感シアター」は必見です。

他にも、重要文化財「庁舎」にて、直営のミュージアムショップや、受刑者が実際に食べている食事を体験できる「監獄食堂」などもあります。



○天都山展望台・オホーツク流氷館（令和5年1月20日リニューアル！）

天都山にある「オホーツク流氷館」は、流氷の神秘とオホーツクの絶景を体感する観光施設です。４００インチの５面スクリーンを備えた「流氷幻想シアター」が神秘の流氷とオホーツク海の壮大な営みを映し出します。マイナス15℃の「流氷体感室」では本物の流氷に触れることができ、濡れたタオルを振り回して凍らせる「しばれ体験」ができます。厳寒の海でしか見られない流氷の天使・クリオネやオオカミウオなどが泳ぐ常設水槽も人気です。

「オホーツク流氷館」見学後は、「天の都展望テラス」へ。ここは、昭和13年（１９３８）、国の文化財「名勝」に指定された「天都山」の山頂です。標高２０７ｍの天都山からは、市内の４つの湖と遥か世界自然遺産の知床半島までを見渡せます。その展望は「天の都にいるような心地にさせるほど美しい」と称えられ、天都山という名の由来になりました。

また、１階の売店にて販売中のオホーツク海の青い塩をトッピングした「流氷ソフトクリーム」は絶品です。



なお、オホーツク流氷館は令和５年１月20日に展示施設の一部改修を行い、流氷下に広がる色彩豊かなオホーツク海の世界にダイブしているかのようなライブ感を感じられる体験型展示「流氷海中ライブ」を新たにオープンしました。

○能取岬

オホーツク海に突き出た能取岬は、突端に灯台があるだけ。西には能取湖と北見市常呂町の海岸、北方はすべてオホーツク海、東には遠く知床連山が眺められます。ワイドなパノラマは絶景そのもの。

「あばしり応援人になりませんか？」

網走市の魅力をＰＲしていただく市公認の応援大使「あばしり応援人」を募集しています。詳細・お申込みはＱＲコードから。

※無料入館対象施設
網走市立美術館、網走市立郷土博物館、モヨロ貝塚館、オホーツク流氷館、博物館網走監獄、北海道立北方民族博物館、濤沸湖水鳥・湿地センター

ご家族、お友達、職場の方などのまわりの方に網走市をＰＲしていただくと幸いです。お申込みはＱＲコードから。



あばしり応援人グッズ

「あばしり応援人」
募集の詳細、お申込
みはこちらから →

●お問い合わせ
網走市役所　〒093-8555　北海道網走市南６条東４丁目
ＴＥＬ：0152-44-6111　ＦＡＸ：0152-43-4504
E-mail：ZUSR-KS-KIKAKU-KIKAKU@city.abashiri.hokkaido.jp
公式ホームページ：https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/

○市のキャラクター紹介

網走のご当地キャラ「ニポネ」は、網走を代表する幸せのお守り「ニポポ人形」と流氷の天使「クリオネ」から生まれた勇者です。胸には網走市の花である「エゾムラサキツツジ」のバッジをつけており、頭には北方系の民族をイメージした文様がついたハチマキを巻いています。

困っている人がいたら助けずにはいられない勇敢な性格で、少しおっちょこちょいなニポネは、美味しいものに目がなく、網走の食材が大好きです。日々の日課は、網走を飛び回り網走の安全を守るために毎日パトロールを行うことで、網走をＰＲするために出張することもあります。



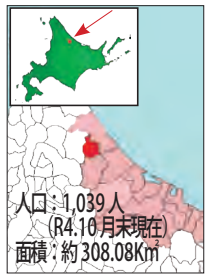
ニポネ

西興部村とは

○概要

西興部村は、人口約1000人で道内3番目に人口が少ない自治体で、1925年1月1日に当時の興部村から分村して西興部村が誕生してから2025年に開村100年を迎えます。

北海道の北東部、オホーツク総合振興局管内の西北端に位置し、東と北は興部町、南は滝上町、西は上川郡下川町に接しており、総面積の9割が森林に覆われています。西興部村の地形は平坦地が極めて少なく、興部川・藻興部川沿いに狭長な農地があるだけで、他の大部分は平均400m程度の標高をもってほぼ丘稜性山地の地形です。



地震による揺れがほぼなく、平成の31年間で最大震度1しか記録されなかったのは2自治体のみで、そのうちの1つが西興部村です。大きな災害もなく安全安心に暮らせる村です。

○基幹産業

豊かな自然に囲まれた村の基幹産業は酪農で、13戸の酪農家が乳牛を飼育しています。

家畜糞尿の処理が大きな課題でありましたが、糞尿を資源としたバイオガスによる300kwhの発電や消化液の農地還元、再生敷料の活用など循環型酪農の実現により、水質汚染や臭気対策などの環境保全や酪農家の糞尿処理の負担軽減、新たな雇用の創出など、地域の活性化にも結び付いています。

○夢施設

西興部村には、たくさんの「夢」があふれています。子どもから大人まで楽しく遊べ、木のぬくもりを感じる「森の美術館木夢（コム）」、大自然に包まれたリゾート感覚の宿「森の中のホテル森夢（リム）」、約500種類の花が季節を彩る「道の駅フラワーパーク花夢（カム）」、観光案内や子育て支援の拠点など複合施設の「里住夢（リズム）」など、「夢」施設がたくさんあり、村民の夢叶うむらづくりを行っています。

○イベント情報

★むら興しまつり

毎年8月の第4日曜日に開催される「むら興しまつり」は西興部村最大のイベントです。

当日は、中学校の生徒による吹奏楽の演奏や地元のバンドの演奏、有名人が登場するステージショーなどのほか、伝統となっているきこり競争や指定されたグラム数になるように目隠しをして村特産品のグラスフェッドミルクを飲み、ぴったりを競う「目隠しミルク ぴったりChu-Chu-!大会」、来場者全員にチャンスがある大抽選会などイベントが盛りだくさんですので、たくさんの皆さまのご来場をお待ちしております。



村の取組み

○第5期西興部村総合計画（2022年度～2031年度）

キャッチフレーズを「夢、おこす村　にしおこっぺ」として、「スモール・メリットを活かしたむらづくり」「あらゆる資源を活かし育てるむらづくり」「安全・安心に暮らせるむらづくり」「住民とのパートナーシップによるむらづくり」「若者がいきいきと働き、集まるむらづくり」の5つを基本理念として掲げています。また、2031年度末で人口1000人を確保することを総合目標にして、全国的に人口減少時代を迎える中、地域が持続するために、現在と変わらない人口規模を維持することを目指します。

○交通事故死ゼロ永遠に

西興部村は、2022年6月17日に交通事故死ゼロ10,000日を達成しました。道内市町村で10,000日を達成したのは西興部村が初めてであり、この偉大な記録を継続するために、これからも村民一丸となって交通安全運動に取り組んでいきます。

○オレンジ色に景観統一

1999年に、美しく魅力ある村を次世代に引き継ぐため、「美しい村条例」を制定し、景観統一に取り組んできました。

「太陽のオレンジと森の緑」を基本カラーとして、村内の多くの建物がオレンジ色の外壁と緑色の屋根に彩られています。



市街地を一望できる瀬戸牛峠からの眺めは壮観で、今ではオレンジ色は西興部村のイメージカラーです。

○グラスフェッドミルクの乳製品

村内の牧場で、牧草で育てた牛から搾った牛乳「グラスフェッドミルク」に着目し、乳製品を開発するために地域おこし協力隊員として赴任された方が「ミルクデザイン株式会社」を設立し、ノンホモ製法による低温殺菌牛乳をはじめ、ソフトクリームミックス、バター、各種チーズなどの製造に取り組み、基幹産業が酪農である村にとって、待望の特産品が誕生しました。どれもこだわりのある商品です。定期便プランもありますので、詳しくは「ミルクデザイン株式会社」のHPをご覧ください。

○ふるさと納税（寄附）

いただいた寄附金は、「保健・医療・福祉・子育て支援」「街づくり・人づくり」「産業の振興」「教育・文化の振興」に活用させていただきます。

特徴的な返礼品としては、「エレキギター」です。西興部村には世界的に有名なブランドのエレキギターのボディを製造している「オホーツク楽器工業」があります。多くの工程が手作業で、全国から移住してきた若者たちが、ギターの製造に携わっています。ぜひ、価値ある一本を手に入れてみませんか。

また、前述したグラスフェッドミルクの乳製品も人気の返礼品になっています。

ご寄附は、本村のHP、もしくは、大手ふるさと納税ポータルサイトから申し込みできます。

〈返礼品の一例〉





●お問い合わせ
○西興部村役場　〒098－1501　北海道紋別郡西興部村字西興部100番地
TEL：0158－87－2111　FAX：0158－87－2777
E-mail：ni.kikaku@vill.nishiokoppe.lg.jp
公式ホームページ：https://www.vill.nishiokoppe.lg.jp/

「夢、おこす村　にしおこっぺ」

観光スポット

利用ください。

○鹿牧場

鹿牧場は、市街地から4㎞ほど離れた瀬戸牛峠を下った中藻地区にあります。7㌶にもなる広い敷地に高さ2～3ｍのフェンスで囲まれた飼育スペースには草地、林、小川と自然そのままの環境を再現してエゾシカが約30数頭飼育されており、季節によって毛の色も替わり、様々な姿を見せてくれます。





よく晴れた日などには、滝に虹が架かるのを見ることができます。雪解け水が多い春先が見頃です。

○赤岩の滝

赤岩の滝は、行者の滝から4㎞先の上流に位置し、興部川源流にあるこの滝は、高さ10ｍほどで高くはありませんが、この滝の最大の特徴は、その名が示すとおり、滝壺から80ｍほど下流に向かって、川床の岩盤が煉瓦色のような赤い色のコントラストは、まさに奇観としか言いようがありません。色の対比と滝の迫力の相まった、見応えある滝です。

○黒岩の滝

黒岩の滝は、赤岩の滝からさらに1.2㎞上流の、興部川源流の最も奥に位置するこの滝で、岩盤（安山岩質の集塊岩）が黒い色をしていることから、黒岩の滝と呼ばれるようになりました。興部川上流にある滝の岩質は、この付近一帯で古い時代に起こった火山活動にともなう溶岩（安山岩質の集塊岩）です。この溶岩が噴出した火山活動の時期は、約5００万年前から２０００万年前とみられており、岩質は全域にかけて均質で、黒色、緻密、堅硬な特徴があり、周囲の岩盤の色と相まって豪快で迫力に満ちています。





○森の美術館　木夢（コム）

「木夢」は、「みて、ふれて、あそんで、つくる。」の４つの体験をコンセプトに木の持つ肌触りと音、材質の持つ強さ、ぬくもりとやさしさを伝える場で、木育の拠点にもなっています。

館内には「木の遊園地ホール」「木のおもちゃのお部屋」「木の砂場」「サンタワールド」「木工室」など８つのエリアがあり、小さな子どもから大人まで楽しめる施設となっています。どこか懐かしい世界へ迷い込んだような「木夢」へぶらりと足を運んでみてください。



は、木製のからくりオルガンがあり、30分ごとに大きな丸いステージの上で58体の木の人形が風の力を使って音に合わせて演奏しています。愛らしい木の人形達が音楽に合わせて動きだし、まるで本当に人形達が演奏しているかのような気分。のどかでホッとするような優しい音色が、とても素敵な時間を与えてくれますので、ぜひお立ち寄りください。



○道の駅　花夢（カム）

「花夢」に併設された6㌶のフラワーパークには、4月から10月の間、約５００種類もの花が四季折々に途切れること無く咲いています。また、万葉の丘には万葉集に登場する山野草がひっそりと咲いています。観光客だけでなく村民にとっても季節の花を検索したり、花の情報交換をしたりと素敵な時間を与えてくれるスポットです。

また、「花夢」の館内に



○ホテル森夢（リム）

「森夢」は、大自然に囲まれた森の中にあるホテルで、吹き抜けの大きなガラスがとても印象的です。洋室、和室、和洋室とあり、観光からビジネスまで多用途で利用できます。

レストランでは、本格的なコース料理から一品料理まで、幅広いメニューをお楽しみいただけます。一押しは「村長ラーメン」。地元で採れた行者ニンニクや鹿肉が入ってボリューム満点です。ホテルには大浴場も完備しており、和やかな時間を大切な人と一緒にご

敷地内に設置された自動販売機で餌が購入でき、餌を欲しがるエゾシカが目の前までやってくるので、記念撮影することもできます。エゾシカの可愛らしい群れが歓迎してくれますので、鹿牧場に足を運んでみてください。

○行者の滝

行者の滝は、村内を流れる興部川上流に位置する滝で、国道から約５㎞ほど山中に入ったところにあります。明治の末期に親の病気回復を願って、滝に打たれ祈願した女行者が実在したことから、その名をもって呼ばれるようになりました。

行者の滝は、興部川本流に向かって斜面を滑り降りてきた水の流れが、崖の部分で一気に落ち込んでおり、正面から見ると扇形の

をしており、周囲の景観と

○村のイメージキャラクター「セトウシくん」

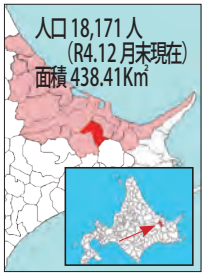
西興部村のイメージキャラクター「セトウシくん」は、西興部村で製造しているフジゲンギターをこよなく愛しているやんちゃな2歳のオス牛です。西興部市街地が一望できる瀬戸牛峠（せとうしとうげ）に由来しており、村のイメージカラーであるオレンジ＆グリーンが斬新のホルスタインです。西興部村の特徴が詰まったキャラクターで、テーマソングやグッズもあり、多くの人たちに愛されています。



●お問い合わせ
○西興部村役場　〒０９８－１５０１　北海道紋別郡西興部村字西興部１００番地
ＴＥＬ：０１５８－８７－２１１１　ＦＡＸ：０１５８－８７－２７７７
E-mail：ni.kikaku@vill.nishiokoppe.lg.jp
公式ホームページ：https://www.vill.nishiokoppe.lg.jp/

西興部村のご紹介（にしおこっぺ）

美幌町とは



○概要

美幌町は、北海道の東部、オホーツク管内のほぼ中央部に位置します。女満別空港へ車で15分で移動できるほか、市街地には国道４本が縦横断しており、道東の交通の要衝とされています。約２ｋｍ四方のコンパクトな市街地には、過不足のない施設や医療機関、店舗が揃っており、日常生活に不自由はしません。



気象は、オホーツク海流、海霧、流氷の影響を受け、冬はマイナス20℃前後、夏は30℃前後になることもあるなど、寒暖の差が大きくなっています。降水量は、年平均７００ミリメートルと少なく、国内でも有数の日照率の高さを誇っています。

○歴史

多くの清流が合流して水量が豊富なところを、アイヌ語で「ピ・ポロ＝水多く・大いなるところ」といい、これが町名の由来となりました。明治20年に美幌外５カ村戸長役場が設置され、大正４年に２級村制を施行し、美幌村となりました。さらに、同８年に津別村を分村し、同12年に美幌町となりました。令和５年４月１日で町制施行１００周年を迎えました。

○産業

主な産業は農業で、１万ヘクタールを超える耕地があり、小麦、てん菜、馬鈴しょ、玉ねぎなどが主に生産され、これらの農産物を原料とする加工業も多くあります。森林は、行政区域面積の62％にあたる約２万７千ヘクタールを占めており、人工林率は70％となっています。有数の森林資源を地域の活性化に役立てようと、世界基準の森林認証を取得し、木材の高付加価値化、ブランド化を図っています。

○特産品

新鮮な農畜産品や農産加工品、銘菓などの味覚をはじめ、陶器や木工芸品などがあり、町内外を問わず幅広く人気があります。

○イベント情報

・５月下旬　美幌峠まつり

美幌峠を訪れる方の交通安全と、美幌峠が今後ますます発展することを祈願する行事です。

・７月中旬　美幌観光和牛まつり

網走川河畔公園の河川敷に３００基以上の炉が並び、美幌産の和牛をメイン食材とした屋外バーベキューのイベントです。町内外から１万人以上の方が訪れます。



・８月中旬　びほろ夏まつり

市街地にある中学校のグランドに立てられた巨大なやぐらのもとで行われる大盆踊りや空いっぱいに広がる大迫力の花火大会を開催します。

・８月下旬　ビホロ１００kmデュアスロン大会

ラン10㎞、バイク80㎞、ラン10㎞の計１００㎞を走破する、マラソンと自転車の複合競技です。

全国から毎年約３００名の選手が過酷なレースに挑み、栄光のゴールをめざします。

・毎年９月４日～６日　美幌ふるさとまつり

美幌神社の秋の例大祭にあわせて開催されるお祭り。

・１月下旬　びほろ冬まつり

雪で作られた滑り台や雪像、露店が並び、様々な催しが繰り広げられます。

TEL：０１５２－７７－６５２９　FAX：０１５２－７２－４８６９
E-mail：seisakug@town.bihoro.hokkaido.jp
公式ホームページ：http://www.town.bihoro.hokkaido.jp

町の取組み

○第６期美幌町総合計画

「ひとがつながる、みらいへつなげる、ここにしかないまち、びほろ」を将来像として定め、「人を創り、地域力を高めるまちづくり」、「自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり」、「まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり」、「住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり」、「夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり」の５つを基本目標として、まちづくりに関する取り組みを行っています。

○令和５年４月オープン！「移住相談拠点施設」の取組み

美幌町の強みである豊かな自然や交通の便の良さなどの資源を活かして、美幌町と関わりを持っていただける方を迎え、将来の美幌町を担う礎を築くために、令和５年４月より「移住相談拠点施設」を開設して移住定住の取組を今まで以上に推進します。

この施設は、カフェやテレワークスペース、サテライトオフィスなどの機能を備え、ワーケーションや滞在型観光などをはじめとした独自のメニューを提供する予定です。町内外問わず様々な方が集まり、交流できる場所にしていきたいと考えておりますので、どなたでもお気軽にご利用ください。美幌町への移住に関する情報を特設サイト「びほろ暮らし」で発信しています。移住体験者の受け入れやオンライン移住相談など、ニーズに応じて対応いたします。お気軽にお問い合わせください。

特設サイト「びほろ暮らし」はこちら←



移住相談拠点施設

○ふるさと納税（寄附）「ふるさとを思う　こころが届く　美幌町ふるさと寄附金」

美幌町では、寄附者様からいただいた寄附金を「まちづくり」、「経済活性化」、「福祉の充実」、「教育の充実」の事業に活用しています。令和４年度は町内で起業する方の支援や町内を走行する「多目的バス」のラッピング、除雪の支援、美幌高等学校の支援などを実施しています。

寄附者様へのお礼品として、希望者の方には美幌町自慢の特産品もお届けしています。野菜や肉などの生鮮食品、加工品、工芸品、移住・観光体験など幅広くご用意しております。詳しくは、特設サイト「美幌町ふるさと納税応援サイト」を是非ご覧ください。

美幌町ふるさと納税応援サイトはこちら←



人気のお礼品「北海道産牛の赤身800ｇ・切り落とし200ｇ」

●お問い合わせ
美幌町役場　総務部政策課政策統計グループ
〒０９２－８６５０　北海道網走郡美幌町字東２条北２丁目　２５番地

「田舎過ぎず、都会過ぎない。ちょうどいい暮らしが叶うまち、美幌町」

観光スポット

○天下の絶景、美幌峠



美幌町の市街地から車で約30分、標高525mの場所にある美幌峠の展望台からは、日本最大のカルデラ湖「屈斜路湖（くっしゃろこ）」や迫力のある噴煙を上げる「硫黄山（いおうざん）」、知床連峰をはじめとした雄大な山々を見ることができる人気の観光スポットです。美幌峠からの眺めは「天下の絶景」と謳われ、日の出や夕焼け、雲海など、季節や時間帯によって様々な表情を見せ、毎年多くの観光客で賑わいます。美幌峠から見る絶景に魅了され、美幌町へ移住された方もいらっしゃいます。

○道の駅「ぐるっとパノラマ美幌峠」

美幌峠の展望台に隣接する道の駅「ぐるっとパノラマ美幌峠」は、平成14年に登録された道の駅です。道東の主要都市である北見市や網走市、釧路市などを結ぶ国道の沿線にあるため、古くから親しまれ、北海道「道の駅」ランキングの景観部門では、7年連続1位を獲得しています。令和4年4月21日にリニューアルオープンし、美幌町産の食材を使った料理が食べられるレストラン、美幌峠名物の「揚げいも」や熊笹味のソフトクリームなどのテイクアウトコーナー、厳選したオホーツクの特産品を販売する売店、オリジナルのレモネードや豆のブレンドにこだわったコーヒーを提供するお店、オリジナルのカレーパンをはじめとしたメニューで人気のパン店が営業中。町内外からのお客様に絶品の料理や選りすぐりの商品を提供しています。



道の駅の2階には、絶景を眺めながら休憩できる「展望休憩室」があり、大型モニターで美幌峠の四季の映像などをご覧いただくこともできます。

また、美幌町ふるさと納税の特設ブースも設置し、ご寄附いただいた寄附金の使い道やお礼品、生産者のご紹介をしています。美幌町を代表する観光スポット「美幌峠」にぜひお越しください。

○美幌物産館「ぽっぽ屋」

JR美幌駅舎内にある美幌物産館「ぽっぽ屋」では、美幌町産の農産物や加工品、工芸品などの特産品やお土産を豊富に取り扱っており、美幌町ならではの品を購入することができます。美幌駅からはJR石北線や都市間高速バスが発着し、観光案内所も併設しておりますので、美幌町へお越しの際は是非お立ち寄りください。



○美幌林業館「きてらす」

JR美幌駅の2階にある美幌林業館「きてらす」は、美幌町産の木材をふんだんに使用した木製遊具で遊べる木育施設です。館内には、滑り台やトンネル、うんていなどを備えた大型のコンビネーション遊具や、木製のエアホッケー、木の玉が優しい音色を奏でる「木の玉もっきん」などの楽しい遊具がたくさんあります。お子様はもちろん、大人も楽しめます。クリスマスには、本物の松の木を使用したクリスマスツリーの展示やお子様を対象とした木工体験などを実施しています。授乳室やベビーベッドもありますので、小さなお子様連れの方も安心してご利用できます。



○美幌みどりの村

美幌町の市街地から車で約10分の距離にある「美幌みどりの村」は、森林公園やキャンプ場、宿泊研修施設、博物館が併設し、都市と農村の交流、体験の場として多くの方に親しまれています。

森林公園は、美幌町の四季を手軽に感じることができ、多様な樹木や動植物が見られ、散歩コースとしても人気のスポットです。森林公園内にはキャンプ場やバンガローがありますので、アウトドアも存分にお楽しみいただけます。多機能型宿泊研修施設「グリーンビレッジ美幌」は宿泊部屋や食堂、大浴場、加工実習室などを備え、パン作りやそば打ち体験などを実施しています。大人数でのレクリエーションや宿泊研修に最適な施設です。「美幌博物館」には3つの展示室室や交流ホール、レストランを備えています。敷地内には5月から10月まで利用できるRVパークやライダーテントスペース、ログハウスを併設していますので、キャンピングカーやバイクなどでお越しの方も快適に利用できます。美幌町の自然を満喫した後は、ぜひ峠の湯びほろでリフレッシュしてみてください。



○峠の湯びほろ

市街地から車で約10分の距離にある「峠の湯びほろ」は美幌峠に向かう田園風景の中にある温浴施設です。6種類の浴槽と迫力のある木造ドーム型の屋根が特徴です。お身体が不自由な方のための福祉風呂や、テレワークにも使用できる特別休憩室、交流の場として使用できる賃



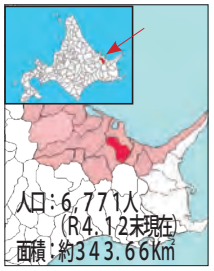
○町のキャラクター紹介

美幌のゆるキャラ「ぎゅうたろう」は美幌生まれのオス牛です。びほろの野菜が好きで元気いっぱい！左腕に美幌峠の形をした力こぶがあり、美幌に流れる川をイメージした水色のマフラーを身に付けています。おとなしくてシャイな性格。褒めると舌を出して照れてしまいます。美幌町内外の様々なイベントに参加し、美幌のPRに積極的に取り組んでくれています。



●お問い合わせ
美幌町役場　総務部政策課政策統計グループ
〒092－8650　北海道網走郡美幌町字東2条北2丁目25番地
TEL：0152－77－6529　FAX：0152－72－4869
E-mail：seisakug@town.bihoro.hokkaido.jp
公式ホームページ：http://www.town.bihoro.hokkaido.jp

大空町とは



○歴史

大空町は、旧女満別町と旧東藻琴村が合併したことにより誕生した町です。

旧女満別町は、1890年にマッチ軸の木材栽培により人が居住したことを開拓の始まりとし、その後、鉄道開通により駅前を中心に市街地が形成されるなど人口が増加したことから1921年網走町から分村、1951年に町制を施行しました。

旧東藻琴村の始まりは、基線道路の開通を機に1906年に開拓者が入植し、大正時代には団体入植による本格的な開拓が始まったことで集落形成が進み、1947年に網走町から分村して村制を施行しました。

2006年3月31日、互いに豊かな産業や文化を育ててきた両町村は、一つの町として手を取り合い「大空町」として生まれ変わりました。

大空町は、互いの優れた特性を活かし、美しい自然と共生しながら、ふれあいと語らいによる感動のまちづくりを進めています。

○産業

大空町の主な産業は、農業であり経営耕地面積12,551ヘクタールと全町の約37％を占めています。主な作目は、米の作付けをはじめ、麦類、馬鈴薯、甜菜、豆類、野菜と多岐にわたっています。2018年度から操業を始めた道内最大の豆の調整施設「オホーツクビーンズファクトリー」では、オホーツク地方で採れた豆類を集荷して選別調整し、全国へ販売するための拠点となっています。また、特産品の一つである「長いも」を使ったご当地メニュー「大空豚しゃぶ長いも丼」を町内4店舗で提供しています。提供する丼のタレは各店オリジナルで、4店異なる味わいで食べ比べも楽しめます。大空町発のご当地メニューをぜひ味わってみてください。

観光業では、春の芝桜公園、夏から秋にかけて楽しめる3か所のひまわり畑、凍った湖の上で楽しむ「氷上わかさぎ釣り」など1年を通して様々なスポットやアクティビティが楽しめます。また、近年は網走湖女満別湖畔でSUP（スタンドアップパドルボード）を楽しむ方も増えており、SUPのイベントも開催されています。

○イベント

・ひがしもこと芝ざくらまつり

芝桜の開花に合わせて5月上旬から5週にわたって繰り広げられる東藻琴地区最大のイベント。東藻琴を舞台に、歌謡ショーなど催し物が盛り沢山。毎年、花見を兼ねて道内外から大勢の観光客が訪れ、ピンク色に咲き誇る芝桜が、人々を魅了しています。



・めまんべつ観光夏まつり

網走湖女満別湖畔を会場に開催される女満別地区の夏を彩る最大のイベント。水上花火大会や北海道ドラゴンボート競技会など湖畔ならではのアトラクションが盛り沢山。湖畔キャンプ場でキャンプを楽しみながら、夏ならではの賑わいを楽しめるイベントです。



・ノンキーランドふるさとまつり

東藻琴地区の夏を彩るイベント。そのメインイベントは「ロール転がしどってん酷」。4人1チームで重さ400kg（女子は300kg）の牧草ロールを転がし、ゴールまでのタイムを競います。その他、野外バーベキューや特産品の格安販売もあります。



町の取組み

○第2次大空町総合計画（2016年度～2025年度）

第2次大空町総合計画では、「夢を絆を　笑顔で彩る大空町」を将来像とし、ふれあいによりつながり始めた心の融合を強い「絆」に変え、町民が抱く理想のまちづくりという「夢」を、みんなでいきいきと「笑顔で大空に彩る（描く）」、そうした輝いた町民の姿を目標としています。基本計画として、「にぎわいひろがる産業のまちづくり」「あたたかさあふれる福祉のまちづくり」「いきがいはぐくむ学びのまちづくり」「ゆたかさうるおう生活のまちづくり」「ふれあいつながる協働のまちづくり」の5つを軸として掲げています。

○高校魅力化プロジェクト

2021年4月に開校した「北海道大空高等学校」は、「普通科の高校」と「専門学科の高校」の科目の中から、自分の興味のある科目や、進路に合わせた科目を選択して学ぶことができる「総合学科」です。小規模校ならではのメリットを生かすことで、生徒一人ひとりに細やかに対応するフォローアップ体制も充実した最適な環境が整っています。

また、町と民間企業「R／GA」が共同でスタートしたプロジェクト「PROTOOZORA」では、大空高校生が「関係人口の創出」というテーマについて取り組み、実際に高校生から町長に政策提言を行うなどの活動も行っています。

高校魅力化プロジェクト以外にも、教育ICT環境を整備する「GIGAスクール構想」や認定こども園の整備など、地域が一丸となって学びをサポートできるまちづくりを目指しています。

○地域情報配信アプリ「そらっきーナビ」

日常から緊急時まで、町の情報を町民全員に確実に伝える手段として、スマートフォン向け地域情報配信アプリ「そらっきーナビ」を配信しています。そらっきーナビでは、町や関係機関からのお知らせや緊急情報、ゴミ出し曜日確認、慶弔や町内18か所のピンポイント天気など暮らしに役立つ情報をお届けしています。また、プッシュ通知で情報を配信できるため、災害時の避難所開設状況など、緊急情報を確実に届けることが可能です。

従来から運用している広報誌等のアナログ媒体とそらっきーナビやSNS等のデジタル媒体を組み合わせることで、全世代に確実に情報を伝えるまちづくりを目指しています。

○ふるさと納税（寄附）

いただいた寄附金は、「未来を担う子どもたちを育む事業」「高齢者が健康でいきいきと暮らす事業」「魅力ある観光地づくり」等に有効に活用しています。

寄附者には御礼として大空町自慢の品をお届けしています。

雄大な大地で育てられた新鮮野菜やチーズ、さくら豚など町の特産品を定期便でお届けするコースや日本ギフト大賞2018北海道賞にも選ばれた「しじみ醤油」、北海道の大自然が育んだ100％の生乳で手作りした人気のチーズ詰め合わせ「チーズオールスターズ」など、味覚に嬉しい様々な食べ物をご用意しています。また、バター作り体験やわかさぎ釣り体験など、アクティビティに関する返礼品も用意しています。まずは特設ページをご覧いただき、寄附をご検討いただけますと幸いです。

ふるさと納税ページはこちら↑



●お問い合わせ
○大空町役場　〒099－2392　北海道網走郡大空町女満別西3条4丁目1番1号
TEL：0152－74－2111（代）　FAX：0152－74－2191
E-mail：info@town.ozora.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.ozora.hokkaido.jp/

「大空に　人・花・心　育むまち」
観光スポット

○大空八景

町内にある全国に誇れる自慢の景観８か所を決定し「大空八景」と呼んでいます。四季折々で違う景色を見せてくれる大空八景。ぜひ、ぐるっと巡ってみてはいかがでしょうか。

①ひまわり畑からの飛行機

女満別空港の近くにある「ひまわり畑」は、ひまわりと飛行機を１枚の写真に収めることができる国内でも珍しい絶好の撮影スポットです。タイミングが合えば、ひまわり畑の上に着陸したような写真を撮ることもできます。



ひまわりの花が咲いている期間は２週間ほどと短いですが、風にそよぐひまわりが笑顔で出迎えてくれます。

②住吉高台からの眺望

高台から見下ろす風景は雄大さを実感できるとともに、澄み切った青空と緑や黄金色のパッチワークのような田園風景を満喫できます。晴れた日には知床連山などが見える隠れた景観スポットです。

③網走湖女満別湖畔

網走国定公園に位置する網走湖女満別湖畔は「北海道景観百選」に選ばれたほど美しく自然豊かな湖です。



レジャーをお楽しみいただけるのが網走湖女満別湖畔の醍醐味です。

④メルヘンの丘

ゆるやかな丘陵地に連なる畑が、季節ごとに美しい田園風景を描く「メルヘンの丘」。世界の巨匠、故・黒澤明監督の映画「夢」のロケ地としても有名なスポットです。畑と空が織りなすのどかな風景が印象的なフォトスポットで、毎年たくさんの観光客が訪れています。

女満別市街から網走市方向へ向かう国道39号線沿いにあり、春は緑、夏はジャガイモの花の白、秋は小麦の黄金色と、季節とともに丘の色が変化し、様々な風景を楽しませてくれます。



⑤朝日ヶ丘公園

女満別地域の高台に位置する「朝日ヶ丘公園」は、網走湖から斜里岳や知床連山まで３６０度の大パノラマを眺望できる絶景スポットです。展望台に登れば、オホーツクの爽やかな風を感じることができます。夏から秋にかけては、一面のひまわりが展望台周辺を埋め尽くし、賑わいを見せます。また、朝日地区も映画「夢」のロケ地となっています。



⑥ひがしもこと乳酪館

チーズの里東藻琴のシンボルともいうべき施設です。ここでは、東藻琴産のフレッシュミルクを原料に、乳製品の開発・製造をするとともに、実際にチーズづくりを見学・体験することができます。

そのため館内には、チーズの歴史を知るミニ学習室、ジオラマ模型の展示、アイスクリームづくりやバターづくりに挑戦する体験交流室、さらにここで製造されている乳製品を実際に味わえる販売・試食コーナーなどがあり、チーズに関する様々なことを楽しみながら学べるようになっています。

⑦ひがしもこと芝桜公園

東藻琴市街から藻琴山方向へ８㎞。春になると、鮮やかなピンク色や白色に染まる小高い丘の斜面が「東藻琴芝桜公園」です。５月中旬から６月上旬にかけて見頃を迎えます。満開になると、10万㎡に及ぶ広大な斜面はまるでビロードの絨毯を敷き詰めたように美しく彩られます。

場内には、１周８２０ｍのゴーカートや丸太遊具、ニジマスが泳ぐ釣堀池、さらにはバンガローを完備したキャンプ場などもあり、ファミリーで楽しめるスポットとなっています。



⑧藻琴山登山口からの眺望

全国「自然１００選」に輝いた藻琴山は、その山容もさることながら、山頂からの眺めもまた息をのむ美しさで、眼下には屈斜路湖が広がります。豊かな自然が息づく山は、麓から頂上までの丸ごと全部をアウトドアフィールドとして楽しめます。

畑と草地が重なっているように広がっており、爽やかな風が吹き抜ける登山口からの眺望は大地の雄大さを実感できます。

藻琴山の標高はちょうど１０００ｍ。東藻琴コースは６合目まで車で行くことができ、そこから頂上まで約２㎞の道程です。子どもの足でゆっくり歩いても１時間程度で山頂までたどり着くことができます。運が良ければ、眼下に広がる雲海を見ることもできます。

また、藻琴山を源とする水は「銀嶺水」と呼ばれ、水質日本一の折り紙付きの名水です。



○町のご当地キャラ紹介

大空町のご当地キャラであり観光大使でもある「そらっきー」。名前の由来は、大空町の「空」と飛行機の「機」を組み合わせ、さらに英語にすると「So Lucky」の意味も込めて名付けられました。現在のそらっきーは二代目で、もっと世界を飛び回るために両翼にジェットエンジンを、みんなが乗れるように機体に窓を、そして町のことを世界中に広めるために尾翼に町章をつけ、２０１４年にリニューアルしました。

イベントに登場すると写真攻めに合うほど、多くの人に愛されているキャラクターです。

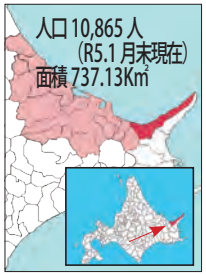
町の公式ＬＩＮＥ「そらっきーのつぶやき」では、毎週金曜日17時に町のイベント情報などを発信しています。そらっきーの豆知識が聞けるかもしれません。

●お問い合わせ
○大空町役場　〒０９９－２３９２　北海道網走郡大空町女満別西３条４丁目１番１号
ＴＥＬ：０１５２－７４－２１１１（代）　ＦＡＸ：０１５２－７４－２１９１
E-mail：info@town.ozora.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.ozora.hokkaido.jp/

おおぞら
大空町のご紹介

斜里町とは

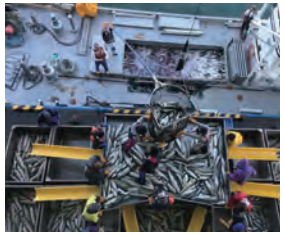
○概要



斜里町の農家1戸あたりの経営面積は35を超えています。日本はもとより、北海道の水準を大きく超え、ヨーロッパに匹敵します。日照に恵まれた斜里平野は、十勝平野と並ぶ日本の穀倉地帯です。一方、斜里町の海岸に広がるオホーツク海は世界有数の漁場といわれ、サケ・マスの漁獲量は日本トップクラスです。北半球で流氷が押し寄せる最南端の場所のため、冬の間は自然の禁漁期間となります。オホーツク海の豊かさをつくっている流氷が運んできた栄養が注がれ、自然豊かなサイクルを生み出しています。

斜里町では広大な農地と恵まれた自然条件を生かした農業が営まれ、馬鈴薯、てん菜、小麦の畑作三品が作付面積のおよそ8割を占め、このほかにニンジンやタマネギ、豆類などが作付けされています。酪農畜産も行われ、生産額のおよそ1割を担っています。

斜里町の総面積のうち、およそ78%が森林で占められており、森林のもつ公益的機能は空気や水の浄化作用、治山、治水、さらに地域の環境保全にも大きな役割を果たしています。このような機能を維持しながら、有効な森林資源を将来に引き継いでいくために「造林、植栽、保育」の森林サイクルを通じて、健全な森づくりを推進しています。



知床連山のふもと、開発の危機にあった開拓跡地を、多くの善意によって買い戻そうとしたナショナルトラスト運動である「しれとこ100平方メートル運動」は、世界自然遺産登録の要因となりました。現在は運動地の買い取りを終え、運動は太古の森を数百年の歳月をかけて復元する取り組みを行っています。

斜里町の水産物を代表するのは、定置網漁による



サケ・マスです。特に秋サケの市町村別漁獲量は日本トップクラスを誇ります。サケ・マスのほかにも、ホッケやキチジ、毛ガニ、ウニ、貝類などの豊富な魚種が水揚げされており、市場でも高い評価を得ています。

知床の大自然をはじめとして、ウトロ地区の温泉や北の味覚など、観光地としてさまざまな魅力を備えている斜里町には、年間およそ120万人の観光客が訪れます。北海道を代表する観光地となっている斜里町の観光は、農業、漁業と並ぶ基幹産業です。道内外はもとより、海外からの観光客も多く、世界自然遺産の魅力に深く触れようと、従来からの景勝地観光だけではなく体験型観光を楽しむ人も多くなっています。観光の中心はウトロ地域ですが、峰浜地区にあるまっすぐな道がはるか遠くまで続き、その先が天まで続いているように見える「天に続く道」も近年人気の観光スポットです。



斜里町は青森県弘前市と友好都市です。7月には弘前市との交流から伝授された大小のねぷたが2日間にわたって斜里市街を練り歩きます。金・土曜日の日中には商店街を中心に「しれとこ夏まつり」も開催されます。

町の取組み

～斜里町と関係のある人を増やす～

【テレワーク】

斜里町では、まちの応援団＝「関係人口」を増やす取り組みを進めています。

知床世界自然遺産を有し、自然環境に恵まれた斜里町は、しれとこ100平方メートル運動といったこれまでの実績もあり、関係人口をさらに拡大しうる可能性を秘めています。テレワークがコロナ禍における新しい働き方として脚光を浴びている中で、地方でも都会と同じ仕事ができるとの認識がワーケーションという働き方・生き方を含めて拡大しています。



テレワーク環境として、大自然に隣接しているという地域の特性を生かして、都市部にはない仕事環境を整えています。日ごろ自然に触れる機会が少ない人が、ストレスの少ない環境で生産性を高め、効率よく仕事ができるスペースを提供しています。平日はいつも通り働いて、休日はアウトドアやドライブで知床の自然を満喫するといった首都圏では難しい生活も実現可能です。また、全国各地から訪れる多くのテレワーカー（テレワークで働く人のこと）と地域との交流を通じて、新しい仕事や雇用が創出されるなど、様々な分野への波及効果や地域の活性化を目的のひとつとしています。

「ブランディング事業」、「テレワーク推進事業」をさらに発展させるとともに、ふるさと納税を通じた寄附者とのつながりも大切にしながら、新たな関係人口の創出、拡大を図っています。

【ふるさと斜里会】

「ふるさと斜里会」は斜里町出身者や斜里町にゆかりのある皆様が集う会です。オホーツク管内やその近郊の方の「北見斜里会」、札幌市やその近郊の方の「札幌斜里会」、東京都や関東近郊の方の「東京斜里会」があり、多くの皆様にご参加いただいています。

随時会員を募集していますので、ご本人の入会をはじめ、ご家族、友人、知人等を「ふるさと斜里会」へご紹介ください。斜里町役場より各ふるさと斜里会事務局へお取次ぎいたします。

○ふるさと納税（寄附）

斜里町ではこれまでナショナルトラスト運動である「知床100平方メートル運動」を主として知床の森を守る活動の支援金として寄附金を受領してきました。令和2年より返礼品付きふるさと納税の受付を開始し、特産品である鮭やいくら、毛ガニ、にんじんジュースをはじめとした食料品だけではなく、ホテルの宿泊チケット等の斜里町にお越しいただいた際に利用できる商品も提供しています。いただいた寄附金は7つの基金に分類し、環境保護、産業振興、子育て支援等様々な事業に活用しています。多くの寄附先の中から斜里町をお選びいただき感謝申し上げます。これからも皆様に選んでもらえる町であり続けられるよう充実した返礼品を取り揃えてまいりますので、ご支援お願いいたします。



返礼品の一例
「にんじんジュース」



返礼品の一例
「毛ガニ」

「SHIRETOKO SUSTAINABLE ～海と、森と、人～」

観光スポット

アイヌ語で「地の果て」を意味するシリエトク、知床半島に位置する斜里町は、日本最後の秘境とも言われ、太古の自然をそのまま残す知床には、海に森に、野生動物の楽園が広がっています。



残雪と新緑のコントラストに包まれる春、多くの花で彩られる夏、湖面に映る紅葉の鮮やかさに息をのむ秋、最も厳しく美しい流氷の冬と知床は四季折々にその表情を変えてゆきます。

野生動物の気配を感じながらゆっくりと歩き、眺め、触れ、耳を澄ませ、息を吸い込むといった五感をフルに使い「体で感じる世界遺産」それが知床です。

～知床を楽しむ 夏のアクティビティ～

【ウォーキング・1時間程度】

気軽に知床の大自然を体感できるのがウォーキングの魅力です。知床自然センターでヒグマの出没情報などを入手して、海に向かうフレペの滝コースと、森の中を歩く開拓の光のない、とっておきの場所から夜空を見上げるツアーも開催しています。

【散策（知床五湖高架木道）】

車いすでもベビーカーでも利用可能な高架木道は、予約不要・無料で知床五湖を歩けます。きれいに整備された木道は全長約８００ｍで、高架木道には電気柵が張り巡らされているため、もしもヒグマが出現しても安全です。

【沢あそび（カムイワッカ湯の滝）】

温泉の滝、と聞いて驚かれる人も多いと思いますが、知床を代表する秘湯・天然の大温泉です。岩場を歩くため靴下などの装備は必須です。カムイワッカ湯の滝への道路は、５月から10月下旬にオープンし、観光シーズンとなる８月は混雑防止のため自家用車の乗り入れが規制される期間が黄山の山肌や、連なる尾根など絶景が楽しめます。道がしっかりと整備されているわけではないので、注意が必要です。山頂で宿泊するコースなので上級者向きです。

～知床を楽しむ 冬のアクティビティ～

【スノーウォーキング】

気軽に知床の冬の大自然を体感できます。知床自然センターでスノーシューのレンタルもしています。積雪や天候の情報などを入手して、海へ向かうフレペの滝コースと、森の中を歩く開拓小屋コースがあります。どちらも予約不要で、１時間程度なので初心者でも楽しむことができます。

【スノートレッキング（知床五湖／国立公園内）】

半日または１日をかけて、知床の大自然をガイドとともに楽しむことができます。知床の成り立ちや、限して、「厳冬期の知床五湖エコツアー」として特別に公開しています。スノーシューを履いて、冬の知床の大地を歩くことができます。

【流氷ウォーキング（ウトロ海岸）】

フォトジェニックなアクティビティとして最近人気が高いのが知床流氷ウォークです。毎年１月下旬から３月上旬に知床にやってくる流氷と遊べます。専用のドライスーツを着て、ガイドとともに流氷の上を歩いたり、触れたり、泳いだりできます。

【スノーファットバイク】

タイヤの幅の太いファットバイクで、プロのサイクリングガイドと流氷の接岸した海岸沿いを走ったり、雪に覆われた港や凍った滝を見に行くことができます。自転車というエコな移動手段で、知床の風を感じながら自由に巡れるのがサイクリングです。特に知床峠からガイドと疾走するダウンヒルは、最近人気のアクティビティです。レンタルサイクルで気ままに、サイクリングのプロガイドとともに体感できます。

【星空観察】

知床の美しい夕陽が沈んだあとに体感できるとっておきのアクティビティです。見上げるだけで、知床の空の美しさに驚愕できます。ガイドとともに、人工の不思議など、プロのネイチャーガイドと歩く知床は、体だけでなく想像力も刺激されます。運が良ければ、リスやキツネなどの野生動物や、それぞれの季節を彩る鳥たちに会うこともできます。

【サイクリング】

自転車というエコな移動手段で、知床の風を感じながら自由に巡れるのがサイクリングです。特に知床峠からガイドと疾走するダウンヒルは、最近人気のアクティビティです。レンタルサイクルで気ままに、サイクリングのプロガイドとともに体感できます。

【星空観察】

知床の美しい夕陽が沈んだあとに体感できるとっておきのアクティビティです。見上げるだけで、知床の空の美しさに驚愕できます。ガイドとともに、人工

【シーカヤック（知床半島）】

海面スレスレを移動するシーカヤックは、知床の海からの大自然をいちばん体感できるという人もいます。知床の海は海流が複雑なので、ガイドと遊ぶのは必須です。ぜひ一度は体験してもらいたいアクティビティです。

【登山（斜里岳／羅臼岳）】

知床は日帰りで登れる山があります。天気が良ければ山頂から知床半島の絶景が楽しめます。川の中を歩いて上る斜里岳や、長い距離をゆっくりと登る羅臼岳など、楽しみ方もいろいろあります。ヒグマの暮らす場所なので、クマ撃退スプレーの携帯は必須です。

【登山（知床連山縦走）】

羅臼岳を登り、下山せずにそのまま知床連山を屋根伝いに歩くコースです。硫

とともに楽しむことができます。特に冬の知床五湖は、１日の入園者数を制限して、動手段で、知床の冬の張りつめた風を感じられます。

○町のキャラクター紹介 知床のシンボルキャラクター 知床トコさん

トコさんは知床生まれの知床育ち、世界有数のヒグマの生息地だから当然です。知床の変わらぬ自然を愛してやまないトコさんは今日もリュックを背負って、知床の山々をトコトコとトレッキングしています。自然と人間の共存を、いつも願っているそうです。



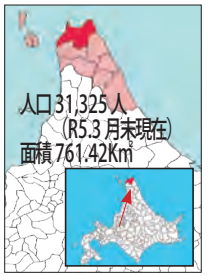


いろいろな種類のトコさんグッズ

●お問い合わせ
斜里町役場　〒０９９－４１９２　北海道斜里郡斜里町本町１２番地
ＴＥＬ：０１５２－２３－３１３１　ＦＡＸ：０１５２－２３－４１５０
E-mail：sh.kikaku@town.shari.hokkaido.jp
公式ホームページ：https://www.town.shari.hokkaido.jp/index.html

稚内市とは

○概要



稚内空港からは、東京―羽田便が通年で運航しており、羽田からは約2時間、新千歳からは約1時間とアクセス性も抜群です。

年間平均気温は8度程度、最高気温も30度を超えない冷涼な気候であることが特徴です。また、1年を通して風が強いまちであり、その地域特性を活かし、積極的に再生可能エネルギーの導入に取り組んでいます。

基幹産業は「水産」・「酪農」・「観光」であり、豊かな自然が育んだ海産物や農畜産物を「稚内ブランド」として認定し、「食」のブランド化を推進することで、その魅力を高め、産業の活性化を図っています。

○イベント

・「日本最北端わっかない平和マラソン」（9月上旬）

この大会は、1981（昭和56）年にスポーツ都市を宣言している本市が、1983（昭和58）年にサハリン沖で発生した「大韓航空機撃墜事件」による遭難者の慰霊と平和の尊さをかみしめ、世界恒久の平和を願うとともに、マラソンを通じたスポーツの普及・振興を目的として開催しています。フルマラソンの部は、日本のてっぺん宗谷岬を出発し、北海道遺産である「稚内港北防波堤ドーム」を目指すコースとなっています。



・「南中ソーラン全国交流祭in稚内」

「南中ソーラン」は市立稚内南中学校の文化活動の一環として、教師と生徒の共同作業により考案されたもので、稚内の基幹産業でもある〝水産〟をイメージし、ニシン漁の沖揚げ作業動作を取り入れた振り付けが特徴の正調のソーランを、ロック調にアレンジした踊りです。1993（平成5）年には、日本民謡民舞全国大会で大賞（グランプリ）を受賞し、その後札幌で開催されるYOSAKOIソーランへ、主催者からのオファーを受け出演したこともあります。現在では、郷土芸能として根付き、市内の幼稚園から中学校までのほとんどで、運動会等の教育的な行事や地域おこしの各イベントにおいて〝南中ソーラン〟の発表の場が設けられ、子ども達が懸命に踊る姿は、保護者や地域住民、観光客などを感動させるものとなっています。

平成21年度から3年に1度、開催されている全国交流祭には、全国各地から世代を超えた参加者が集います。



市の取組み

稚内市は、第5次稚内市総合計画で掲げる将来像「海と大地と風の恵み　人が輝き挑戦し続けるまち稚内」の実現に向け、様々な施策を進めています。

○子育て平和都市宣言

稚内市は、昭和61年に全国で初めて「子育て平和都市」を宣言し、市民が主役の「子育て運動」に取り組み、他に先駆けて充実した子育て環境を整備してきました。一人ひとりの子どもの、健やかな育ちを等しく保障することを目指すとともに、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげ、子育てや子供の成長に喜びや生きがいを感じることができるような支援に取り組んでいます。

〈主な子育て支援〉

・高校生までの医療費無料化や、給食費の助成など、子育て世帯の負担軽減を図っています！

・「子育て世代包括支援センター」を設置し、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援を行っています！

・病児保育の実施など、安心の子育て環境で、親子をサポートしています！

○環境都市宣言

稚内市では、今まで市が進めてきた環境に関する取組みをさらに進めるとともに、市民一人ひとりが環境に対する意識を一層高めるため、自ら参加・行動することを宣言し、その決意を内外に明らかにするため、「環境都市宣言」をしています。



また、2021（令和3）年2月には、2050（令和32）年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明しており、その実現に向け、再生可能エネルギーの導入拡大や省エネルギーの推進など、温室効果ガス削減の取組を進めています。

○ふるさと納税（寄附）

・いただいた寄附金は、「教育及び少子化対策に関する事業」「福祉及び医療に関する事業」などをはじめ、様々な分野で有効に活用させていただいています。

・寄付者には、お礼として、日本海とオホーツク海を結ぶ宗谷海峡で育った「カニ」、「ホタテ」や、日本のてっぺん宗谷岬牧場で生産された「宗谷黒牛」など、様々な稚内市のおいしい農水産物をお届けしています。

・詳細については、稚内市のホームページをご覧いただき、寄附のご検討をいただけますと幸いです。

← 詳細は
こちらから



人気の返礼品一例

●お問い合わせ
稚内市役所　〒097－8686　北海道稚内市中央3丁目13番15号
TEL：0162－23－6161（代表）　FAX：0162－23－3281
E-mail：kikaku@city.wakkanai.lg.jp
公式ホームページ：https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/

「日本のてっぺん稚内市」観光スポット



○日本のてっぺん　宗谷岬

日本のてっぺん宗谷岬には、毎年多くの観光客が訪れており、特に北緯45度31分22秒、宗谷岬の突端に位置する「日本最北端の地の碑」は、まさに日本のてっぺんに建てられています。また、宗谷岬には、多くのサイクリストが訪れており、旭川市を起点とし、稚内市へと延びる「きた北海道ルート」は、ここ宗谷岬がゴールとなっています。

○稚内港北防波堤ドーム

北ふ頭が旧樺太航路の発着場として使われていた頃、冬期間は通行止めとなりますが、稚内市民をはじめ、多くの観光客が訪れる観光スポットです。２０１８（平成30）年には、稚内公園からの夜景が「日本夜景遺産」にも登録されました。



○宗谷丘陵・白い道

宗谷岬の背後に広がる宗谷丘陵は、モコモコとしたなだらかな地形が特徴で、今から2万～1万年前に起こった地球最後の氷河期「ウルム氷河期」に形成された、周氷河地形のひとつといわれています。尾根と斜面がなだらかで、小さい谷が浅いスプーンのような形状は、土が凍っては融け、融けては凍るという現象を繰り返しているうち、傾斜地で流土現象が起き、斜面の上の土がえぐり取られ下の谷にそれが積み重なってできたものです。こうした地形は北海道の至るところで形成されたそうですが、開発などで破壊されたケースが多く、今なおこの美しい地形が最も顕著に見られるのは、この宗谷丘陵だといえます。２００４（平成16）年に、北海道遺産に指定されました。



また、宗谷丘陵の中にある「白い道」は、稚内フットパスである「宗谷丘陵フットパスコース（全長約11㎞）」のゴール側（宗谷地区側）約３㎞にわたり、稚内の名産である〝ホタテ〟の貝殻を砕いて敷き詰めた道です。２０１１（平成23）年以来、青い空と海、緑の草花と白い道のコントラストが素晴らしく、まるで日本ではないかのような景観が話題となり、近年ＳＮＳをはじめ、人気を増している稚内の観光スポットです。

○稚内公園

稚内市の街並みを一望できるほどの高所に立地する公園で、稚内のシンボル「氷雪の門」をはじめ、たくさんのモニュメントが設置されています。モニュメントの中には、樺太（現・サハリン）に関するものや、南極観測で知られる犬ぞりの訓練地だった場所という由来から、映画「南極物語」の題材にもされていた樺太犬にまつわる記念碑も存在し、その台座の一部には実際に南極で採取された白石が埋め込まれています。また、隣接する約50㌶もの「森林公園」は、無料のキャンプ場で毎年賑わいを見せております。稚内公園の道路は急こう配でカーブも多いことから、冬期間は通行止めとなりますが、稚内市民をはじめ、多くの観光客が訪れる観光スポットです。２０１８（平成30）年には、稚内公園からの夜景が「日本夜景遺産」にも登録されました。

○開基百年記念塔・北方記念館

開基百年記念塔は、１９７８（昭和53）年7月、稚内市の〝開基百年〟を記念して、稚内公園の丘陵上の海抜１７０ｍに建設されたもので、鉄筋造2階建の〝北方記念館〟を基部に、地上80ｍの高さをもつ鉄筋コンクリート中空型の〝記念塔〟からなっています。北方記念館は、１階と2階にわたって、郷土および樺太関係の資料が揃っています。開基百年記念塔は地上70ｍの高さにガラス張りの展望台があり、ここからは、南に広大なサロベツ原野、西は利尻・礼文の展望、そして北には宗谷海峡を隔ててサハリンの島影を捉えることができます。まさしく、３６０度の大パノラマが、海抜２４０ｍに展開し、稚内ならではの景観を楽しむことができるスポットです。

○北の桜守パーク

「北の桜守パーク」は、２０１７（平成29）年に稚内市でロケが行われ、翌２０１８（平成30）年3月10日から全国ロードショーとなった、女優「吉永小百合」さん主演の映画「北の桜守」のオープンセットを、映画の資料展示施設として活用した施設です。北の桜守パーク内の資料展示施設には、映画で使用された関係資料などが展示されています。

営業期間：４月29日～10月31日まで

○市のキャラクター紹介

「りんぞうくん」

１８０８（文化５）年4月13日、間宮林蔵は、松前奉行支配調役・松田伝十郎とともに、第1次樺太探検に出発しました。同年7月13日、第2次樺太探検のため、アイヌの船に乗って単身で出発し、トンナイ（旧真岡付近）で冬を越し、翌年５月に樺太を北上、樺太北端のナニオーまで踏査して樺太が島であることを確認しました。この時の探検地図が、後にシーボルトによって紹介され、樺太北部と大陸の間が「間宮海峡」と命名されました。



「りんぞうくん」は、世界地図にただ一人、日本人として名を残した、探検家の「間宮林蔵」がモチーフとなっており、間宮海峡の発見２００周年を記念して作成されたキャラクターです。

●お問い合わせ
稚内市役所　〒０９７－８６８６　北海道稚内市中央３丁目１３番１５号
ＴＥＬ：０１６２－２３－６１６１（代表）　ＦＡＸ：０１６２－２３－３２８１
E-mail：kikaku@city.wakkanai.lg.jp
公式ホームページ：https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/

稚内市のご紹介

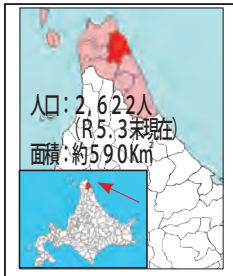
猿払村のご紹介
さるふつ

猿払村とは

○概要

人口は2700人余りのオホーツク海を望む宗谷北部に位置する『日本最北の村』です。

総面積は590㎢と広大な北海道の中で最も広い村で、全国の中では2番目に広い村です。その面積は、東京23区とほぼ同じとなります。山林や原野が約8割を占め、大小の沼や湿地帯が点在し、河川には絶滅が危惧される淡水魚「イトウ」が生息するなど、手つかずの自然たくさんの村です。



○基幹産業

「漁業」

オホーツク海に面した猿払村では、日本有数の水揚げ量を誇る天然ホタテをはじめ、毛ガニやサケ・マスが水揚げされています。猿払村のホタテは流れの早い潮に鍛えられて身がプリプリとハリがあり、オホーツクの冷たい海で育つサケ・マスは脂がのって美味しいと定評です。

また猿払村では、広大な漁場にホタテの稚貝を撒き、数年かけて育てた後に漁を行う「資源管理型」の稚貝放流事業を行っています。今では、ホタテの生産地として世界に認められるほどになりましたが、かつては資源が枯渇し、貧しい時代がありました。そんな苦しい時代を乗り越え、安定した水揚げを目指す漁業は、今や村を支える産業となっています。



「酪農」

猿払村にある広大な農地のほとんどが牧草畑で、村営牧場を中心とする酪農専業地帯が広がっています。村の最高気温は東京の最低気温とほぼ同じで、年間を通して寒冷な気候のため、寒さに強く暑さが苦手なホルスタインにとっては、好ましい気候といわれています。

近年は、新規就農受け入れ態勢の整備に取り組むほか、魅力ある農村環境づくりのため、クリーンな牛舎や生産設備の整備など、生活・生産環境を改善し、自然と調和した酪農を目指し、村民や観光客にも楽しんでもらえるような景観の設備も積極的に行っています。



猿払村の酪農は、厳しい開拓の時代を乗り越え、今日では漁業と並んで村の2大基幹産業となっています。生乳に近いのどごしと濃厚な舌触りが特徴の猿払村の牛乳は、一頭一頭個性の異なる牛たちと、その牛と日々向き合う酪農家たちの惜しみない努力から生まれています。

○イベント情報

「さるふつ観光まつり」

7月第3日曜日に村内はもとより、道内各地から多くの人々が訪れ盛り上がるむら最大のイベントです。

さるふつ公園を舞台に例年開催されるこのイベントでは、歌謡ショー・花火大会・ビアガーデン・魚のつかみどりなど趣向をこらした催しが行なわれ、北の浜の短い夏のひとときが熱気で彩られます。

また、イベントのもうひとつの目玉は、何と言っても新鮮で美味しい特産物の即売会です。これを目当てに来場される方も多く、名産のホタテ、毛がにをはじめとするふつの自慢の逸品が勢ぞろいし、お腹も大満足できます。

猿払村のご紹介
さるふつ

町の取組み

○施設園芸栽培調査研究事業

漁業・酪農に続く新たな産業の創出に向けて、令和2年度から始めた事業です。以前から村では移住施策に取り組んでいましたが、移住を検討する際には、仕事と住む場所が必要であり、そこが課題でもありました。とはいえ、猿払村には、漁業と酪農業という2本の太い柱があります。そこで、それまで村にはなかった産業の立ち上げを目指すこととし、農業に取り組むことにしました。

夏季はイチゴ、冬季は葉物野菜を育てています。現在は、どのような条件で、どのように栽培すれば、どれくらいの作物ができるのかといった具体的なデータをとり、猿払村に適した農業の仕方を模索している最中です。



育てたイチゴ・野菜は、村内のスーパーはもちろん村外でも販売しています。猿払産イチゴは、公募と地元小学生の投票により、「北ポムム」との名前がついて愛されています。

○ICTを活用した公営塾

猿払村が位置する宗谷地域の学力は、全国の中で下位に位置する北海道の中でも下位にあり、村の小学校・中学校の学力調査の結果も全国・全道の結果を下回ることが多くあります。猿払村の教育機関は、幼稚園が無く、小学校4校、中学校は1校で、高校もありません。高校には、バスで約1時間かけて通わなければならず、家を離れて旭川や札幌など都市部の高校に進学する生徒も少なくありません。都市部と比べて、学習塾の数など圧倒的に不利な環境にあり、村の中では学校以外での教育や学習機会には恵まれていないのが現状です。

これらを解決すべく、ICTを活用した個別指導学習型の公営学習塾「猿払村未来塾」を2022年4月より開校し、学習機会をつくり学びの場」を提供しています。学校だけではまかないきれない個々に応じた指導と家庭学習の質の向上や復習を基本とした指導による基礎学力の定着と向上、学習意欲や学力のある児童生徒にも学習の習熟や理解度がさらに高まる指導などを目指し、過疎地域の教育機会格差問題の解消を実現させます。

○ふるさと納税（寄附）

猿払村では、応援していただける方々の思いを実現するため、「ふるさと納税制度」による寄附金を積み立て、個性豊かな活力あるふるさとづくりと協働のむらづくりのため、「地域の歴史文化の振興」「魅力ある地域産業の推進」「自然環境の保全と共生」「地域福祉活動の活性化」「青少年の健全育成の推進」などに活用させていただいています。

返礼品は、繊維がしっかりとしていて歯ごたえのある食感と肉厚で強い甘味と旨味が特徴の「ホタテ」などの海産物のほか、搾りたての牛乳の美味しさをそのままに、まろやかで風味豊かな「牛乳」や塩分控えめで豊かな風味が特徴の「バター」、濃密さと甘さ控えめで滑らかな舌触りが特徴の「アイス」などの乳製品が人気です。

＜返礼品の一例＞





●お問い合わせ
○猿払村役場　〒098－6232　北海道宗谷郡猿払村鬼志別西町172番地1
TEL：01635－2－3131　FAX：01635－2－3812
E-mail：machidukuri@vill.sarufutsu.lg.jp
公式ホームページ：https://www.vill.sarufutsu.hokkaido.jp/

「北方に立つ個性と調和の大地　さるふつ」

観光スポット

○エサヌカ線

国道に並走するようにオホーツク海沿いに伸びた全長約16㎞の農道です。原生花園を貫くこの道路は、途中２つのクランクを除くとひたすら〝一直線〟です。周りは牧草地で電柱や看板がないため開放的な絶景に、北海道の雄大さを全身で感じることができます。

もともとは、牛乳や牧草の輸送効率向上を目的に作られた農道ですが、現在は、テレビＣＭに利用されたり、雑誌の特集になったりとメディアに取り上げられることもあります。また、村の観光ポスターに起用されるなど、村を代表する風景となっています。ライダーの間では「聖地」として有名なスポットです。

冬は通行止めとなるため、壮大な景色を拝めるのは夏だけです。



○猿払川

山間や雄大な湿原地帯を南北に流れ、大小の支流や沼を連ねてオホーツク海にそそいでいます。

中上流域は、人の手がほとんど加わっていなく、貴重な原始の流れが多く残される川です。



また、日本最大の淡水魚で、村のシンボルにもなっている「イトウ」の生息地として有名です。イトウは個体数が年々減少し、現在日本で生息が確認できるのは北海道の限られた河川のみで、絶滅危惧種に指定され「幻の魚」と呼ばれています。釣り人にとって、幻の魚ともいわれるイトウが生息する猿払川は、魅力のあるフィッシングポイントとなっています。

○道の駅さるふつ公園

広大な敷地には道の駅や宿泊施設、公衆浴場、キャンプ場、パークゴルフ場、飲食店、土産店など多数の施設があり、宿泊施設内には、村で採れた牛乳や天然ホタテ製品の販売、レストランではホタテや魚介類を使ったメニューを提供しています。

村のシンボル「インディギルカ慰霊碑」や「いさりの碑」、「さるふつ村地下歩道」など観光スポットもあり、日帰りでも宿泊でも楽しめます。



○インディギルカ号遭難者慰霊碑

１９３９（昭和14）年、暴風雪により旧ソ連の貨物船「インディギルカ号」が猿払村に座礁転覆し、当時の村民は国を超え命懸けで人命救助にあたりました。７００名以上の尊い命が失われる大惨事となりましたが、村民の奔走により４００名が救われました。

さるふつ公園には、事故で失われた尊い命を悼み、海難事故防止と国際親善の願いを込めて、手を取り合う人と心の絆を表した慰霊碑を建立しました。この碑は村のカントリーサインにも描かれています。



○いさりの碑

猿払村は、日本有数のホタテ水揚げ量を誇りますが、最初から順調だったわけではなく、かつては資源がなくなり極度の経営不振に陥った結果「日本一貧乏な村」と呼ばれた時代もありました。このままではいけないと当時の漁業協同組合と村が協力して稚貝の放流事業を行い、獲る漁業から育てて獲る漁業への転換に成功し、その後も順調にホタテが増え続けた歴史があります。

このように、猿払の海を拓いた多くの先人の苦労と偉業を偲び建てられたのが「いさりの碑」です。



○カムイト沼

アイヌ語で「カムイ（神）」「ト（沼）」の意味を持つカムイト沼は、北オホーツク道立自然公園内に位置し、日本の重要湿地５００にも選ばれています。猿払村の沿岸にいくつか点在する沼は、６０００年前の縄文時代に、海が後退したことで取り残されてできた沼です。風が吹いていないときは湖畔が鏡のように映り、神秘的で息を飲む美しさです。



○村のご当地キャラ紹介

「さるっぷ」

漁業と酪農が有名な猿払村を象徴するように、全身は牛柄で、頭には村の特産品であるホタテをモチーフとした王冠を載せた猿のキャラクターです。

身長１８０㎝、体重ホタテ90枚分、特技はダンスとホタテ貝の積み上げです。

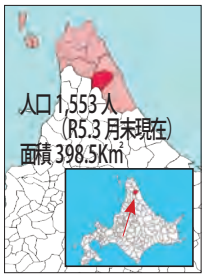
世界中の人に猿払村を知ってもらい、好きになってもらえるように日々活動しています。



●お問い合わせ
○猿払村役場　〒０９８－６２３２　北海道宗谷郡猿払村鬼志別西町１７２番地１
ＴＥＬ：０１６３５－２－３１３１　ＦＡＸ：０１６３５－２－３８１２
E-mail：machidukuri@vill.sarufutsu.lg.jp
公式ホームページ：https://www.vill.sarufutsu.hokkaido.jp/

猿払村のご紹介
さるふつ

中頓別町とは



○概要

春の訪れは遅く、平野部から根雪が消えるのは4月中旬です。冬は平野部での積雪は11月中旬からで、12月中旬には根雪が10cmを超えます。冬の冷え込みは非常に厳しく、しばしばマイナス30℃を下回る気温が観測され、全国一の冷え込みを記録する日も多くなっています。

○歴史

明治34年（1901年）、栖原民之助が入植し、開拓がはじまり、同年、砂金採取から狩猟や農耕に転ずるなど現中頓別町の礎を築きました。その後、入植者も増加し、大正10年（1921年）4月に枝幸村より、中頓別村へと分村し、自治体を形成することとなります。昭和24年（1949年）11月に中頓別町となり、現在に至ります。

○気候

○地勢

中頓別町の中央部は秀峰ピンネシリ岳（703m）を中心とした山岳地で、南西部は標高500m前後の北見山脈、東部はポロヌプリ山（838m）をはじめとする高山を持つ山岳地が広く分布し、いずれも起伏状急峻で、これから発した頓別川、兵知安川の2川が中央部を北流し、多くの支流を合わせつつ、やがて1川となってオホーツク海に注ぎます。この流域が平坦地及び段丘地を形成して農業地帯となっています。

○産業

中頓別町の基幹産業は酪農業と林業です。酪農業は、大正6年（1917年）ごろから始まっており、昭和31年（1956年）には、森永乳業中頓別工場の前身となる町営製酪工場が建てられ、酪農の町として、発展していきました。林業は、砂金に次ぐ古い産業で、大正中ごろから昭和の初めに、最も盛んでした。森林面積は、町の84％を占めており、知駒峠には、蛇紋岩地帯に生息する貴重なアカエゾマツの純林もあります。

○イベント情報

・1月　北緯45度しばれまつり



一年の中で最も寒さが厳しい1月最終土曜日に、大小の雪像が立ち並ぶ会場で「北緯45度しばれまつり」が開催されます。

冬の花火がファンタジックに夜空を染め上げます。

・6月　中頓別鍾乳洞芝桜まつり

貴重な鍾乳洞を多くの人にみてもらおうとの目的で、開催されています。

・6月　敏音知岳山開き

夏の登山シーズンが始まる6月に開催され、町内外から集まった沢山の人達が頂上を目指します。

・8月　北緯45度夏まつり

天北線メモリアルパークを会場に開催されます。

数多くの出店があるほか、当日はマラソン大会や町内のスポーツフェスティバル大会が開催されます。

・8月　砂金まつり

「砂金まつり」はゴールドラッシュの歴史を残すペーチャン川を会場に開催されます。

会場では砂金掘りが行われ、砂の中からきらめく砂金を見つけるたびに歓声が上がります。

町の取組み

○牛乳とワインづくり

6次産業化や地産地消の取り組みとして、なかとん牛乳を製造して販売を行うとともにふるさと納税返礼品としての活用をしています。

醸造用ぶどうの試験栽培を開始し、生育はおおむね順調です。将来的には、中頓別のぶどうを使用したワインの生産を目指して取り組みを進めます。

○林業の森林資源活用

民有林の機能活性化のための支援や町有林を整備することで、災害を防ぐとともに、森林や河川の自然環境を保全しています。

また、公共施設を中心に木質バイオマスボイラーを導入し、森林資源の循環活用を進めます。また、子どもたちに森の大切さや林業の仕事を伝えていきます。

○子育てしやすい環境

認定こども園を中心に、子どもたちが健康で安心して育ち学ぶための保育教育活動を展開しています。認定こども園は、保育料、給食費を無料化することで、こども園を利用しながら、子育てしやすい環境づくりを進めています。

また、「森のこども園」により野外で五感を使って遊び、生きる力の基礎を育む自然体験活動を実施したり、ネイティブスピーカーとの生活会話から英語に親しむ英語教育を実施しています。

○これからの医療福祉の体制

地域共生社会の推進のため、新たな医療体制について関係機関と協議を重ね、町立病院を医療と介護を一体的に提供できる介護医療院を併設する町立病院へリニューアルします。

○仕事と住まいをみつける

移住の際、仕事や住まいや情報はとても大切です。中頓別町版ハローワークとなる無料職業紹介所を設置、移住生活に関わる住まいと就労の情報を一元化して提供する「くらしとしごとの相談窓口」を設置しています。また住まいに関しては、役場でも情報提供を行っています。

○ふるさと納税（寄附）

本町ではご寄附いただいた方に感謝のお気持ちとしてお礼の品をお届けしております。

希少な豆を使った自家焙煎珈琲やお菓子屋さんの作るチキンカレー、町内産ブランド牛乳やはちみつなどのおいしい食べ物や飲み物を始め、町内で採れる貝化石を使った入浴剤や肥料、ハンドメイドのがま口グッズやスキー場のリフト券など様々なものをご用意しています。

また、いただいた寄附金は豊かな自然環境の保全や教育、医療福祉の向上、地場産業の振興に関わる事業に活用させていただきます。

ご興味のある方はこちらをご覧ください。

担当課　政策経営課　ふるさと納税担当
連絡先　☎01634・8・7671
mail：kikaku@town.nakatombetsu.lg.jp

↑
詳細はこちらから



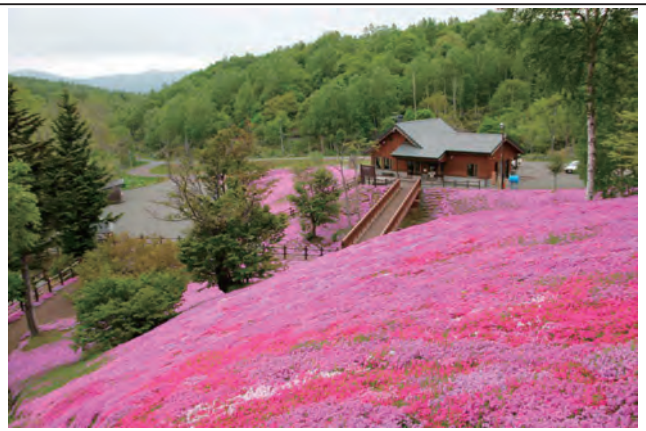
人気の返礼品一例
「ヤマフクコーヒー」

●お問い合わせ
中頓別町役場　〒098－5595　北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
TEL：01634－6－1111　FAX：01634－6－1122
E-mail：info@town.nakatombetsu.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/

中頓別町のご紹介

「小さな中頓別のしあわせをデザインする」

観光スポット



○中頓別鍾乳洞自然ふれあい公園

中頓別鍾乳洞自然ふれあい公園は、北海道天然記念物の中頓別鍾乳洞をはじめ、季節ごとの動植物と触れ合える自然豊かな公園です。園内には、自然散策ができる複数の遊歩道が整備されています。園内の奥にある中頓別鍾乳洞は、およそ1000万年前に北の海に生息していたフジツボなどの貝類が堆積してできた、貝殻石灰岩に形成された珍しい鍾乳洞です。



鍾乳洞が発達するほど外気よりとても涼しく感じる気温に保たれていますので、ぜひ体験してみてください。

6月上旬には中頓別鍾乳洞芝桜まつりが開催され、バーベキューコーナーや各種イベント、町内飲食店等の出店、芝桜の夜間ライトアップが実施されます。

中頓別鍾乳洞自然ふれあい公園の開園期間は5月から10月末、開園時間は午前9時から午後4時30分（午後5時閉園）です。

【お問い合わせ先】
01634・6・1299
（公園管理棟ぬく森館）
・不在の場合
01634・8・7663
（中頓別町役場産業課商工労働・観光まちづくりグループ）

○道の駅ピンネシリ

道の駅ピンネシリはオホーツク海へと北上する国道275号沿いにあります。



道の駅に隣接しているピンネシリ温泉やキャンプ場、コテージ等の利用の他、砂金掘り、カヌー体験などの受付を取り扱っており、中頓別町の旅の拠点となっています。

道の駅内の物販コーナーには、地元で生産された「なかとん牛乳」や、これを原料に製造されたプリン、お菓子、地域の特産品を販売しています。



「なかとん牛乳」は町内の酪農家が生産した良質な生乳の風味を生かすため、低温殺菌とノンホモジナイズで製造しているこだわりの牛乳ですので、ぜひお試しください。

開館時間は午前9時から午後5時まで（道の駅スタンプの押印時間も同じ）、休館日は年末年始（12月30日から翌年1月3日）

【お問い合わせ先】
01634・7・8510
（一般社団法人なかとんべつ観光まちづくりビューロー）。



山者も増えてきています。

下山後に利用いただきたいのは、道の駅の向かいにあるピンネシリ温泉です。疲労回復、神経痛やストレスによる諸症状に効能があり、入浴後は体の芯から温まり肌もすべすべになる、地元民にも親しまれている温泉です。

※入山される方は、十分な装備を準備していただき、道の駅の入り口に設置している入林届に必要事項を記入していただきますようご協力をお願いいたします。



8月中旬に開催される砂金まつりには、道内外各地からの来場があります。

会場期間は7月20日から8月25日（予定）、体験料無料、道具貸出料は500円。

【お問い合わせ先】
01634・7・8510
（一般社団法人なかとんべつ観光まちづくりビューロー）。



○敏音知岳

中頓別町の中心に位置する標高703mの山です。道の駅の裏手にある登山道の入り口から山頂までは約4km、2時間ほどの道のりは登山初心者にもおすすめで、山頂からは東側にオホーツク海、西側に利尻富士、北側の遠方にはサハリンが眺望できます。

湿度と気温が低い地域であるため、冬季間の雪質が良く、パウダースノーを求めてバックカントリーの入山される方は、冬山の危険性を十分にご理解の上、装備や天候、積雪状況の判断、装備等の準備に万全を期すようお願いします。

○ペーチャン川砂金掘体験場

中頓別町ができるきっかけとなった明治30年（1897年）頃のゴールドラッシュは、あっという間に終わってしまいましたが、当時砂金が採取されていたペーチャン川では、今でも砂金を見つけることができます。

中頓別町を訪れていたライダーが、数年間かけて砂金を集めて指輪を作り、恋人にプロポーズしたという逸話があります。

ペーチャン川に開設する体験場には管理人が在中し、ゴールドパンなどの道具貸出（有料）や採取の指導をしており、気軽に砂金掘り体験を楽しむことができます。

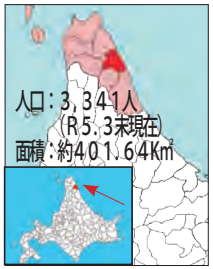
●お問い合わせ
中頓別町役場　〒098－5595　北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
TEL：01634－6－1111　FAX：01634－6－1122
E-mail：info@town.nakatombetsu.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/

浜頓別町とは

○概要

浜頓別町は、宗谷管内南部に位置するオホーツク海に面したまちです。町の72％が山林・原野という、豊かな自然環境に恵まれています。

気候は、オホーツク海の影響を受けるため年間を通して概ね冷涼ですが、冬期間の降水量（降雪量）は、比較的少ない状況です。一方、南西の風の影響が多く、道内でも風の強い地帯となっています。



○歴史

日本の最北端に近い浜頓別町は、発見された遺跡や出土品から5～6千年前から遠くサハリン・沿海州と密接に関わり、北方からの人や文化の玄関口であったと推測されています。5世紀ころには、サハリンから北海道のオホーツク海沿岸部にやって来た人々が独自の文化を築き始め、のちのアイヌ文化にも影響を与えたと考えられています。

明治20年代は景気の停滞で一時的に恐慌が起こるなど人々の生活が不安定な中で砂金掘りに生涯を掛けた人々が盛んに北国の山野を駆けめぐっていました。1898年に、頓別村のウソタンナイ上流一帯に大規模な砂金産出地が発見されると全国から5万人もの採集人が殺到し、空前のゴールドラッシュが沸き起こりました。当時、大規模なゴールドラッシュで沸いた力ナダのクロンダイクに匹敵するものとして「東洋のクロンダイク」と呼ばれ、一躍世界にその名が知られるようになりました。しかし1902年ごろから砂金産出量が急激に減少し、各地からの出稼ぎ者がこの地に定着して農業をはじめる人植者が増えました。

○基幹産業

浜頓別町の基幹産業は農業と水産業です。

昭和に入り、連続する冷害・凶作で畑作が大打撃を受け、1955年ごろより畑作から酪農への大幅な転換が図られ、現在の酪農中心の農業が確立されましたが、最近では、酪農のほか、畜産や蕎麦の栽培も始まり、町の新たな特産品となりました。



水産業は、ニシン漁やホタテ漁で明治から大正にかけて隆盛を誇っていましたが、乱獲による資源の減少などから守り育てる漁業へ転換されていきました。昭和初期にはすでにニシンの人工ふ化やほたて稚貝の放流に取り組み、現在では、頓別漁港・斜内漁港の2つの漁港で、ほたて貝、さけ、ます、毛がにの水揚げなど、安定した漁業経営が行われています。



○イベント

・クッチャロ湖　湖水まつり（7月）

浜頓別町の夏の風物詩・湖水まつりでは、水上丸太渡りレースや湖上トレジャーハントなどの催し物が行われ、多くの人々で賑わいます。夜は湖上に咲く花火が人気で、農産物や水産物の即売もあります。

・ウソタン砂金フェスティバル（8月）

かつてのゴールドラッシュを偲び、ウソタンナイ砂金採掘公園で開催されます。川での砂金掘り体験や木工教室など、ウソタンの自然と歴史を満喫できます。

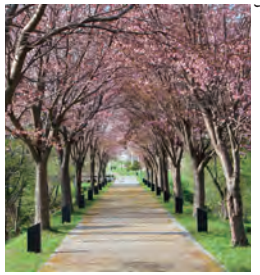
・ふるさとまつりin浜頓別（10月）

美味しさと楽しさあふれる浜頓別の秋の祭典「ふるさとまつり」は、水揚げされたばかりの浜頓別産の新鮮な鮭やほたてをはじめ、水産加工品や農産品、工芸品など様々な展示販売コーナーが魅力です。

町の取組み

○第6次浜頓別町まちづくり総合計画（2019年度～2028年度）

キャッチフレーズを「住み続けたいまち　かえりたいまち　輝くふるさと　はまとんべつ」として5つを基本目標に設定しています。



・自然環境と調和した快適で住み良いまちづくり

北オホーツク道立自然公園やラムサール条約登録湿地指定されているクッチャロ湖などの雄大な自然環境を有していることを踏まえ、豊かな自然環境や景観、そこに生息する野生動植物の保護を図りながら、再生可能エネルギーの推進や自然環境に影響を与える公害の防止、環境保全・美化等の施策を推進します。

・こころが通いあい安心して暮らせるまちづくり

人口減少が進行している本町において、子育て世代が子どもを安心して産み育てられるよう、こども園や子育て支援センターを中心とした子育て環境や出産への支援体制の充実を図る施策を推進します。

・いきいきとした産業で潤いのあるまちづくり

本町が有する地域地場資源を有効に活用した農業、林業、水産業、観光の振興を図るとともに、これら産業と連携した商業、工業の振興を図り、元気で持続可能な産業振興による地域経済社会の充実を図る施策を推進します。

・個性豊かな人づくりと文化を育むまちづくり

本町の未来を担う児童・青少年が健全に育ち、人を思いやる豊かな心や郷土を愛する心を育む人づくりに努め、町民一人ひとりがいつでもどこでも学ぶことができ、その成果を地域社会で活かすことのできる環境づくりを進めるため、学校教育の充実を図る施策を推進するとともに、生涯を通じて積極的に学び、その成果が喜びとなって還元されることをしっかり実感できるよう社会教育、スポーツの充実を図る施策を推進します。

・みんなで創る元気で明るいまちづくり

住民にとって最も身近な地域の活動が活発に行われるよう、コミュニティ活動の促進を図るとともに、住民と行政が協働するまちづくりを図る施策を推進します。

○ふるさと納税（寄附）

いただいた寄附金は「豊かな自然環境を活かしたまちづくり」「安全で安心してくらせるまちづくり」「いきいきとした産業が根づくまちづくり」「個性豊かな人づくりと文化を育むまちづくり」「みんなで創る明るいまちづくり」「寄附者の意向を反映した事業」に活用させていただきます。

寄附者には、ホタテ玉冷、ホタテ干貝柱、燻製ホタテ、毛ガニ、いくら、鮭の飯寿司などの鮭加工品、毛蟹の鉄砲汁、タコ・イカの酢味噌和え、蕎麦、すきやき用肉、焼肉用肉、ジンギスカン、いちご、アイスクリーム、カタラーナ、ホタテまんじゅう、はまとんべつ温泉ウイング入浴券、北竜町のお米とコラボした毛蟹丼セットやホタテ丼セットなどがあります。

＜返礼品の一例＞





●お問い合わせ
○浜頓別町役場　〒098－5792　北海道枝幸郡浜頓別町中央南1番地
TEL：01634－2－2345　FAX：01634－2－4766
E-mail：machizukuri@mail.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp
公式ホームページ：http://www.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp/

「とこトン　ハマる　とくべツなまち」

観光スポット

○クッチャロ湖

１９８９年に国内第３番目のラムサール条約に指定された道北最大の湖「クッチャロ湖」は、周囲約30㎞のかん水湖で、大沼（直径5.5㎞）と小沼（直径3.0㎞）の２つの沼が細い水路によってつながり、変形したひょうたん型をしています。平均水深1.5ｍと浅く標高が低いため、約３㎞離れたオホーツク海の海水が、満潮になると入り込みます。

日本とロシアを渡る水鳥達の重要な中継地で、約３００種の野鳥が記録されています。特に春と秋の渡りの季節に、数千羽のコハクチョウと数万羽のカモ類が観察できます。冬には、天然記念物のオジロワシやオオワシの姿も見られます。春になるとハクチョウたちは、恋の季節を迎え、ペアは絆を確かめるために「ハッピーリング」を作ります。このハート型の求愛ポーズを見ると幸せになると言われています。



４月下旬～10月ごろは、湖畔のキャンプ場が日本各地から来たキャンパーたちで賑わいます。目の前に広がるクッチャロ湖を眺めながらのバーベキューは最高です。泉質が国内トップレベルで美肌効果が高いといわれる温泉施設も近隣にあり、日帰り入浴の利用もできます。トイレ、ＥＶ車電源、炊事場、コインランドリー、ごみ捨て場などの設備も充実しています。（車中泊も可能です）



また、カヌーやウインドサーフィンを楽しむ人も多くいます。湖の平均水深が1.5ｍと比較的浅いため、初心者の方も安心して遊ぶことができます。

夕方になると夕日が湖に沈む様子がとても美しく、多くの人の心を癒します。

○水鳥観察館

正式名称は、「浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館」で、ラムサール条約登録湿地において、湿地の価値の普及啓発および水鳥・湿地のモニタリングの拠点を目的として、クッチャロ湖の湖畔に１９９５年５月に環境省により設置されました。

館内に設置されている野外カメラや望遠鏡を利用しながらゆっくりと湖にくる野鳥を観察することができます。春と秋には、渡りの途中のコハクチョウたちが見られ、夏にはアオサギやカワセミの姿も見られます。また、館内の写真パネルやビデオによってクッチャロ湖の四季の様子も紹介しています。

鳥類だけではなく、クマやシカのはく製も展示しています。

（開館時間：９時～17時、休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始、入館料：無料）



○ベニヤ原生花園

ハマナスをはじめ、エゾカンゾウやヒオウギアヤメ、スズランなど１００種類以上もの草花が群生する約３３０haの原生花園です。彩り鮮やかな大地とオホーツクブルーの海が一度に楽しめる美しい観光スポットで、花の見ごろは６月上旬から８月中旬ごろまでです。中でも７月上旬ごろに咲くノハナショウブの群生が見どころです。



６月～９月はフラワーガイドが常駐しており、見どころの花や見落としがちな花を教えてもらえます。

原生花園全体を見渡せる高さ10ｍの展望台もあり、悪天候時でも楽しむことができます。

日本では道北だけでしか繁殖していないツメナガセキレイなどの野鳥も多く草原生の鳥たちの歌声も楽しめます。

（営業時間、定休日に関しては役場産業振興課 ０１６３４－２－２３４６ までお問合せください）

○ウソタンナイ砂金採掘公園

砂金採掘公園では実際に川に入り、日本古来の砂金掘り道具である、砂利と砂金を分けるゆり板、砂利をすくうカッチャを使った本格的な砂金採掘体験ができます。また雨天時や時間のない方には、ゴールドパンと呼ばれるプラスチック製の皿を使った水槽掘りも体験できます。砂金掘り体験は常駐のインストラクターがサポートしてくれるのではじめての方でも安心です。採れた砂金は持って帰ることができます。



キャンプ場も併設されており、川のせせらぎを聞きながらバーベキューなどを楽しむことができます。

（営業時間、定休日に関しては役場産業振興課 ０１６３４－２－２３４６ までお問合せください）

○北見神威岬（日本国指定名勝）

枝幸町との境界にある標高４３９ｍの斜内山から海に突き出た岬です。山道を通り突端へ出ると輝くオホーツク海の雄大な風景が広がります。１９９９年までは国道２３８号線が岬にそって敷設されていましたが、岬を貫く北オホーツクトンネルが開通したため、浜頓別町側は町道斜内山道線、枝幸町側は町道神威岬線となりました。

１９８５年までは、岬を通る斜内山道を国鉄興浜北線が通っていましたが、現在は海岸沿いを走る車道から一段高い位置に段が残っており、かつての鉄路の後が確認できます。

○浜頓別町のご当地キャラ「スワットン」

時は縄文時代。先住民たちは、厳しい寒さと飢えに耐えて暮らしていました。そんな中「幸せを運ぶ妖精・スワットン」が突然現れ、おいしい食べ物と温かい羽毛をもたらし消えていきました。以来、先住民たちは、豊穣や多産、災厄払いを祈願して「土偶」ならぬ「スワットン土偶」を作り、集落の守り神として崇めていました。

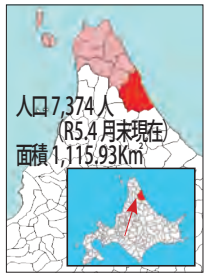
以降、浜頓別町にスワットンが現れることはなく、いつしか存在すら忘れられていましたが、浜頓別町政施行60周年、開村95周年、庁舎建設10周年の記念にあたり浜頓別町に幸せを運ぶべく、満を持して登場しました。



●お問い合わせ
○浜頓別町役場　〒０９８－５７９２　北海道枝幸郡浜頓別町中央南１番地
ＴＥＬ：０１６３４－２－２３４５　ＦＡＸ：０１６３４－２－４７６６
E-mail：machizukuri@mail.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp
公式ホームページ：http://www.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp/

枝幸町とは

○概要



枝幸町は、宗谷管内の最南部に位置し、海岸線が南北に約58㎞、面積は1116㎢を擁する広大な土地が広がり、町の面積の約８割を占める森林とオホーツク海に囲まれた自然と共生する町です。

気候は枝幸地域の海岸部と歌登地域の内陸部では局地的な特徴があり、海岸部では夏は比較的涼しく、内陸部では流氷が接岸するようになると、氷点下30℃を下回る全国有数の極寒地となり、海岸部と内陸部の気温差も大きく、積雪深も山間部では３ｍ以上に達します。

２００６年３月に、旧歌登町と旧枝幸町の２町合併により新たな「枝幸町」が誕生し、〝こころが結ぶ『森と海』優しさと活気あふれる北の理想郷〟を新町の将来像としてまちづくりを進めています。

○産業

枝幸町は一次産業が盛んな町で、漁業は、ホタテ貝・秋サケ・毛がにほかの沿岸漁業を中心として行われ、稚魚や稚貝を育てて海へ戻す栽培漁業と、魚介を獲る量や大きさを制限する資源管理型漁業を推進することによって、漁獲量・漁獲金額とも堅調に推移しています。その中でも、毛がには水揚げ日本一を誇り「かにの町えさし」として全国にその名を響かせており、枝幸ホタテ貝は、２０２１年３月に地域団体商標を取得し、全国初のブランドホタテ「枝幸ほたて」として、ふるさと納税返礼品や海外への輸出など、販路・消費拡大に力を入れています。

酪農を中心とする農業では、担い手育成と安定的な生乳生産を目指し、新規就農者誘致活動や農業後継者の育成、効率的で収益性の高い農業を目指して、公共育成施設・農道・近代化施設などの整備・充実を図り、安全で優良な生乳を全国に届けています。

林業は、町の面積の約８割を占める森林の有効活用を目指し、森林がもつ水源涵養、自然環境の保全などの多面的機能が十分発揮されるよう、治山事業、林道網の整備のほか、新植・保育・間伐などの森林整備事業を推進するとともに、近年では公共施設への地域材の積極的な活用にも取り組んでいます。

○イベント情報

・枝幸かにまつり

毎年７月の第１日曜日に開催される枝幸町最大のイベント「枝幸かにまつり」には、毛がに水揚げ日本一を誇る「枝幸の毛がに」を求めて全国各地から大勢の人が訪れます。

会場には、毛がにが特価で購入できる即売コーナーをはじめ、名物グルメ「毛がに汁」や「かに飯」などを味わえる飲食コーナーなどがあります。ステージでは「かに早食い競争」や「毛がにが当たる抽選会」「歌謡ショー」などで賑わいます。この他まつりには、大漁旗をなびかせ勇壮に行われる「漁船パレード」やＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭りで数多く大賞に輝く、枝幸町ふるさと応援大使の「夢想漣えさし」が毎年華やかな演舞を披露しています。

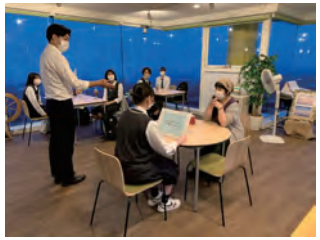


町の取組み

○ふるさと教育推進プロジェクト

枝幸町では、高校生を地域コミュニティや地方創生に活力を与える重要なプレイヤーとして育成するため、地元唯一の高校である北海道枝幸高等学校を地域の拠点と位置付け、高校の魅力化推進とともに、人材育成と担い手確保のため「ふるさと教育」の取り組みを進めています。

学校内にＩＣＴ教育環境の整備を図るとともに、枝高生を対象とした公営塾を２０２１年から開設し、個別学習指導を基本として学力向上に貢献するほか、キャリア教育やゼミ活動などを通じて新たな「ふるさと教育」を展開しています。



今後は、公営塾の充実や地域とつながるふるさと教育の推進を図りながら、地域を想い、必要とされる人材育成を行い、ＵＩターンなどの「ふるさと回帰」ネットワークを構築し、地域の担い手を確保する取り組みを進めています。

○エゾシカなど有害鳥獣の枝幸式発酵減量法

２０１０年に枝幸町・漁協・農協・森林組合が連携し民間機関の専門的技術支援のもと、コストをかけずに、農林水産業から排出される産業廃棄物を利活用する協働の取り組みとして「好気性発酵技術」を開発するとともに、「ホタテ貝殻のたい肥化」や「ホタテウロの減量化」に成果をあげました。

また、その技術を更に応用して、エゾシカやクマ、海岸に打ち上げられた大型海獣などの死骸を処理する「枝幸式発酵減量法」が生まれ、機械設備と微生物、町内の未利用資源のみを原料とした処理技術を２０１１年に確立し特許を取得しました。

現在では、年間１２００頭程捕獲するエゾシカのほか、ヒグマやアライグマなどの有害鳥獣の処理にも対応しています。

枝幸町では、有害鳥獣の処理がこれまでよりも効率的で低コストの処理方法に替わり、その方法が正しく普及するよう、町ホームページでマニュアルを公開しています。

○ふるさと納税（寄附）

毎年多くの方々からご支援をいただき、寄附金は「まちづくり」「子育て・教育」「福祉・医療」の各事業で大切に活用させていただいています。

寄附者の皆様には、オホーツク海の栄養をたっぷりと受け、甘みや旨みが詰まった「枝幸ほたて」をはじめ、濃厚ミソが自慢の「毛がに」など、枝幸を代表する特産品の数々をお礼の品としてお届けしています。

また、枝幸式バルク輸送による返礼品発送など、ふるさと納税における物流効率化の取り組みも進めており、ふるさと納税と地場産業のつながりによる「地域経済の好循環サイクルの確立」を目指しています。

詳しくは、ふるさと納税特設サイトをご覧ください。

↑
詳細はこちらから



人気の返礼品一例
「枝幸ホタテ」

●お問い合わせ
枝幸町役場　〒０９８－５８９２　北海道枝幸郡枝幸町本町９１６番地
ＴＥＬ：０１６３－６２－１２３４　ＦＡＸ：０１６３－６２－３３５３
E-mail：町ＨＰ「お問い合わせフォーム」をご利用ください
公式ホームページ：https://www.esashi.jp

「森と海が融合する 自然豊かな町 枝幸町」

観光スポット

○神威岬



隣接する浜頓別町との境界にそびえ立つ岬で国の名勝にも指定されています。アイヌ語で「カムイ・エトゥ（神の岬）」「カムイ・エト（神の鼻）」と呼ばれ、その景観は、木々や花々などが四季折々に神秘的な表情を現します。オホーツク海に突き出るような地形の岬は、日高山脈と繋がっており、岬の中腹には白黒模様の神威岬灯台や廃線となった興浜北線（こうひんほくせん）の名残もあります。

近くには、オホーツク海と神威岬を一望できる公園もあり、車のＣＭロケ地にも選ばれた抜群のドライブロケーションです。

○ウスタイベ千畳岩



その名のとおり、一面に畳を敷き詰めたような岩が波打ち際まで広がるように見えます。

○三笠山展望閣



枝幸町のシンボル、三笠山（標高１７２ｍ）の頂上にある真っ白な建物が「三笠山展望閣」です。３６０度の大パノラマで枝幸の街並みや雄大なオホーツク海、果てしなく広がる山々が一望できる絶景スポットです。

２階にはカフェラウンジが併設され、四季折々に変わる町の変化を眺めながらゆっくりとした時間を過ごすことができ、音楽イベント・フリーマーケットなども不定期で開催され、町民と観光客との交流の場となっています。

また、屋上へ行くと「希望の鐘」がありますので、ぜひあなたの願いとともに鐘の音を街中に響かせてください。

○オホーツクミュージアムえさし



枝幸町の歴史・文化・自然を総合的に展示する博物館です。枝幸町埋蔵文化財センターを併設し、入場無料で観覧できる施設内には「オホーツク文化の竪穴住居」を復元した建物のほか、国の指定重要文化財の刀剣類や装飾品を中心とした２００点以上にも及ぶ展示品を見ることができます。

館内には、体長７ｍを超える国内最大級のシャチの骨格標本が来場者を出迎え、歌登地区で発見された、絶滅哺乳類「デスモスチルス」の全身骨格標本なども展示されており、ここに来るだけで、枝幸町の歴史や文化、魅力を様々な視点から感じることができます。

○枝幸温泉ホテルニュー幸林



三笠山の麓にある天然温泉が楽しめるホテルです。温泉は湯冷めしにくく、神経痛・筋肉痛・慢性皮膚病などに効能があります。ホテルレストラン「海朱（うみあけ）」では、地元食材も使った幅広いメニューを味わうことができ、ドライブ客や旅行者の昼食・休憩にも最適です。家族旅行やビジネスなど、様々なニーズに対応できる宿泊施設になっているので、日常の疲れを癒しながらゆっくりとした時間を過ごすことができます。

○道の駅マリーンアイランド岡島



国道２３８号線沿いにちょっと目を引く船をかたどったユニークな外観の道の駅です。駅内には、海のある町ならではの地場産品直売所が設けられており、枝幸町自慢の海産物や加工品などが数多く並び、レストランでは地元食材を活かしたメニューも提供されています。

海水浴やキャンプを楽しむスポットも隣接されているため、７月から８月には多くの町民や観光客が訪れ、短い枝幸の夏を満喫しています。

○うたのぼり健康回復村



街の喧騒から離れ、心身をリフレッシュできる温泉郷で、森の中にある「うたのぼりグリーンパークホテル」には、美人の湯と言われる肌に優しい炭酸水素塩泉が有名です。このほか敷地内には、別荘気分を味わえるコテージの里、満天の星空を満喫できるキャンプ場、大自然を活かしたゴルフコースなどもあり、ファミリーやお仲間で楽しみながら、ゆっくりと過ごすことができるスポットです。

○町のキャラクター紹介「えさっしー」

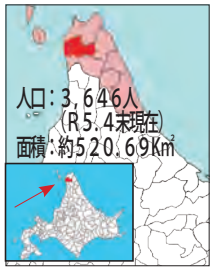
２０１１年に誕生した枝幸町マスコットキャラクター「えさっしー」は、明るく元気で誰とでも仲良くなれる男の子。枝幸の森と海が大好きで、特技の「No.１ポーズ」は、毛がに水揚げ日本一を表しています。

枝幸町観光協会では、えさっしーグッズの販売のほか、町内の観光施設に設置している大人気の「枝幸ガチャ」で、えさっしーの缶バッチが必ず当たり、２０２１年からはえさっしーＬＩＮＥスタンプの販売なども行っています。



●お問い合わせ
枝幸町役場　〒０９８－５８９２　北海道枝幸郡枝幸町本町９１６番地
ＴＥＬ：０１６３－６２－１２３４　ＦＡＸ：０１６３－６２－３３５３
E-mail：町ＨＰ「お問い合わせフォーム」をご利用ください
公式ホームページ：https://www.esashi.jp

豊富町とは



○概要

豊富町は人口約3600人の管内3番目に人口が多い自治体で、北海道の北端、宗谷総合振興局の日本海側に位置し、北は稚内市、南は幌延町、東は猿払村に隣接し、西は日本海に面しています。各市町村との境界は、起伏続きの山脈をもって連なっていますが山系は比較的低く、東方に「ポロシリ山」426m、「恵丹臼山」313mがあるのみで、その他の山々はいずれも260m以下です。

中央を流れるサロベツ川は、北見山脈に源を発するメナシベツ川、下エベコロベツ川と合流し延々蛇行し海岸地帯を迂回して天塩川に注いでいます。また、メナシベツ川、下エベコロベツ川の上流一帯は森林地帯であり、サロベツ川流域は一大平原を形成しています。

気温については、夏は涼しく、冬は北西の風が強く乾燥寒冷であり気温も年平均5度から6度と低い地域です。また、降雪は11月中旬から4月中旬までで、最深積雪も82cmになる地域です。

町の花はサロベツ湿原で観測できる「エゾカンゾウ」、町の木は「イチイ（オンコ）」です。

○基幹産業

豊富町の基幹産業は「酪農・温泉・湿原」の酪農と観光のまちです。

豊かな自然に囲まれた豊富町には、人口の約3.5倍の牛が飼育されています。



牛たちは夏の間、町営の「大規模草地牧場」に放牧され秋までのびのびと育ちます。日本海の潮風を浴びたミネラルたっぷりな牧草を食べ、ストレスなくのびのびと育った牛たちから搾った「豊富（サロベツ）牛乳」はコクがありながらもあっさりとした味わいでとても人気が高いです。「豊富（サロベツ）牛乳」はコンビニエンスストアや全国のスーパー等に幅広く出荷されており、幅広い年代層に愛されています。

観光資源である日本でただ一つの油分を含んだ大変希少な泉質を持つ「豊富温泉」と、日本最大の高層湿原であり野鳥と花々の楽園「サロベツ湿原」は他の地域にはない唯一無二の魅力があります。

○イベント情報

★豊富八幡神社例大祭

毎年6月15日に開催される「豊富八幡神社例大祭」は明治40年建立の「豊富八幡神社」の最も大きな祭事です。例大祭は2日間にかけて行われ、1日目はビンゴ大会やお楽しみ抽選会。2日目「本祭」は豊富町八幡神社から個性豊かなたくさんの神輿が一斉に町を練り歩きます。イベント会場の定住支援センター（ふらっと★きた）前には屋台などが出店され、子どもたちが多く訪れます。

★サロベツ納涼花火大会（商工夏まつり）

毎年8月に開催される「サロベツ納涼花火大会（商工夏まつり）」は豊富町自然公園でおこなわれる夏の祭典です。昼間には地元の和太鼓の演奏やビンゴ大会がおこなわれ、夜には花火が打ちあがります。

花火には「とよとみくんの絵日記」など可愛らしい創作花火が多く打ちあがり、夏の豊富町の夜空を彩ります。また、夏ごろの「豊富町自然公園」は山の上にある「とよとみ」の文字がライトアップされており、花火とともに楽しめます。夏の風物詩をぜひ豊富町で楽しみませんか。



町の取組み

○第5次豊富町まちづくり計画（2019年度～2028年度）

豊富町のまちづくりミッションを「つなぐ」とし、人と人、人と地域、人と産業をつなぐことで、さまざまなつながりから持続可能なまちづくりを進め、そして豊かなまちを次世代につないでいくことを定めました。まちづくりの基本目標としては「既存産業の持続発展と新たな創造的産業の創出」「地域特性を活かした人を呼び込むまちの価値の創造・向上」「暮らしを支える快適な生活環境づくり」「安心安全に暮らし続けることができる仕組みの構築」「まちへの誇りを育む地域との人づくり」「効率的・計画的な行財政の運営」の6つとしました。人口減少が続くなかで、様々な課題に対して町の強みを活かしながらまちづくりを進めていき、目指すまちの将来像に向かって、どのように進んでいくのかをしっかりと町民と分かち合い、ともに行動していきます。



○子育て世帯へ「牛乳補助券」を交付

豊富町では地場産牛乳消費拡大事業として、18歳以下の子どもがいる世帯へ「牛乳補助券」を配布しています。平成27年度より行っている事業で、補助券1枚につき「北海道サロベツ牛乳」「北海道とよとみ生乳100%プレーンヨーグルト」などの牛乳・ヨーグルト商品が1点あたり75円引きになります。酪農が基幹産業である豊富町の独自事業であり、地場産品振興や子育て世帯の負担軽減・健康増進にも貢献しています。

○入浴料金・交通費の医療費控除が可能

「町営温泉入浴施設ふれあいセンター」は、厚生労働大臣認定を受けた温泉利用型健康増進施設で、温泉療養を行いかつ要件を満たしている場合には、施設の利用料金や施設までの往復交通費について所得税の医療費控除を受けることができます。温泉に入るだけではなく、温泉利用指導者資格を持ったスタッフや健康運動指導士が、医師が作成した温泉療養指示書に従って入浴・運動指導を行ない、快方に向かえるよう健康づくりのサポートをします。

詳しくは「ミライノトウジ」HPをご覧ください。

○ふるさと納税（寄附）

返礼品として注目していただきたいものは「とよとみの美味しいが豊富に詰まった幸せ小箱」です。豊富町産牛乳を使用したスイーツなどを中心に豊富町のおすすめ商品をぎゅっと詰め込んだセットになっています。商品の中身は、北海道ソフトクリームグランプリ2019でグランプリを獲得したfermeの「とよとみ牛乳ソフトクリーム」、原材料をこだわり完全無添加で作る工房レティエの「無添加アイスクリーム」「ナチュラルチーズ」、ミネラルたっぷりの牧草を食べて育った鹿肉を新鮮なうちに加工するサロベツベニソンの「えぞ鹿肉のバジル風味」「鹿まん」、本場イタリア仕込みの本格派スイーツを提供するハラペコmuccaの「とよとみカタラーナ」「ベイクドチーズケーキ」と盛りだくさん。

詳しくは豊富町ふるさと納税HPをご覧ください。



●お問い合わせ
○豊富町役場　〒098－4110　北海道天塩郡豊富町大通6丁目
TEL：0162－82－1001（代表）　FAX：0162－82－2806
E-mail：soumuka@town.toyotomi.hokkaido.jp
公式ホームページ：https://www.town.toyotomi.hokkaido.jp/

「いいとこほうふ豊富町」
観光スポット

○大規模草地牧場

「大規模草地牧場」は総面積1500ヘクタール（東京ドーム約320個分）と日本有数の規模を誇る町営の大規模草地牧場です。ヨーロッパのような丘陵地帯が魅力で、夜は星空観察にもおすすめです。

5月～10月の期間に牛たちを放牧しており、期間中は日本海の潮風を含んだミネラルたっぷりの草を食む牛たちと牧草ロールの牧歌的風景を楽しむことができ、ドライブはもちろんサイクリングコースとしてもオススメです。景色を見ながら一休みできる東屋もあります。のんびりした牛たちを見ながら日頃の疲れを癒しませんか。ぶらりと足を運んでみてください。



○サロベツ湿原

「サロベツ湿原」はラムサール条約に登録されている日本一の高層湿原です。

北海道北部の日本海側に広がる6700ヘクタールのサロベツ湿原は、日本3大湿原の1つに数えられています。特にミズゴケが発達した高層湿原としては国内最大の規模を誇り、「利尻礼文サロベツ国立公園」に指定されています。湿原の入口にある案内施設「サロベツ湿原センター」では、湿原の成立ちや自然情報を写真パネルや映像で知ることができます。湿原内を巡る1周約1kmのバリアフリー木道を歩くと、雄大なサロベツの自然を満喫できます。

雄大なサロベツ湿原では、平地でも高山植物を観測することができ、町の花である湿原の花「エゾカンゾウ」を観測することができます。

また、毎年春と秋にはオオヒシクイやコハクチョウなどの渡り鳥たちが休息のためにこの地に立ち寄り、今では貴重になってしまった草原の鳥、シマアオジなどの絶滅危惧種も繁殖しています。季節によって様々な顔を見せるサロベツ湿原は時間を忘れてしまいそうなくらい雄大な景色が広がります。普段の生活から少し離れ、大切な人とぜひご一緒にお越しください。



○町営温泉入浴施設　ふれあいセンター

「町営温泉入浴施設ふれあいセンター」は、町が運営する温泉入浴施設です。

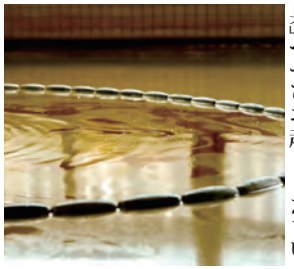
「豊富温泉」は世界で2つ、日本でただ1つの油分を含んだ大変希少な泉質を有している「日本最北の温泉郷」です。泉質に含まれる油分は近年アトピー性皮膚疾患や乾癬に効能が高いと言われ、湯治の湯として毎年全国各地から多くの湯治客をお迎えしています。

施設には、源泉掛け流しの湯、一般客用の浴場のほか、湯治療養するために長く入浴できるよう温度を低く設定した湯治客用の浴場を設置しているため、一般の方はもちろん、湯治の方にも安心してご利用いただけます。

湯治についての相談や周辺交通機関、宿泊施設などの案内については、施設2階に温泉の総合案内所「豊富温泉コンシェルジュ・デスク」を設置していますので、お気軽にお立ち寄りください。

施設内の食堂「味彩」のおすすめメニューは豊富町の特産品でもある低カロリー・高たんぱく質が魅力の「鹿肉ジンギスカン」です。ボリュームたっぷりのメニューは観光客のみならず地元の人たちにも愛されています。

「美肌の湯」・「奇跡の湯」と言われている日本でただ一つの泉質をもつ「豊富温泉」へぜひお越しください。



○稚咲内海岸

「稚咲内海岸」は、日本海を望む絶景スポットで、晴れた日には海に浮かぶ利尻富士や夕日が一望できます。オロロンラインを北上するルート上にあり、どこまでも続いてしまいそうな1本道はドライブコースとしても有名です。4月・8月にはちょうど夕陽が利尻山（利尻島）の山頂に重なると「ダイヤモンド利尻富士」という美しい景色を見ることができます。



○宮の台展望台

「宮の台展望台」は、小高い丘の上に立ち雄大な利尻富士とサロベツ湿原を一望できる展望台です。

かつては徳満展望台、サロベツ展望台とも呼ばれていましたが、昭和38年に義宮殿下が視察され、その後、現在の「宮の台展望台」と呼ばれるようになりました。

展望台付近には豊富町の酪農発祥の地である「親子の乳牛の像」が建っています。

周りに遮るものが無いため、広大なサロベツ湿原を独り占めできます。隠れた人気スポットです。

○豊富自然公園

「豊富自然公園」は、豊富町のシンボルでもある、「とよとみ」の文字が描かれた山がある公園です。町民憩いの場であり、パークゴルフ場を利用する方や、お散歩を楽しむ親子連れ、自然観察、バードウォッチングにいらっしゃる方が多くみられます。夏時期にはサロベツ納涼花火大会が開催される場所でもあり、町内外から多くの来場者で賑わいます。

○兜沼公園

「兜沼公園」は、豊富市街から北へ約20kmの所にあり、多くの水鳥の飛来地として知られています。周囲7kmの沼の周りは森林に囲まれ巡ることができます。

開放的な兜沼キャンプ場と家族とゆっくり楽しめるオートキャンプ場があり、木々に囲まれながら癒しの時間を過ごせます。キャンプセットは貸出しているので、キャンプが初めての方も楽しむことができます。



○町のイメージキャラクター「とよとみくん」

豊富町のイメージキャラクター「とよとみくん」は酪農が盛んな豊富町を盛り上げるために誕生した牛をモチーフにしたマスコットキャラクターです。

牛なのに身軽な動きといつもニコニコした表情が注目を集め、町の人たちに愛されています。日常使いにピッタリな可愛らしい「とよとみくんLINEスタンプ」第1弾・第2弾販売中です！



●お問い合わせ
○豊富町役場　〒098－4110　北海道天塩郡豊富町大通6丁目
TEL：0162－82－1001（代表）　FAX：0162－82－2806
E-mail：soumuka@town.toyotomi.hokkaido.jp
公式ホームページ：https://www.town.toyotomi.hokkaido.jp/

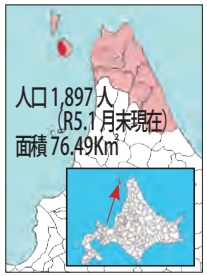
利尻町とは

○概要

「リシリリンドウ」をデザイン化した街路灯が市街地に灯りを灯しています。



標高1721mの孤高の利尻山は、高山植物の宝庫です。代表的なものとして「リシリヒナゲシ」「ボタンキンバイ」など、利尻固有のものをはじめ、たくさんの特徴的な植物が厳しい自然環境の中で色彩豊かにたくましく育っています。利尻町では「リシリヒナゲシ」



手つかずの大自然で、はばたく鳥たち。種類豊富な留鳥や渡り鳥を、一年を通じて観察できるバードウォッチングができます。代表的なものとして、利尻町の鳥「コマドリ」、国の天然記念物「クマゲラ」、また大型のものでは「オオワシ」や「オジロワシ」などが観察できます。

浜に立って昆布漁、ウニ漁の風景を見ていると時間を忘れて、いつまでも見入ってしまいます。ガラス箱に顔をすっぽりとあて、小さな磯船を巧みに操っている姿を見ると、紛れもなく海で育ってきた「人」を感じずにはいられません。



利尻町の基幹産業である漁業、特にウニ漁は磯船で漁をする海の人たちが、育ち具合を一つ一つ確認しながら採取するタモ獲り漁で、長い間支えてきました。その長い歴史と共にやって来た後継者不足の悩みがあります。昆布、ウニ、アワビ等つくり育てて獲る、栽培漁業等の推進により、自然に左右されることなく安定した生産が出来る豊かな海を取り戻したい、そう願っています。



利尻はリイシリ、アイヌの人たちが「高い」・「島」と呼んでいました。島の中央にそびえ立つ利尻山は北の海を行き来する人たちにとって航海の目印になっていました。古代から人が住み始め、江戸時代には鰊・昆布などを産出する利尻場所が開かれました。江戸時代末には、青森・秋田から漁民の人たちが利尻島に渡って、漁場を開きました。明治32年7月沓形村、33年7月仙法志村に戸長役場が置かれ、小学校開校、道路・港整備、小樽航路開設など、北の海を行き交う人や物で賑わう北の島でした。鰊漁が衰退し、島民が島を離れることが多くなったなかで、最北の高い山を持つ北の島の地理的景観的な要素を活かした観光産業が興りはじめました。昭和45年に利尻礼文サロベツ国立公園が指定されたことなどから、多くの人たちが利尻島を訪れるようになりました。



町の取組み

○利尻町定住移住支援センター ツギノバ



2020年7月に定住移住の相談などの窓口整備を行いました。ツギノバは住宅や仕事、定住・移住の相談口と交流スペースです。「地域のこれまでを受け〝継ぎ〟、〝次〟の未来を創る場所」というコンセプトのもと、2017年に閉校となった旧沓形中学校の技術室を改修して開設しました。町内にすでに住まわれている方々からの定住相談や、利尻町に移住を希望する方々からの移住相談といった相談窓口とともに、カフェラウンジやコワーキングスペース、多目的スタジオスペースなども併設しています。町民の方々の利用はもちろん、移住を希望されている方、観光客やビジネス客なども気軽に来館でき、自然と町内外の人たちの多種多様な交流が生まれていきます。

【定住相談】

町民の方々から仕事や住宅に関する困りごとや悩みごとなどの相談対応を行っています。ライフステージの変化に伴う住宅の住み替えや仕事の転職などに対して、空き家バンク掲載物件や町内求人事業者の紹介などを行っています。

【移住相談】

町外から利利尻町への移住を検討している方々からの、町での暮らしに関する不明点・懸念点や移住時の住居探しなどの相談対応を行っています。利尻町の冬暮らしってどんなだろう？利尻で漁師になるにはどうしたらいいの？などなど、様々な質問や相談に対して専従スタッフが移住までの伴走サポートをしています。

【求人情報紹介について】

町内の求人情報の紹介を行っています。事前に希望する条件などをヒアリングするとともに、情報紹介後のフォローなども実施するので、就業後のミスマッチなど不安点も事前に解消することができます。

○ふるさと納税（寄附）

利尻町では、「心のふるさと利尻」を想う人びとに寄附という形でまちづくりに参画いただき、「協働のまちづくり」を積極的に進めています。返礼品は特産品のウニや昆布はもちろん、お酒やラーメンなど多くの種類がございます。頂いた寄附は下記の6つの事業に活用させていただきます。お申込みは、下記6つのサイトのいずれかよりお願いいたします。

【返礼品の使い道】

観光に関する事業、環境保全に関する事業、保健・医療・福祉に関する事業、教育及び体育・文化活動に関する事業、地場産業の振興に関する事業、町長が特に必要を認めた事業

【お申込みサイト一覧】

ふるさとチョイス、さとふる、楽天ふるさと納税、ａｕＰＡＹふるさと納税、ＪＡＬふるさと納税、ＡＮＡふるさと納税





返礼品の一例

●お問い合わせ
利尻町役場　〒097-0401　北海道利尻郡利尻町沓形字緑町14-1
TEL：0163-84-2345　FAX：0163-84-3553
E-mail：
公式ホームページ：http://www.town.rishiri.hokkaido.jp/rishiri/

「夢の浮島　利尻町」観光スポット



○神居海岸パーク
停泊している小舟に乗り、島の漁師さんと同じ道具を使って本格的にウニを採り、その新鮮なウニをその場で割って食べる体験ができます。1本の昆布を切って作る、昆布お土産づくり体験もございます。海の目の前のロケーションの良いスポットなので休憩にも最適です。

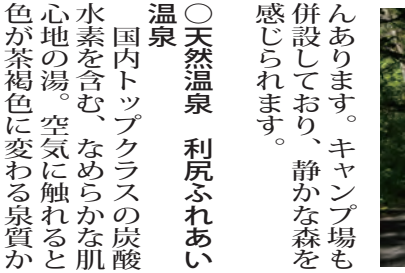


○神居テラス
神居海岸パークの駐車場にある広場です。高台に東屋があるので山も海も綺麗に見渡せます。無料の双眼鏡が設置されているので覗いてみてはいかがでしょうか。



○北のいつくしま弁天宮
島の歴史や日本文化が残る場所です。海に突き出す祠と鳥居は写真スポットにもなっています。寝熊の岩と人面岩もお勧めです。

○利尻町森林公園
夏の森、小鳥の森、花の森など多彩なエリアを結ぶ散策路には、四季それぞれの楽しみ方や魅力がたくさんあります。キャンプ場も併設しており、静かな森を感じられます。



○省形岬公園（くつがたみさきこうえん）
多様な高山植物や日本海に沈む幻想的な夕日が見られる場所です。海と山が眺められるキャンプ場も併設しています。



○見返台園地
利尻山の5合目に位置する展望台。利尻山省形コースの登山口にもなっています。夜は満点の星空が広がります。

○天然温泉　利尻ふれあい温泉
国内トップクラスの炭酸水素を含む、なめらかな肌心地の湯。空気に触れると色が茶褐色に変わる泉質から「金の湯」とも言われています。

○仙法志御崎公園（せんほうしみさきこうえん）
透明度の高い海に奇岩、利尻山を見ることができ、お土産店も集まる人気スポットです。
天然のプールでは時期になればアザラシが泳いでいます。近くのお土産店でエサを購入し、アザラシを間近に感じながらエサを与えることができます。



○利尻町立博物館
みごたえたっぷりの展示品の数々。利尻に受け継がれる、自然と海と人の物語を感じることができます。



○利尻山　省形コース
日本最北の国立公園に美しい姿を見せる利尻山。別名「利尻富士」とも呼ばれています。日本百名山では、北の秀峰として、1番目に数えられています。中級者向けの鴛泊コースと、当町から登る上級者向けの省形コースがあります。





○町のキャラクター紹介
マスコットキャラクター「りしりん」
利尻島の特産「利尻こんぶ」をモチーフに、体には日本百名山の1つ「利尻山」が描かれ、額には町花の「エゾカンゾウ」が輝いています。背中には「エゾバフンウニ」と「キタムラサキウニ」が付いています。

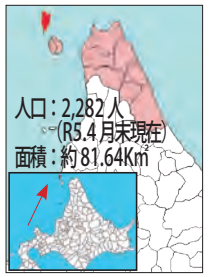


●お問い合わせ
利尻町役場　〒097-0401　北海道利尻郡利尻町沓形字緑町14-1
TEL：0163-84-2345　FAX：0163-84-3553
E-mail：
公式ホームページ：http://www.town.rishiri.hokkaido.jp/rishiri/

礼文町とは

○概要

礼文町は、日本海に位置する礼文島に位置し、日本最北の有人国境離島です。ですが、対馬暖流の影響で、内陸の気候と比べると比較的温暖で、夏季は冷涼で、冬季は温暖な気候となるので、本州ほど四季の区別がない気候となります。また、「利尻礼文サロベツ国立公園」として、島一帯が国立公園となっており、高緯度の寒冷気候と偏西風の影響により、通常では見られない高山植物を海抜０ｍで見ることができます。このことから、花の浮島とも呼ばれており、豊かな海とも相まみえて、自然豊かな場所となっています。



○歴史

礼文島は、アイヌ語の「レブン・シリ」＝沖の島という意味の語源が地名の由来です。

江戸時代の前期にあたる１６８５年に松前藩の直轄地として置かれた宗谷場所の付属場所として開設され、以後アイヌ民族と和人の交易場所として徐々に開拓が進められました。明治13年には香深村戸長役場が設置され、さらに、明治25年には船泊村は香深村から分村しました。昭和31年に香深村と船泊村が合併し、礼文村となり、昭和34年には町政施行により礼文町が誕生し、水産業の町として発展してきました。

○産業

礼文町は水産業と観光業の二大産業からなります。

水産業では、２つの漁業協同組合で生産活動が行われています。主な産物はウニと昆布、ホッケとなっており、ウニは、味が甘く、ウニの中でも最上級ともいえるエゾバフンウニと、味があっさりしているキタムラサキウニの２種類があります。ホッケには、脂がぎっしりのっており、一度食べるとやみつきになります。中でも、味噌だれとネギを合わせて焼くホッケのちゃんちゃん焼きが有名です。

観光業では、春から夏にかけては、高山植物や離島らしい風景の鑑賞ができ、海産物も旬でよりおいしく食べられる時期ですので、心身のリフレッシュを行うことができます。また、水産祭りやふるさとまつり、オータムフェスタなどのイベントが開催され、島全体が盛り上がります。

○イベント

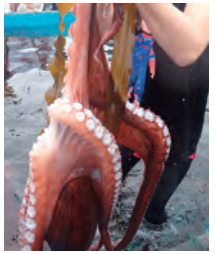
・ふるさとまつり（海峡祭）

ふるさとまつりは夏を彩る礼文町最大規模の祭りです。礼文島の海産物などを格安で販売するフードコーナーやドリンクコーナーでの出店が立ち並び、お祭りモードを盛り上げます。歌手を招いての歌謡ショーや、抽選会などステージイベントも開催。海峡祭りでは礼文島で唯一の花火大会も行われ、香深港の特設会場では迫力満点の花火を間近で観賞できます。



・水産まつり

例年、７月後半に行われるイベントで、焼ウニや焼つぶ、焼きタコ、エビ味噌汁、海鮮かき揚げなどが格安で提供されるほか、ホッケの試食や、ウニむき体験など無料で楽しめるコーナーも行っています。



※祭り・イベントは中止や延期、縮小による開催内容の変更などが生じる場合があります。おでかけの際は、各自治体や観光協会等へ最新情報をお問合せください。

町の取組み

○第６次礼文町まちづくり総合計画（２０２０年度～２０２９年度の10年間）

テーマである「島の絆」〝地域の結びつきと支えあいによる島の更なる発展をめざして〟のもと、活気と魅力あふれるまちづくり、島の暮らしを支える環境づくり、郷土愛と人を育む地域づくりを将来像とし、その中で分野別の６つを基本目標としています。

・「人と自然に優しく魅力ある地域基盤づくり」

移住に関するワンストップ窓口『袋澗』を設け、移住定住コーディネーターによる包括的支援が行える体制を構築し、移住検討者の利便性の向上を図っています。また、現在休止している礼文空港の早期再開について、現在礼文島へのアクセスは航路のみでの島外移動となり、町民や観光客の移動が限られることから、検証や要望活動を実施し、利便性を高める交通体系の構築をめざしています。

・「未来につながるたくましい産業づくり」

現在、水産業では、漁業者支援住宅や担い手定着支援補助金など各種補助金の交付で、漁業後継者を確保し、島内の漁業の安定的な発展を目指しています。

また、観光業では、外国人観光客の誘致のために案内看板やマップ等の作成を行っています。さらに、マッチングツアーを行うことで礼文島の魅力を知ってもらうよう行っています。

・「健全な心と体で絆と支えあいのまちづくり」

町民の子育て支援に関する生活実態や要望等を把握することで、ニーズに沿った施策を行い、安心して子育てができる環境を目指しています。

・「未来につながる豊かな環境づくり」

近年、多発している災害に備え、避難路や避難所を強化しながらも、広報誌や回覧パンフレット、告知放送による周知で、啓発活動を行いながら、備蓄の推進も行っております。また、行政による備蓄も行っており、定期的に点検することで、品質管理及び機能の維持を図っています。

・「地域の文化と特色を生かした人づくり」

本町に唯一ある道立の高等学校『礼文高校』の魅力化プロジェクトとして、毎年最北れぶん留学で生徒の募集を行っています。また、２０２０年にはれぶん留学生のための学生寮『ポラリス』を建設し、安全で安心できる生活拠点で過ごすことができます。

・「人と地域を育む協働のまちづくり」

町民と行政が共に、町の課題に対応するため、情報共有や意見交換による学びの機会を通じています。このことで、町民のニーズに適切に反映し、高い実効性を確保していきます。

○ふるさと納税（寄附）

当町では、頂いた寄附金を保健医療福祉施設や学校施設、北のカナリアパークなどの整備をはじめとし、その他にもスポーツの振興、自然環境保護など様々な分野で活用させていただいています。

寄附していただいた方には、返礼品として利尻昆布を餌にした「生うに」や「あわび」、当島で漁を一カ月半と短い期間で行っているため非常に希少な「昆布」、脂のりがたまらない「ホッケ」などの当島自慢の海産物はもちろん、与那国島の酒造とともに開発を行い、礼文の水を使った泡盛などユニークな品もご用意しています。まずは礼文町ふるさと納税ＨＰをご覧いただき、寄附のご検討の一つとなればと思います。

返礼品の一例



ふるさと納税
QR コード

●お問い合わせ
○礼文町役場　〒０９７－１２０１　北海道礼文郡礼文町大字香深村字トンナイ５５８番地５
ＴＥＬ：０１６３－８６－１００１　ＦＡＸ：０１６３－８６－１００７

「日本最北端の有人離島 礼文島」観光スポット



○北のカナリアパーク

北のカナリアパークは島の南側に位置し、２０１２年に公開された吉永小百合さん主演の映画「北のカナリアたち」のロケ地を整備し、２０１３年にグランドオープンしました。撮影で使用された校舎では映画に関連した展示物を見学することができます。

島の西海岸に連なる海食崖を展望し、澄んだ海と美しい入江を眼下に見ることができる絶景の地です。

また、中島みゆきさんの「銀の龍の背に乗って」のＰＶでも使われた場所でもあり、階段を上ると、名前の通り澄んだ海の色は「レブンブルー」と呼ばれるほど透明度が高く、観光客からも絶景スポットの一つとして人気があります。

○スコトン岬

礼文島の最北端に位置する岬であり、階段を降り、その先に立つと大パノラマを眺望でき、正面にはトド島と呼ばれる、名前の通り時々トドが訪れる無人島があり、夜になると、灯台が航路を照らします。天気が良い日にはサハリンが見えることもあります。



また、パーク内にあるカナリアカフェでは、雄大な利尻富士を眺望しながら、ソフトクリームやコーヒーを楽しむことができます。〈５月～10月９：00～17：00営業無休，カナリアカフェは火・水曜日が休みとなっています（祝祭日を除く）〉。



○澄海岬

○礼文島固有種の花々

礼文島は「花の浮島」とも呼ばれており、花は３００種類にも及びますが、その中でも固有種がありますので、ここでは三種類を紹介いたします。

まず、一つ目が「レブンアツモリソウ」です。ランの女王とも称えられ、開花時期は例年、５月下旬から６月中旬ごろとなっています。クリーム色をしており、袋状になっていることなど、特徴的な形をしているので、この花を観るためにたくさんの観光客の方が訪れます。

昔は礼文島のあちこちで咲いていましたが、盗難などの被害にあい、その数が激減してしまいました。その後、絶滅危惧種となり、現在ではレブンアツモリソウ群生地で保護増殖活動を行っています。



＜レブンアツモリソウ＞

二つ目が、「レブンキンバイソウ」です。島で咲く金色の梅に似た花ということで名づけられた花であり、花弁状に見えるのは実はがくで、花弁はおしべのように見えます。６月上旬から下旬にかけて咲きます。



＜レブンキンバイソウ＞

三つ目が、「レブンウスユキソウ」です。淡白色の葉を薄く積もった雪に例えたものであり、気高さと可憐さを併せ持つ高山植物のプリンセスで、礼文町の町花にも指定されております。ヨーロッパで咲くエーデルワイスの仲間であり、６月から７月頃に咲きます。



＜レブンウスユキソウ＞

このような、代表的な花を中心に礼文島には素晴らしい花が他にもたくさん咲きますので、ぜひ一度でもご覧になっていただきたいと思います。

◆「礼文島でトレッキングを始めてみませんか？」

礼文島では個性豊かな７つのトレッキングコースが整備されています。上級者向けの８時間コースをはじめ、美しい高山植物がたくさん楽しめる「桃岩展望台コース」や絶景の海を堪能できる「岬めぐりコース」など、礼文島の景観を最大限に活かしたコースとなっています。もちろん、トレッキングをしたことない方でも初心者用のコースもございますので、自分のペースや、体力に合ったコースを選択することで安心して始めることができます。初めてのトレッキングに是非礼文島はいかがでしょうか。

また、現在７つのコースの完歩状況に応じて達成されるスタンプラリー「トレイル７」を10月まで開催しています。期間内で完歩したコースに応じて素敵な景品をプレゼントしています。詳細はＱＲコードからご確認ください。

スタンプラリーＱＲコードはこちら→

○町のキャラクター紹介

礼文町のマスコットキャラクター「あつもん」は、礼文島の固有種である「レブンアツモリソウ」をモチーフにした妖精で、とてもかわいらしい姿をしています。礼文島の澄んだ水、空気、海、空といった自然や礼文島に住む人たちと礼文島を訪れる人たちが大好きで、心に幸せの種を持っています。なので、幸せの種が壊れてしまう原因となる叩かれることや、自然を壊されることが嫌いです。性格は大人しく、とても優しくのんびりとしています。時には、町内に現れたり、イベントなど地方に出向いたりなど、町のＰＲを精力的に行っております。

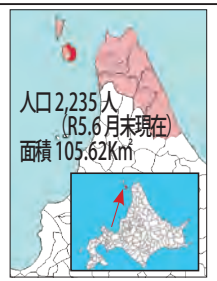


E-mail：kikaku@town.rebun.hokkaido.jp
公式ホームページ：https://www.town.rebun.hokkaido.jp/

●お問い合わせ
○礼文町役場　〒097－1201　北海道礼文郡礼文町大字香深村字トンナイ558番地５
ＴＥＬ：0163－86－1001　ＦＡＸ：0163－86－1007

利尻富士町とは

○概要



北海道最北端の宗谷岬より南西62㎞の海をへだてた日本海の離島「利尻島」の北東部に位置し、利尻山(標高1721m)の南西を背にして利尻町と接しています。そして、南東には利尻水道をはさんで天塩山地と相対し、北西9.7㎞をへだてて礼文島と指呼の間にあります。

○産業

基幹産業は主に水産業と観光業です。水産業は浅海漁業にて磯船でリシリコンブやウニ、ナマコ等を生産する「根付漁業」と沿岸域にて10t未満の漁船でホッケやヒラメ、タコ、ナマコ等を生産する「漁船漁業」、リシリコンブやホタテなどの「養殖漁業」からなっています。その中でも「根付漁業」は全漁業者が従事しており、リシリコンブとウニについては全国的な利尻ブランドとして知られています。観光業では、昭和25年8月に「利礼道立自然公園」に指定、昭和40年7月に「利尻・礼文国定公園」に指定され昭和49年には「利尻礼文サロベツ国立公園」に指定されました。2024年には「利尻礼文サロベツ国立公園」指定から50周年を迎えます。また、平成27年度に策定した「利尻富士町まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、自然観察や歴史文化・産業の体験、離島交流、島で遊ぶなどを主目的とした「体験・滞在型観光」を推進しており、旅行のターゲットを若者にまで広げ「何度も訪れたくなる利尻島づくり」に取り組んでいます。

島内にサイクリング専用道路が整備されているため自転車を活用したサイクルツーリズムや、2018年に漁業と移住・開拓の歴史を今に物語る「利尻島の漁業遺産群と生活文化」が北海道遺産に登録されたことを受け利尻島全体が博物館であるとの考え方により、歴史文化を活用した「利尻しまじゅうエコミュージアム」を推進しています。

○歴史

利尻島には江戸時代に入ってからアイヌの人々が住み始め、寛文10(1670)年の「津軽一統志(つがるいっとうし)」には300人ほどが暮らし、松前の商船が来航して交易を行っていたことが記されており、文化4(1807)年、鎖国下にあった日本に対し通商を求めていたロシアによる利尻島の襲撃事件を契機に、文化5年に江戸幕府が松前・宗谷・利尻・樺太の防備を会津藩に命じ、利尻には252名の藩士らが派遣されましたが、任務中に病気や海難事故により命を落とす者も多く、現在その墓碑が鴛泊、本泊(もとどまり)、種富町(たねとみちょう:利尻町)の3ヵ所に安置されています。嘉永元(1848)年、野塚にアメリカ人ラナルド・マクドナルドが鎖国下にあった日本で日本語を覚え、開国後通訳になることを目的に単身上陸しました。ラナルド・マクドナルドは利尻島で1ヵ月滞在し、日本を去るまでの7か月間、長崎で森山栄之助ら当時の通詞に英語を教えたといいます。明治時代に入ると利尻は北見国利尻郡となり、明治9(1876)年、鴛泊・本泊・鬼脇・石崎・沓形・仙法志の6ヶ村を統括して宗谷に区務所が、鴛泊に利尻扱所が置かれ利尻島における自治行政の端緒となりました。その後、昭和31(1956)年に鴛泊村と鬼脇村が合併し、「東利尻村(町)」が誕生し、平成2(1990)年の開基110年を節目に、これまでの東利尻町から「利尻富士町」へ町名を改称して現在に至ります。

町の取組み

○移住定住政策

宿泊施設「旅番屋」の一部を町が借り上げ「利尻富士町ワーケーション・お試し暮らし事業」を行い、1週間以上2週間以内の宿泊を行ってもらうことで町への移住や二地域居住の機運を醸成するとともに、地域の活性化に資することを目的として行っています。



○漁業担い手支援事業

利尻富士町の主産業である漁業の担い手対策について、昭和47年に「利尻富士町漁業後継者養成に関する報償規則」の制定から始まり、令和4年度までに140名の漁業後継者に対して磯船又は報償金を贈呈してきた。平成20年に利尻地域漁業就業者対策協議会を設立し、「漁業研修漁師道」の開催され、子供から大人まで楽しめるイベントとなっています。

「漁業担い手支援住宅整備」や「漁業担い手整備事業」、「特定有人国境離島漁村支援交付金事業」の実施により、徐々にではありますが漁業後継者が増加傾向にあることや、漁業者の起業や事業拡大により漁船漁業や養殖コンブ漁業着業者が増加するなど効果が見え始めています。



○イベント

・みなとビアガーデン

港の賑わいを創出し地域活性化を図るために実施され、無料で行っているうに採り、うに剥き体験が楽しめるほか、各種露店、ゲームが開催され、



・利尻島一周ふれあいサイクリング

8月第4日曜日に開催されており、さわやかな風を感じながら利尻島を一周するイベントです。また、大会前日には参加者での交流会や余興としてサイクリング専用道路の一部を利用したヒルクライムタイムレースが行われています。

○ふるさと納税(寄附)

皆様からのたくさんのご寄付ありがとうございます。皆様からのご寄付は、【環境保全】【産業振興】【教育・文化】【保健福祉】【その他地域振興】の5つの事業メニューから選んでいただき、ふるさと利尻富士の魅力を高める施策に活用しています。お礼の返礼品は、高級食材として京都の料亭やプロの料理人から愛される「利尻昆布」、その利尻昆布を食べて育った「ウニ」「蝦夷あわび」、ほかにも「ほっけ」「毛ガニ」などの海産物や、「白い恋人」が人気です。

また、返礼品の中には「カヤックツアー体験チケット」「観光タクシー利用券」など、利尻富士町を訪れた際に利用できる観光商品も展開しています。

ぜひ利尻富士町へお越しください。その他情報は「利尻富士町　ふるさと納税」で検索お願いします。
(担当:会計課)



返礼品の一例「ウニ」

●お問い合わせ
利尻富士町役場　〒097－0101　北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野6番地
TEL：0163－82－1111（代表）　FAX：0163－82－1253
E-mail：kikaku@town.rishirifuji.hokkaido.jp（企画政策課）
公式ホームページ：https://www.town.rishirifuji.hokkaido.jp/rishirifuji/

「利尻島の玄関口 利尻富士町」観光スポット

○姫沼



市までを望むビュースポット！また、ご来光の名所でもあります。現在のペシ岬は1つですが、昔は2つの岩山がありました。かつてあった小さな岩山は、稚内港の建築材料として爆破され、現在の姿になりました。

○富士野園地

6月下旬～7月中旬にかけて花開く、エゾカンゾウの大群落地。駐車場から高台の展望台まで、海に向かって遊歩道が続きます。途中には東屋があり、ここからはウミネコが集団でコロニーをつくる「ポンモシリ島」が間近に見えます。夏は海鳥たちの子育てシーズン。双眼鏡を持参して、野鳥観察も楽しめます。東屋の奥にある高台の上が展望台。360度の眺望が広がります。映画「北のカナリアたち」のロケ地にもなりました。



○夕日ヶ丘展望台

海側も山側も360度を見渡せる絶景スポット！利尻山、鴛泊市街地、ペシ岬、ポンモシリ島、礼文島などを眺望できます。駐車場から展望台までは、少し急な坂道を登ります。道中、オンシーズンには足元に島の花々が咲き乱れ、秋にはスキの柔らかな黄金色の景色が広がります。頂上に着いて目に飛び込むのは、切り立つ断崖絶壁と、大海原の絶景！夕暮れになると全てをオレンジ色に染める、一面の夕焼けが広がります。



○オタトマリ沼

島の南東に位置する「オタトマリ沼」は、周囲約1㎞。利尻島最大の湖沼です。沼の周囲には遊歩道が整備されているので、湖面を含む全長約1㎞の遊歩道が整備されており、植物が群生する場所まで行くことができます。ミズゴケが発達した島最大の高層湿原で、入口の看板には、旬の花情報が掲示されています。売店やトイレなどの設備はありませんが、手つかずの自然、貴重な湿原、たくさんの人の手で守られている数多の高山植物などをじっくり楽しめるスポットです。また、南浜湿原から利尻山の空に瞬く星空は圧巻で、タイムラプスなどを撮影するにもうってつけのポイントです。



○白い恋人の丘

北海道銘菓　石屋製菓のお土産菓子として有名な「白い恋人」のパッケージに描かれている山が「利尻山」です。石屋製菓の社長が利尻島に訪れた際に、ヨーロッパの山並みにも負けない「利尻山」を見て感銘を受けたことにより、パッケージに採用されたと言われており、この場所から見た利尻山が「白い恋人」に採用されている角度とほぼ同じに見えることから、「白い恋人の丘」と名付けられました。なお、当町の観光協会事業として、石屋製菓にもご協力いただき、この場所でプロポーズしたカップルには「白い恋人」がデザインされた「プロポーズ証明書」＝写真＝を無料で発行しております。



○町のキャラクター紹介
・マスコットキャラクター

「りっぷくん・りっぷちゃん」

利尻富士町には、利尻山に棲むシマリスで男の子の「りっぷくん」と女の子の「りっぷちゃん」というマスコットキャラクターがいます。「りっぷ」という名前は、利尻富士町（りしりふじちょう）の〝り〟と〝ふ〟から来ています。



では、利尻や姫沼の景色、花、鳥などの写真や絵葉書、利尻山の湧き水を使ったコーヒーを販売しています。

○ペシ岬

鴛泊（おしどまり）港にある標高90ｍほどの巨大な岩山です。別名「灯台山」とも呼ばれ、展望台、会津藩士の墓、鴛泊灯台などがあり、頂上までは急な坂道を歩きます。晴れた日には、利尻山、礼文島、北海道本土の稚内





に映る利尻山を眺めながら散策できます。駐車場には「利尻富士町レストハウス（まっちゃんの店）」「わかさんの店」の2店舗）と、「利尻亀一オタトマリ沼店」があり、特産品やお土産を購入したり、「ホタテ焼き」「うにの軍艦巻き」「熊笹ソフト」「万年雪ソフト」などを味わうこともできます。

○南浜湿原

利尻山を映す「メヌウショロ沼」

●お問い合わせ
利尻富士町役場　〒097－0101　北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野６番地
TEL：0163－82－1111（代表）　FAX：0163－82－1253
E-mail：kikaku@town.rishirifuji.hokkaido.jp（企画政策課）
公式ホームページ：https://www.town.rishirifuji.hokkaido.jp/rishirifuji/

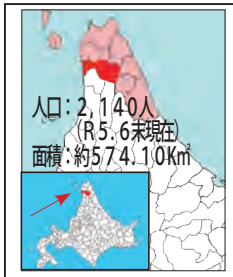
幌延町とは

○概要

幌延町は、北海道の北部、宗谷管内の南西部に位置し、北緯45度線上にあります。南部及び東部は、留萌地区と上川地区に囲まれ、西部は日本海に面し、南部は日本有数の大河である天塩川を境としています。

幌延の気候は、夏は冷涼、冬期間は風の日が多く乾燥寒冷で、平均気温は5℃前後です。この冷涼な気候を活かして、幻の花「青いケシ」を栽培しています。その青い色は、澄んだ湖水のように美しく、見る人の心を惹きつけます。

幌延とは、アイヌ語の「ポロ」「ヌプ」が転化したもので、「大平原」を意味しており、広大な原野と山林を有しています。その名の通り、広大な原野と山林があり、特にサロベツ原野（23000㌶）は広大で、利尻礼文サロベツ国立公園の玄関口でもあり、その公園は山岳、海岸、湿原を含む我が国有数の自然公園です。



○基幹産業

町の基幹産業は、第一次産業としての牛乳生産を主体とする酪農業であり、昭和に入ってから本格的に始まりました。乳用牛頭数はおよそ7000頭（令和4年11月末現在）、生乳生産量は年間約3.3万㌧（令和4年12月末現在）、搾乳される生乳は町内の乳牛工場でバターや脱脂粉乳に加工され、全国へと出荷されています。



○イベント情報

・ほろのべ名林公園まつり

毎年8月の土日に名林公園で開催される「ほろのべ名林公園まつり」は幌延町の一大イベントで、町民のみならず近隣市町村からも多くの方々で賑わいます。ステージではTHE TONUPMOTORS（活動休止中）ギタリストで幌延町観光大使の井上仁志さんなどによる音楽ライブ、ステージを彩るお笑いショーのほか、ほろのべど真ん中踊りが市街地を練り歩き、盆踊り大会、仮装盆踊り大会が盛大に行われます。

・おもしろ科学館 in ほろのべ

幌延深地層研究センターの開設趣旨や試験研究の必要性について広く道民に理解してもらうことを目的に「科学の不思議とおもしろさ」をテーマに開催しています。サイエンスショーや理科実験・工作などができる参加・体験型アトラクションのコンテンツがたくさん揃っています。

身の回りに様々な形で存在するエネルギーについて、見て、触れて、楽しく体験しながら科学技術やエネルギーの大切さを学べるイベントです。夏休みの自由研究のヒントになるかもしれません。

・トナカイホワイトフェスタ

冬のトナカイ観光牧場を楽しんでもらうことをテーマとして開催しているイベントです。幌延の名物トナカイソリに乗ってサンタクロース気分を体験できたり、スノーモービルによるバナナボートやイルミネーション点灯式など多くの人気アトラクションが勢ぞろいとなっておりクリスマス気分を存分に味わうことができます。



町の取組み

○第6次幌延町総合計画（2020年度～2029年度）

まちの将来像を「共に拓き、共に創り、未来へつなぐ！～笑顔と希望に満ちあふれるまち　ほろのべ～」として、「持続可能なまちづくりを進める」「活力と賑わいを創る」「健やかな暮らしを共に支える」「生きる力と文化を育む」「豊かな自然と安全を守る」の5つを基本目標として掲げています。また、第2期幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略として位置付ける「重点戦略」として、「稼ぐ産業をつくるとともに、安心して働けるようにする」「まちへの新しい人の流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる」「新しい時代に対応し、地域人材を活かす」を5つの柱とし、基本目標で掲げた将来像の実現に向け、本町の強みや特性、地域資源を活かした施策を重点的に取り組みます。

○移住・定住の促進

人口の減少、高齢化の進展等が著しい現状にかんがみ、町外居住者の町内への転入を誘導する移住促進政策として、居住環境を整備し、移住促進住宅を設置しました。中でも、将来的に移住を検討している町外者や町内への転入を検討している方向けのおためしでの入居（最大40日まで）が近年人気を集めており、道内のみならず道外の方々の利用が増えています。

そのほか、定住人口の増加を図り、福祉の向上と地域経済の発展に寄与することを目的として持家住宅建設（新築・改修・取得）、民営賃貸住宅建設を促進する助成や空き家・空き地バンクの運用を行っています。

○深地層研究の推進

本町が地域振興策として誘致した高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発を行う「幌延深地層研究センター」が平成13年4月から開所しています。国の原子力及びエネルギー政策への貢献と地域の振興を図るため、「幌延町における深地層の研究に関する協定」及び「深地層の推進に関する条例」の遵守を大前提に深地層研究の推進に協力しています。

また、町民や周辺自治体に対して幌延深地層研究センターでの研究開発の内容や幌延の研究施設は最終処分場としない場所で地層処分技術を磨く「ジェネリック地下研究施設」であることと等を正しく理解してもらうため、広く広報活動を進めています。

○ふるさと納税（寄附）

いただいた寄附金は、「福祉及び保健に関する事業」、「教育及び子育て支援に関する事業」、「産業の振興に関する事業」、「観光の振興に関する事業」、「文化及びスポーツの振興に関する事業」「あなたが守る秘境駅プロジェクト「マイステーション運動」」、「その他まちづくりに資する事業」に活用させていただきます。

返礼品として注目いただきたいのは、今年の7月に新発売となりました、樽熟成ワイン第4弾となる「ミズナラ樽熟成ワイン2021」です。幌延産のミズナラ樽で10ヶ月じっくり熟成されたほどよい渋みと酸味、そして豊かな樽香を感じられる味わい深いワインに今年も仕上がっています。

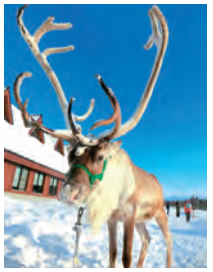
詳細については、幌延町ふるさと納税ホームページをご覧ください。



●お問い合わせ
○幌延町役場企画政策課　〒098－3207　北海道幌延町宮園町1番地1
TEL：01632－5－1114　FAX：01632－5－2971
E-mail：kikaku@town.horonobe.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.horonobe.lg.jp/

「北半球「ど真ん中！」北緯45度のまち　幌延町」

観光スポット



○幌延町トナカイ観光牧場

幌延町トナカイ観光牧場は、日本で唯一のトナカイ牧場です。

幌延町とトナカイとの関係は平成元年まで遡（さかのぼ）ります。岐阜県出身の方が、トナカイの飼育に適した幌延町へ移住し、フィンランドから10頭のトナカイを輸入したことがはじまりです。当初は食肉のほか、角や革の生産販売をするなど畜産が主な目的でした。その後、平成3年に173頭のトナカイを輸入し、その数を増やし、やがて観光目的で訪れる人も多く現れるようになったことから、平成7年に、幌延町が観光向けに50頭のトナカイを購入して市街地に「幌延町トナカイ観光牧場」をオープンしました。その後平成11年のクリスマスの日に現在の場所でリニューアルオープン。以来、多くの観光客がトナカイとのふれあいを楽しんでいます。



トナカイ観光牧場の管理棟は、印象的な北欧風の建物で、中に入ると、レストランやお土産屋さんがあり、食事や買い物を楽しむことができます。建物を抜けるとトナカイたちが待っていて、直接手でふれることができます。

また、トナカイ観光牧場内には「ノースガーデン」があり、北方圏の花を中心に形成する全国的に珍しい幻の青いケシ「ブルーポピー」（開花期間：6月中旬～7月上旬）をはじめ、約200種の花が4～10月までの期間で開花します。ノースガーデン内にランダムに植え込まれていますのでぜひ、ガーデン内を散策しながらお楽しみください。



○サロベツ原野

幌延の西に広がるサロベツ原野は、利尻・礼文サロベツ国立公園に指定されています。連続した泥炭地であり、我が国最大の面積を誇り、その広さは約23000haで、本州最大級の湿原で有名な尾瀬の約10倍の広さです。

野鳥やエゾカンゾウをはじめとする約70種類もの花々など豊かな自然に恵まれています。

平成17年11月には、ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）湿地に新規登録されています。

また、動植物観察などでサロベツ原野を訪れる人々のための拠点として、平成元年に「幌延ビジターセンター」がオープンしました。ここでは、ビジターセンターから長沼までの約700mの木道を散策することができます。

施設内では、湿原の仕組みや野鳥の生態を解説したパネルの展示や町の地域おこし協力隊員がサロベツ原野の魅力を発信するため「ほろのべ・サロベツ花＊NEWS」を発行し、訪れた方への配布を行い、わかりやすく紹介しています。

2階には、望遠鏡が備え付けられているため、利尻山（通称：利尻富士）やパンケ沼、長沼などサロベツ原野が一望できるほか、野鳥や草花などを間近に観察することができます。

○秘境駅

「秘境駅」とは、山奥や原野など人里離れた場所に存在する無人駅の呼称です。町では、そのような「秘境駅」をはじめとする鉄道系資産をまちおこしの資源として活用しています。

町内の秘境駅は、4駅（糠南駅・雄信内駅・南幌延駅・下沼駅）＋廃止2駅（安牛駅・上幌延駅）があります。

中でも糠南駅は、待合所が物置きのため、テレビ番組などのメディアで多数取り上げられ、全国から旅人が訪れる有名な秘境駅となり冬には有志によるクリスマスパーティーが行われるまでになりました。



そのほか、町で維持管理することとなった駅について「あなたが守る秘境駅プロジェクト・マイステーション運動」を展開し、壁面等の腐食が著しい駅舎については、地域住民の皆様、地域事業者様、JR北海道様などのご協力のもとこれまで計2回、お化粧直し会を実施しました。

手作り秘境駅グッズも販売していて、マウスパッド・ミニタオル・ボールペンなどバリエーションが豊富です。

○オトンルイ風力発電所

地球環境問題への関心の高まりを背景に化石燃料に代わる新しいエネルギー源のひとつとして注目されている風力発電は、環境への影響が少なく、風が無尽蔵にな資源であるという利点を持っています。

北緯45度線上に位置する幌延町浜里地区は日本海側に面し、年間を通じて安定した電気をつくることができる風に恵まれているうえ、広い土地や輸送路、送電のための設備が整っているなど、風力発電所の開設に必要な条件がすべて揃っています。

オトンルイ風力発電所は、28基もの大型風車が、約3kmの長さにわたって並んでおり、豊かな自然エネルギーを感じられるものとなっています。

最大出力量は、2100000キロワットで（7500キロワット×28基）、年間予想発電量は約50000万kWhとなっており、1年間で、一般の家庭が1年間に消費する電力の約120000世帯分に相当します。



なお、オトンルイ風力発電所はリプレースのため28基から5基へ建替えが予定されています。そのため、建替え前にぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

○ゆるキャラの紹介「ホロベー」

幌延町のマスコットキャラクター「ホロベー」は、トナカイの里、幌延町をPRするため、トナカイ観光牧場に舞い降りました。

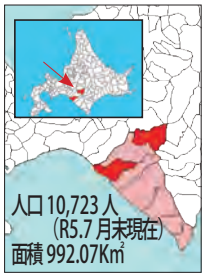


大人しく、とってもやさしい性格のホロベーは、町内で行われるイベントや道内外のイベントにも積極的に参加し、幌延町を広めるため、観光PR活動を行っています。

●お問い合わせ
○幌延町役場企画政策課　〒098－3207　北海道幌延町宮園町1番地1
TEL：01632－5－1114　FAX：01632－5－2971
E-mail：kikaku@town.horonobe.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.horonobe.lg.jp/

日高町とは

○概要



日高町は、２００６年３月１日に「旧日高町」と「門別町」という隣接していない町が合併し、新しい日高町として誕生しました。

９５％を森林で占める山と川の地区「日高地区」とサラブレッドの馬産地で雄大な太平洋が面している海沿いの地区「門別地区」で構成されています。日高管内の西部に位置し、沙流川の源流から下流にかけて構成され、日高山脈がそびえています。

日高地区は日高山脈のふもとに広がる森と清流の空間が広がり寒暖の差が大きく、冬期には１ｍ前後の積雪がみられ、門別地区は牧場と太平洋が広がり積雪も少なく比較的温暖な気候となっています。

日高地区、門別地区の両地区間に平取町を挟んだ「飛び地」になっていて、その距離は約65㎞もあり、日本一の飛び地となっています。

○産業

日高地区は、基幹産業が観光業で、登山者に人気の日高山脈、渓流釣りやラフティングなどを堪能できる沙流川、森林浴に最適な緑の森、オートキャンプ場とアウトドアが充実していて、シーズンを通して多くの観光客が訪れています。

門別地区は、軽種馬産業、水産業、農業の３つが基幹産業を担っています。

軽種馬産業では、国内の約80％が日高管内で生産され、日高町の占める割合は約18％です。

名馬が育つ土壌として、地域条件や気候に加え、積み重ねられてきた生産者の努力はもちろんのこと、より強い馬づくりを実践できるための環境づくりの推進があります。

門別競馬場で行われるホッカイドウ競馬は、インターネットの普及等により売り上げも向上し、近年は、軽種馬生産頭数も増加傾向にあります。

農業では、沙流川流域に豊潤で雄大な自然をベースとした大地で、トマトや軟白長ネギ、ほうれん草、ピーマンなどを主要産品として生産し、市場へと安定供給されています。

水産業では、サケや日高昆布を筆頭に、カレイやホッケ、タコなどが水揚げされています。

また、サケの種苗やホッキ稚貝の放流、昆布礁の設営といった水産資源の維持・管理型の漁業が推進され、地域の特産品であるししゃもについても、ふ化放流事業を実施し沙流川の遡上の増進に取り組んでいます。

○イベント

・ひだか樹魂まつり

毎年７月下旬に日高地区で行われる大きなお祭りで、１９７１年、大きな桂の木に「樹魂竜」をあしらい街の中を練り歩いたのが、「樹魂まつり」の始まりでした。





大昔から日高山脈に棲むという伝説の竜を守護神として、森の樹木に感謝を捧げ、竜により守られてきた日高の山々の樹木の魂を樹魂まつりをとおして世に受け継いでいます。

当日は、陸上自衛隊による演奏会や、和太鼓演舞などの様々なステージイベントのほか、地場産品を含む絶品グルメがそろう「うまいもの市」やまつりのフィナーレを飾る「沙流川花火大会」などイベントが盛りだくさんです。

町の取組み

○第２次日高町総合振興計画

「いきいきと働き、学び、安心と笑顔で暮らせるまち」を将来像とし、「町民と行政との協働によるまちづくり」、「地域の特性を活かしたまちづくり」、「自助と自立によるまちづくり」の３つを基本姿勢として掲げています。

○富川市街地複合施設整備

門別地区にある富川市街地に、２０２５年４月オープン予定の、コミュニティ、行政サービス、バスターミナル機能等を備えた複合施設を整備しています。（↑イメージ図）施設には、バスの待合スペースや観光エリア、ふれあいホール、室内遊具のあるキッズホールなどがあります。



子どもからお年寄りまで多くの方々が気軽に立ち寄れ、活動や交流の拠点として賑わいのある市街地の複合施設を目指します。

○公共交通の確保

２０２１年４月にＪＲ日高線の様似～鵡川間が廃止となり、これに伴い町内の公共交通は町営バスが運行しており、町内の各路線を循環バスが定時運行しています。

公共交通は、デマンドバス、温泉バスなど地域住民の移動手段として大きな役割を担っています。

○子育て世帯支援対策

新たに町民となった新生児の出産を祝福し、エンゼル祝金を支給しています。

また、乳児から中学校卒業までの医療費を無償化し、経済的負担の軽減を図るとともに、多様な保育サービスの実施など、子育て支援体制の充実に努めています。

○産業学習推進制度

日高町教育委員会が主催する「日高町産業学習」は、定時制高校である町立の日高高等学校と連携し、日高町の自然豊かな地域資源を活用した様々な体験を通して、心身ともに健全な青少年の育成を目指す総合学習システムです。「日高町産業学習」の単位習得により３年間で卒業可能となります。

全寮制で、「日高地域の魅力を活かした新しい教育システムの創設により、フロンティア・スピリットを受け継ぐ若者の育成」を目指した特色ある教育活動が展開されています。

○ふるさと納税（寄附）

「ふるさと日高応援寄附金」は、日高町がこれから取り組んでいく施策を皆さんに公表し、皆さんから寄附という形でそれぞれの施策を応援していただく制度です。

いただいた寄附金は、「福祉・少子化対策に関する事業」、「教育・文化に関する事業」、「自然環境保全に関する事業」、「産業振興及び地域振興に関する事業」、「ホッカイドウ競馬の応援に関する事業」の５つの施策に活用させていただきます。

人気の返礼品としては、町の特産品であるししゃもで、太平洋沿岸の一部地域・期間でしかとれない貴重な魚です。冷凍のまま弱火でじっくり焼いていただくと、ししゃもの自然のままの味をお楽しみいただけます。

詳しくは、日高町ＨＰふるさと日高応援寄附金ページをご覧になり、寄附のご検討をよろしくお願いします。



人気の返礼品「ししゃも」

HPはこちら↑

日高町のご紹介

「広大な海　雄大な山なみ　優しさ溢れる日高町」

観光スポット

○門別競馬場

道内唯一の地方競馬場である門別競馬場は、地方競馬の中でも大井競馬場に並ぶ最大規模を誇り、夜空に輝く北斗七星にちなんだ「グランシャリオナイター」の愛称で呼ばれ、レースはすべてナイター開催しており、夜になると、照明に照らされた地方競馬最大級のコースが馬産地に輝きます。ライトの光を浴びて駆け抜ける優駿の姿を間近でご覧ください。

場内には、「ポラリススタンド」と呼ばれる、３００インチの巨大スクリーンや、半屋外の観戦スペース、地元の味が楽しめる飲食店のある快適な競馬観戦ができる施設があります。



北海道の雄大な自然を感じながら、ナイトレースの興奮とサラブレッドのロマンを心ゆくまでお楽しみ下さい。

○道の駅　樹海ロード日高

札幌と道東を結ぶ国道２７４号と、旭川方面と浦河方面を結ぶ国道２３７号の分岐点にあり、峠の出入り口にあたる場所として多くの方々の憩いの場となっている道の駅です。



国道２３７号線の道路沿いの雄大な森林風景から、実際にその道が樹海ロードと呼ばれ、樹海ロードの道の駅として樹海ロード日高という名前が付けられました。

道の駅内には直売所や売店、そば処などの店舗もあり、地域特産品のやまべが贅沢に入ったやまべ天そばは、食べ応え、味ともに抜群です。

また、開発局日高道路事務所が提供する道内有数の山岳ルートである日勝峠の道路状況を７台のビデオカメラでとらえてリアルタイムで映し出すモニターテレビを休憩コーナーに設置しており、冬期間など気になる峠の天気はここでチェックできます。

旅路の疲れた体を癒やす場所となっていますので、ぜひお立ち寄りください。

○日高山脈博物館

日高山脈の雄大な自然と、人とのかかわりを、地質や岩石の観点から紹介する博物館です。

特徴ある外観の当館は４階建てで、各フロアごとにテーマを設けています。



１階は、日高の近代登山史や登山整備、登山ルート、ウォーキングコースなど、日高山脈を体験するためのインフォメーションです。

２階は、日高山脈で見られる代表的な岩石や、採取された化石などが展示されている、当館のメインフロアとなっています。

３階は、日高山脈の地形や生きものの、ジオラマや模型、標本などが展示されています。

４階は、日高の山並みと、それに囲まれた日高の町並みをご覧いただける展望台となっています。

みなさまのご来館をお待ちしております。



○日高沙流川オートキャンプ場

日高沙流川オートキャンプ場は、日高山脈のふもと、日高町を流れる清流「沙流川」沿いにあるキャンプ場です。オートサイトは電源付きサイトやペットと泊まれるサイトなど１００以上の区画があり、そのほかに13棟のバンガローとフリーサイトがあります。

また、場内にはアスレチック・ジャブジャブ池・ドッグラン（キャンプ場内施設としては道内最大規模）が整備され、隣接する沙流川では川遊びや魚釣りが楽しめます。

○日高国際スキー場



日高山脈のふもと「北日高岳」を一気に滑る、日高地方唯一の本格的なスキー場です。

ペアリフト４基と、全10コースからなる当スキー場は、起伏に富んだコースやフラットな1枚バーンのほか、非圧雪コースや林間コースなどバリエーションが豊富で初心者から上級者まで楽しめます。

駐車場とリフト乗り場が隣接しているため、スキー・スノーボードを担ぎながら長距離を歩くこともありません。小さなお子様にはソリコースが人気です。

○Ｙｏｇｉｂｏヴェルサイユリゾートファーム



国内トップクラスの引退名馬が在籍する牧場で延べ20頭以上の引退馬たちが暮らしています。

サラブレッドの牧場内に泊まれる宿として、国内でも滅多にない宿泊施設になっていて、３６０度馬たちに囲まれる非日常体験ができます。

また、窓の外の馬たちを見ながら、ゆっくりと一息つける馬カフェもあり、見学時の休憩所としたり、旅の途中駅としたり馬たちとより近くで癒される場所となっています。

○町のキャラクター紹介

・マスコットキャラクター

【日高地区】クルミちゃん

エゾリスをモチーフとしており、町木であったくるみの木より命名されています。好きな食べ物はもちろんくるみで、必殺技は、くるみ割りとすばやく逃げることです。



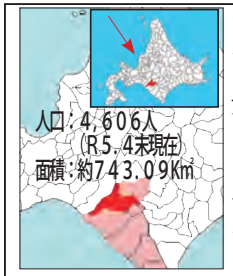
【門別地区】とねっこくん

１歳未満の仔馬のことを〝とねっこ〟と呼ばれていることから命名されていて、年齢は永遠の１歳です。好きな食べ物は牧草で、必殺技はロケットスタートです。夢は中央競馬ＧⅠレースの有馬記念に出場することです。



●お問い合わせ
日高町役場　〒０５９－２１９２　北海道沙流郡日高町門別本町２１０番地の１
ＴＥＬ：０１４５６－２－５１３１　ＦＡＸ：０１４５６－２－５６１５
E-mail：info@town.hidaka.hokkaido.jp
公式ホームページ：http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/

平取町とは



○概要

日高山脈襟裳国定公園で最も高い幌尻岳をはじめとする山々を抱き、面積の約8割が山林の緑あふれるまちです。芽生（めむ）地区には、面積約15ヘクタールの日本一の野生すずらん群生地があり、初夏を涼しげに彩ります。冬は北海道内でも積雪が少なく、比較的温暖な地域です。幌尻岳はアイヌ語で「大きい山」を意味し、アイヌの人々の間では古来から神様がいる山として崇拝され、祈りを捧げていた霊山とされています。

また、まちを貫流する沙流川は、この地に豊かな森と肥沃な農地をもたらした母なる川です。流域には先史時代から人々の生活の跡が残され、近・現代においてもアイヌの伝統が息づくまちとして知られています。町の名前「平取（びらとり）町」は、アイヌ語の「ピラ・ウトル」（崖の間）から出たものとなっています。

季節ごとに趣を変える自然の表情も平取町の魅力で、春は義経神社境内を中心とした義経公園の桜やツツジ、秋にはまちの公園や展望台から望む山々、ダム建設で生まれたにぶたに湖畔などが紅葉に染まります。

○基幹産業

豊かな自然を生かした農畜産業が基幹産業です。生産者のたゆまぬ努力によって、品質や食味が追及された愛情のこもった品質の高い特産品が生まれ、全国に出荷されています。。

○「びらとり」は安心の証し

町では、米、野菜、牛乳、軽種馬、肉用牛などを生産しています。中でも「ニシパの恋人」の名を冠するトマトをはじめ、きゅうりやかぼちゃ、メロンなどの農産物及び和牛、黒豚は、そのおいしさから道内外で知名度の高いブランド品となっています。

○ブランド野菜「びらとりトマト」

さわやかな気候と農家のきめ細かい管理により、糖度と酸度のバランスの良い、おいしいトマトを生産しています。出荷量は北海道一で、全国でも有数の産地となっており、関東・関西方面でも人気を集めています。

○イベント情報

毎年2月上旬に「全道ＰＫグランプリ」が二風谷ファミリーランドで開催されます。雪上で思うように動けない中でのＰＫ合戦に、子どもから大人まで北海道各地から参加者が集まり、白熱した試合が繰り広げられます。また、観戦中にはバーベキューもできます。寒さの中でびらとり和牛を味わい、動いた後にはびらとり温泉で温まって帰る、そんな充実した一日をぜひご体験ください。


全道ＰＫグランプリ

その他、「沙流川まつり」の名称を変え、4年ぶりに「食の祭典　びらとり和牛・トマトまつり」という町最大のイベントを二風谷ファミリーランドで9月に開催しました。ブランド牛「びらとり和牛」のバーベキューや「びらとりトマト」など特産品を普段よりお得に味わえるほか、地元の飲食店なども出店し、地域のグルメをおもいっきり楽しめる、まさに「食の祭典」です。ぜひ一度足を運んでみてください。


食の祭典

町の取組み

○アイヌ文化の振興

平取町は、先住民族であるアイヌ民族の方々が数多く暮らし、生きたアイヌ文化を肌で感じることができる稀有な地域です。その文化や技術を普及啓発・継承していくため、本格的なアイヌ工芸の体験を誰でも気軽にできる施設「ウレシパ」やアイヌ文化の担い手の育成や交流の新たな拠点である「イオル文化交流センター」等の整備など、様々な推進事業を展開しています。

○北海道平取高等学校の魅力化

町内唯一の高校である北海道平取高等学校は、近年入学者数の減少が続き、その存続が危ぶまれています。高校がなくなることは計り知れない影響を地域に与えることから、町を挙げて高校の魅力化に乗り出しました。これまでも平取高校生や町内中学生が無料で通うことができる公設民営塾「びらとり義経塾」の運営や制服の無償化、入学時のタブレット贈呈、各種資格検定料助成、部活動費助成、修学旅行費助成など様々な量的支援を手厚く講じてきましたが、今後は平取ならではの「アイヌ文化」を活かした多様性・共生を学ぶことができる特長的で魅力ある学校を共創し、発信していくことで、北海道内のみならず全国から生徒が集まる学校を目指しています。

○カーボンニュートラルに向けた取組み

２００５年から２０１４年まで［ＩＳＯ１４００１環境マネジメントシステム］に取組み、２０１８年４月に「平取町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、地球温暖化という課題に向き合い、事業活動におけるエコな取組の実践、省エネ設備や太陽光発電の推進など、地域脱炭素に向けた取組を積極的に進めてきました。令和３年度には「平取町木質バイオマスセンター」を整備し、公共施設等への電気・熱源の供給を行っています。また、令和４年度に２０５０年にゼロカーボンシティを実現する意思を表明する「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。



○ふるさと納税（寄附）

いただいた寄附金は、町が抱えている様々な課題解決のために活用させていただきます。

返礼品として、「びらとり和牛」や「ニシパの恋人」（トマトジュース）、平取黒豚、そして北海道で唯一、国から伝統的工芸品として指定を受けたアイヌ工芸品「二風谷イタ」（盆）、「二風谷アットゥシ」（樹皮の反物）などを用意しています。

「二風谷イタ」は木製の浅く平たい形状の盆で、うずまき形を模したアイヌ文様、ウロコ形を模したウロコ彫りが特徴です。「二風谷アットゥシ」とは、オヒョウ等の樹皮から作った糸を用いて機織りされた反物で、水に強く、通気性に優れ、独特な風合いがあります。

平取町にはおいしい特産品や匠の技が光る逸品がございますので、町のホームページをご覧ください。


＜返礼品の一例＞

＜ふるさと納税 QR コード＞

○ふるさと会

（苫小牧びらとり会、札幌びらとり会、北海道びらとり会）

担当部署　観光商工課

☎０１４５７・３・７７０３

●お問い合わせ
○平取町役場　〒０５５－０１９２　北海道沙流郡平取町本町２８番地
ＴＥＬ：０１４５７－２－２２２２　ＦＡＸ：０１４５７－２－２２７７
E-mail：web-info@town.biratori.lg.jp
公式ホームページ：http://www.town.biratori.hokkaido.jp/

「すずらんの咲くまち　びらとり」観光スポット



○日本一の広さを誇るすずらん群生地

日高山脈を源とし、日本一の清流に選ばれたこともある川です。沙流川はゆったりとした自然をそのままにした魅力的な川で、上流はオショロコマ、下流はウグイ、その他にもヤマメ、ニジマスなど、釣りのメッカとしてもよく知られています。

かつて全滅の危機に瀕したすずらんを保護管理し、10年の歳月をかけ自然の状態に回復させました。白樺の林と鮮やかな緑の野に咲き乱れ、さわやかな甘い香りが約15ヘクタールにわたって広がり、平取の群生地は、その規模と美しさで日本一と言われています。普段は保護のために立ち入り禁止となっていますが、花が見ごろになる6月中旬の期間のみ「すずらん鑑賞会」として一般の方にも公開しています。



○北海道を象徴する放牧風景が見られる町営牧場

町営牧場は、すずらん群生地に隣接しています。特産のびらとり和牛が飼育されていて、詩情豊かな放牧風景は、北海道を代表する風物詩といえるでしょう。

○日高山脈の最高峰、日本百名山「幌尻（ぽろしり）岳」

幌尻岳は標高2052m。アイヌ語で「ポロ（大きい）シリ（山）」を意味し、豊富な動植物と多彩な自然環境を有した美しい山です。山頂からは日高山系の山々が一望でき、魅力的な山として登山者に高い人気があります。



○渓流釣りで有名な川魚の宝庫「沙流川」（さるがわ）

き、工芸家を志望する人たちが技術を学び、観光客の方や町民が気軽に工芸を体験できる場として様々な体験プログラムを提供しています。

○二風谷アイヌ文化博物館

重要有形民俗文化財「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」をはじめとしたアイヌの民具や、重要文化的景観に選定されたチセ（アイヌ民族の住居）群のほか、数多くの視聴覚資料、関係図書が所蔵・展示されています。

○旧マンロー邸

英国出身の考古学者・人類学者のニール・ゴードン・マンロー博士は、アイヌ文化研究のため平取町二風谷地区に移住し、研究のかたわら医師として奉仕活動に生涯を捧げました。当時の住宅兼診療所は現在、北海道大学文学部二風谷研究室として活用されており、魅力的な洋館の外観や庭は自由に見学できます。



○義経神社

平泉からひそかに北海道へ渡った源義経を、アイヌの人々が「ハンガン（判官）カムイ（神）」と呼び慕ったというのが平取町に残る義経伝説です。江戸幕府の役人、近藤重蔵が義経公を崇拝するこの地の民族のために像を作らせ、御神像として寄進安置したことがその起源です。木々に囲まれた境内は静謐な空気に満ちており、春は桜、秋は紅葉を楽しむことができます。夏には白装束をまとい神輿を担ぎ町内を練り歩く「義経神社例大祭」が、冬には馬産地である平取町ならではの馬体安全と必勝祈願の儀式「初午祭（はつうまさい）」が執り行われます。



○二風谷ファミリーランド

豊かな自然の中でアウトドア体験を満喫できる公園です。野鳥の森や、マカウシの滝など見どころ多彩な遊歩道は春には桜、夏には緑があふれ、秋には紅葉、冬には氷壁と四季を体感できます。園内には野球場、テニスコート、ゲートボール場、パークゴルフ場などのスポーツ施設があり、他にはバッテリーカー、アスレチックの遊具も設置されています。中でもパークゴルフ場は起伏にとんだ難所コースがあり、人気を集めています。

オートキャンプ場は、ゆったりとしたスペースを確保し、手軽に利用できるバンガローもあります。ほかにもパークゴルフやフィッシング、野生ホタルの観賞などが楽しめます。

○車のままで気軽にキャンプ！「二風谷オートキャンプ」

二風谷ファミリーランド内にあります。車ごと乗りいれることができる人気のキャンプ場です。テントサイトには炊事施設やトイレも完備しており、すぐ近くにはびらとり温泉「ゆから」もあることから入浴・買物にも便利な立地です。

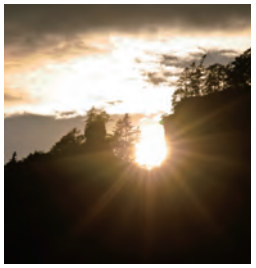
○びらとり温泉「ゆから」

二風谷オートキャンプ場に隣接しており、館内はアイヌ文化をいたるところで感じることができる装飾がほどこされ、レストランや休憩所、お土産コーナーの他、宿泊施設やグランピングも併設されています。たっぷり遊んだ後に、ゆっくりと温泉をお楽しみください。

○北海道の大自然を感じる「ニセウ・エコランド」

平取町のご紹介

○平取町アイヌ工芸伝承館ウレシパ



アイヌ工芸の伝統が息づく「匠の道」第一線の工芸家の技術に触れることができ、工芸家を志望する人たちが技術を学び、観光客の方や町民が気軽に工芸を体験できる場として様々な体験プログラムを提供しています。

○オプシヌプリの穴あき山の夕陽

オキクルミカムイが矢で射抜いたというアイヌ伝承が残る山です。オプシヌプリは「穴があく・山」の意味で、夏至の前後には、幅約14メートルの穴に太陽が沈んでゆく幻想的な光景が出現します。

○公式キャラクター「ビラッキー」の自己紹介

好物のびらとりトマトを食べ過ぎて赤くなったビラ。トマトの赤い丸い体に、しっぽはスズラン、豚の鼻、牛の角を持つ妖精のビラッキーだビラ。

名前の由来「be lucky」＝「ラッキー！ついてる！」一緒に写真を撮ると幸せになれるウワサ

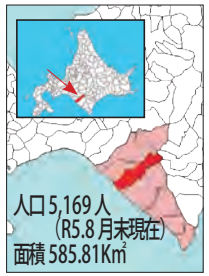
性別　ヒミツ
誕生日　7月1日
性格　好奇心いっぱいで、食いしん坊
特技　さわったトマトが甘くなる・・・（気がする）
好物　トマト、和牛、黒豚　※妖精なので共食いではないビラ！
くちぐせ　「イランカラプテ」アイヌの人々のあいさつで「こんにちは」っていう意味だビラ



●お問い合わせ
○平取町役場　〒055－0192　北海道沙流郡平取町本町28番地
TEL：01457－2－2222　FAX：01457－2－2277
E-mail：web-info@town.biratori.lg.jp
公式ホームページ：http://www.town.biratori.hokkaido.jp/

新冠町とは

○概要



新冠町は、北海道の南部、日高振興局内のほぼ中央に位置し、東側は新ひだか町と接し、西側は日高町と接しています。北側は「日高山脈襟裳国定公園」の主峰、幌尻岳（２０５２ｍ）を擁する日高山脈を境界として十勝総合振興局内に連なり、南側は太平洋に面し、全体として北東から南西にのびる帯状の行政区域で面積の約71％を山林が占めています。気象は海洋性気候に属し、年間平均気温は8.4度と夏は涼しく、冬は温暖に加え最深積雪量は25㎝程度と年間を通して過ごしやすい環境となっています。

○歴史

明治時代のはじめ頃、新冠は高江の他、10の村（地域）で成り立っていました。これら地域を統括する役場として、明治14年に戸長役場（現在の町役場）が初めて設置されました。新冠町では、この年を「開町の年」としています。

また、昭和36年には「新冠村」から「新冠町」へと呼び名が変わり、現在の町制を施行し、令和３年に開町から１４０年。町制施行から60年を迎えました。

○基幹産業

新冠町は、地域条件や気候、豊かな自然環境を活かし、主な産業として軽種馬産業、農畜産業、水産業を幅広く展開しています。





軽種馬産業においては、「ハイセイコー号」や「ナリタブライアン号」、「コントレイル号」など全国の競馬ファンを沸かせた名馬の産地であり、様々な優秀馬を輩出しております。昨今の軽種馬生産状況は良好であり、平成30年度から市場上場頭数は４００頭以上を維持しています。

農畜産業においては、米、野菜、乳用牛、肉用牛と幅広く生産しており、中でも北海道における生産量1位を誇る「にいかっぷピーマン」をはじめ、アスパラガスなどの施設野菜を生産しています。

にいかっぷピーマンは大ぶりで苦みが少なく、甘みがあることが特徴で、道内外へ出荷していますので、ぜひご賞味ください。



水産業においては、森林などの働きによって栄養豊かな海からは、サケ、タコ、ホッキ貝をはじめとした豊富で多種多様な水産物が水揚げされています。

特に、定置網漁によるサケの水揚げ、タコ箱漁・空釣り縄漁によるタコの水揚げのほか、昆布漁も行われており「日高昆布」は全国ブランドとして道内外に出荷されています。

○イベント情報・ふるさと祭り・ふるさと盆踊り

新冠の盛夏を告げる「にいかっぷふるさと祭り」は毎年7月中旬に行われ、たくさんの出店が立ち並ぶ中、氷川若衆会を中心とする周慶みこしの練り歩きや新冠判官太鼓保存会による演奏、有名人が登場するショーなど２日間に渡り多彩な催しが繰り広げられます。



また、お盆には新冠町青年団体連絡会議による「にいかっぷふるさと盆踊り」が開かれます。たくさんの皆さまのご来場をお待ちしております。

町の取組み

○「レ・コード」のまちにいかっぷ

新冠町は競走馬とレコードのまちとして知られていますが、町の至るところに「レ・コード」という単語が使われている事はご存じでしょうか。

「レ・コード」とは、「リターン（帰る）、リフレッシュ（回復）の頭文字の「レ／ＲＥ」と、ラテン語で「心」という意味の「コード／CORD」を組み合わせて「レ・コード／RE・CORD」と表記し、「大切な心に帰る・心の再生」などの大きな意味の広がりを持つ言葉として町が作った造語です。当町の実施する施策の根底にもこの「レ・コード」の精神が反映されています。

○第６次新冠町総合計画

「健康で安心して暮らせるまちづくり」「潤いのある環境を創出するまちづくり」「快適で暮らしやすいまちづくり」「安全で安心して暮らせるまちづくり」「力強く安定した産業づくり」「郷土を愛し生きる力を育む人づくり」「自立したまちづくり」の６つを基本姿勢として掲げています。

○国保診療所の改築

健康で安心して暮らせるまちづくりとして、町の医療を担う国保診療所施設の老朽化が著しいことから現在改築に向けた取組を進めています。これによって一層安心して住みよい町民生活を確保する事としています。町民の皆さんへは進捗状況をお知らせしながら一つ一つ改築に向けた取組みを進めています。

○危機管理体制の構築

安全で安心して暮らせるまちづくりとして、町では令和３年度に洪水ハザードマップ、令和４年度に津波ハザードマップと防災学習ノートを全戸配布したほか、町民の生命を守る避難施設の整備など、ハード面での避難対策を促進する等、危機管理体制の構築を進めています。

○小学校の統合

郷土を愛し生きる力を育む人づくりにおいて、町では町費負担教諭の配置のほか、ＩＣＴを活用した学習活動の充実と施設環境整備を行ってきました。また少子化社会の中、より良い教育環境を等しく提供することが新冠町の子ども達に資するという考えの下、令和６年４月１日の小学校統合に向けた取組みを進めています。

○ふるさと納税（寄附）

頂いた寄附金については「アナログレコード文化の保存活用に関する事業」、「世界で活躍する競走馬づくり支援に関する事業」、「まちづくりのために町長が必要とする事業」に活用させていただきます。

競走馬の故郷としても知られる新冠の恵まれた土地で育った牛からとれる「ホロシリ牛乳」からつくられるホロシリ牛乳チーズがふるさと納税制度開始時から世代を問わず人気の返礼品となっています。そのほかにも、新冠町産の肉・魚介・野菜は１年を通して旬のものが揃い、新冠トンネル熟成ワイン、新冠温泉、乗馬クラブ等の町内施設利用券等、新冠を感じる事ができる充実した返礼品を取りそろえておりますので、まずは新冠町ＨＰをご覧いただき、ご寄附をご検討いただけますと幸いです。



人気の返礼品「ホロシリ牛乳チーズ」

●お問い合わせ
新冠町役場　〒０５９－２４９２　北海道新冠郡新冠町字北星町３番地の２
ＴＥＬ：０１４６４－７－２１１１　ＦＡＸ：０１４６４－７－２６００
E-mail：info@niikappu.jp
公式ホームページ　https://www.niikappu.jp

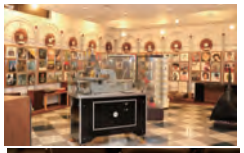
「思いやりと笑顔あふれる〝レ・コードなまち〟にいかっぷ」

観光スポット

○聴体験文化交流施設 レ・コード館

新冠町では20世紀の偉大な文化遺産であるレコードを収集、保存し「レ・コードと音楽によるまちづくり」に取組んでいます。その中核施設として平成9年に建設されたのがこのレ・コード館です。全国の音楽愛好家から寄贈されたレコードの枚数はなんと100万枚！（※1）思い出の詰まったレコードは専用の収蔵庫で適切に保管され、施設を訪れた際には実際に収蔵したレコードを聞く事も可能です。レ・コード館の為に特注された全長3.4mの「オールホーンスピーカー」で世界でも類をみない最高グレードのサウンドを心ゆくまで堪能してみてはいかがでしょうか？

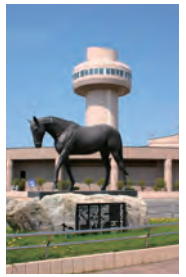






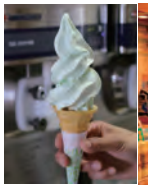
他にも歴史的価値のある蓄音機や黎明期のレコード盤などの貴重な文化遺産が展示されています。さらに市街地を見下ろす事ができる高さ約36mの展望塔「優駿の塔」は5月にリニューアルされ、太平洋や牧歌的風景を楽しみながら馬の魅力を知ることができるスポットとなっています。展望塔内には喫茶コーナーも併設しているので、旅の休憩地点としてぜひお立ち寄りください。

※1：現在レコードの寄贈は受け付けておりません。



○道の駅周辺施設

新冠町の道の駅「サラブレッドロード新冠」は、日高の海岸線を走る国道235号線沿いに位置し、地元の食材を生かしたスイーツや、お土産、生花等が人気です。中でも道内一のピーマンや出荷量を誇るピーマンを使用した緑色のソフトクリーム「ピーマンソフト」は、一見すると驚きの組み合わせですが、ピーマン特有のほのかな苦みとミルクの風味が絶妙にマッチしていて、年代を問わず多くの観光客が買い求める人気商品となっています。





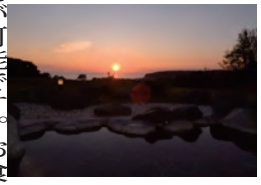
また、平成30年12月に道の駅に隣接して、複合商業施設「にいかっぷキッチン」がオープンしました。青果、精肉、鮮魚、洋菓子などを取り扱う4店がテナントとして出店し、地元住民や観光客で日々賑わいを見せています。



敷地内では新冠が生んだ名馬（中央GI勝利馬）を称える62基の石碑が並んでいる他、新冠町で生まれ、1970年代日本で社会現象を巻き起こすほどの人気を博した国民的アイドルホースで第1次競馬ブームの立役者となったハイセイコー号の馬像が設置され、「競走馬」の町としての新冠を体感できるスポットとなっています。

○新冠温泉ホテルヒルズ

新冠温泉は雄大な自然が広がる新冠を眺望できる高台に建ち、日帰り入浴だけでなく宿泊も可能な施設です。露天風呂や客室からは時間とともに空が美しく変わっていくマジックアワーを楽しむ事ができます。また温泉館内には約1万枚のレコードが置かれ、宿泊者はロビーやお部屋など好きな場所で音楽を楽しむことが可能です。お食事は地元産の新鮮な海鮮とブランド和牛にこだわり、四季によって異なる調理方法で提供され、まさに五感をフルに使った豊かな滞在体験ができる施設となっています。



令和5年9月より当町で生まれた無敗の三冠馬「コントレイル号」のコンセプトルームが1室限定で登場しました。コントレイル号の大きな写真をはじめ主戦騎手のサインや、勝利したGIレースすべての写真が展示されるなど、趣向を凝らしたおもてなしの数々で皆様をお待ちしております。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか？



○新冠ホロシリ乗馬クラブ

日本有数の馬産地新冠町にある乗馬クラブが令和3年3月より新冠温泉近くの太平洋を見渡す丘の上に拠点を移してグランドオープンしました。馬産地らしく在籍する馬のほとんどが元競走馬。現役時代に活躍したGI・重賞勝ち馬を相棒に、森の中での本格的なホーストレッキングを楽しむ事ができます。馬に乗るのが初めての方でも、インストラクターが丁寧に指導・サポートしてくれるのでご安心ください。体験の最後には馬に乗った状態で写真も撮ってもらえます。

敷地内では厩舎で暮らす馬たちと無料で触れ合える他、オリジナルグッズ、餌やりの人参も販売しておりますので、乗馬をしない方や小さなお子様でも気軽に楽しむことができます。気の合う仲間、ご家族と是非お立ち寄りください。

○判官館森林公園

判官館森林公園は新冠川河口の丘陵地に66haの広大な敷地を持つ新冠町を代表する公園です。〝判官〟と名のつく通り、かつて兄である源頼朝の迫害から落ち延びた源義経がこの地で館を築いたという伝説の残る場所となっています。

敷地内の手つかずの自然を楽しむことのできる散策路を進んだ先にある、海に向かって迫り出した一大岩壁は〝判官岬〟と呼ばれ、新冠の市街地と太平洋が一望できる日高屈指の絶景スポットと言われています。



そのほか、公園内では春から秋にかけて様々な草花が鑑賞でき、中でも種から花が咲くまで10年かかると言われているオオバナノエンレイソウの群生を見る事ができる公園として道内でも有数のスポットとなっています。







●お問い合わせ
新冠町役場　〒059－2492　北海道新冠郡新冠町字北星町3番地の2
TEL：01464－7－2111　FAX：01464－7－2600
E-mail：info@niikappu.jp
公式ホームページ　https://www.niikappu.jp

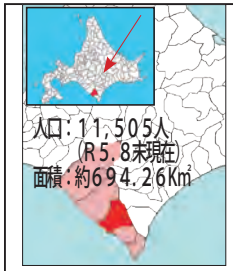
浦河町とは

○概要

町の地形は、大部分を日高山脈とその前山が占めており、丘陵地を縦断して太平洋に注ぐ河川流域にいくつかの平野がみられ、地質は、河川流域を除き火山灰と泥岩、重粘土などの特殊土壌が、耕地面積の多くを占めています。

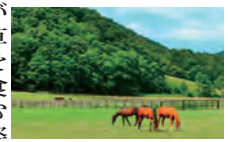
山岳は、神威岳（標高1600m）、楽古岳（標高1472m）などがあり「日高山脈襟裳国定公園」の一角を占めています。

海洋性気候の影響で夏は涼しく、冬は温暖なため「北海道の湘南地方」とも呼ばれ、豊かで住みよい自然環境に恵まれています。



○海を望み、草を食む美しいサラブレッド

日高山脈と太平洋に囲まれた豊かな自然に恵まれ、海を望む広い牧草地で馬が草を食む姿は、浦河を代表する美しい風景です。



浦河の基幹産業として発展した軽種馬産業の歴史は古く、江戸時代に幕府の浦河馬牧が開設、一大馬産地を形成する種が畤かれました。

戦後の競走馬の需要の高まりとともに、歴史ある血統を守ってきた生産者、そして携わるすべての人々に支えられ、漁業と並ぶ町の基幹産業として、発展、数多くの歴史的名馬を輩出してきました。

中でも「強すぎてライバルがいないのが不幸」とまで言われたレジェンドホース「シンザン」号は、日本中の競馬ファンを熱狂させた名馬中の名馬として、引退後も多くの人々に愛されました。その功績を称えた馬像が引退後の養老先である谷川牧場にあり、自由に見学することができます。

○魚介類の宝庫　浦河町

漁獲の安定を図るため、浦河では古くから昆布投石増殖が行われ、人工漁礁によるカレイやタコ、ウニの増殖、サケ・マスふ化放流事業など時代に即して水産業が発展してきました。

日高昆布はその品質の高さから全国的な知名度を得ており、関東・関西の料亭などへ広く出荷されています。浦河町井寒台地区の昆布は日高地区で唯一「特上浜」に指定されており、最高品質の希少な一等昆布です。

また、美しく、脂ののった銀毛サケが水揚げされる日高。この品質を活かすため、平成12年から日高管内でサケの定置網漁を営む41の網元がブランド化に取り組み誕生した「銀聖」。最高級の贈答品としてブランドの価値が高まっています。



○浦河の夏いちご「すずあかね」

甘酸っぱい味わいと適度な硬さがあり崩れにくいのが特徴の「すずあかね」。



軽種馬産業に次ぐ、新たな基幹産業として力を注いでおり、高い品質と生産量が評価され、開始から十数年で「すずあかね」の日本有数の産地となっています。

町では「夏いちご」をより一層盛り上げるため、平成28年より7月15日を「うらかわ夏いちごの日」と定め、例年夏いちごを味わい尽くす「夏いちごの日イベント」を開催しています。

現在では、浦河町の夏いちごはブランドいちごとして主に首都圏に出荷されており、有名菓子メーカーやケーキ店で使用されています。

町の取組み

○多文化共生について考える

町では近年、日本人の担い手不足などで、牧場で働く外国人が急激に増えていることから、多文化共生事業に力を入れ取り組んでいます。

現在は町の総人口の約3.6%に当たる424人の外国人が町に住んでおり、ここ数年はインドからの就労者が増加傾向で、平成26年には0人だったインド人が、令和5年5月末時点では284人まで増え、外国人全体の約67%を占めています。

外国人の人口増加に比例して、役場への来庁者や相談も日々増加していきました。

そのため、町ではポケトーク（多言語翻訳機）を導入し、外国人の窓口対応を行っていましたが、相手方の母語が分からず翻訳機がうまく機能しないなど、機械を用いての外国人とのコミュニケーションに限界を感じていました。

そのような中、町では外国人の方が町内でより快適に暮らし、今後もまちに長く住み続けたいと思えるような取組を進めるため、令和3年度に外国人生活支援調査事業を実施し、ヒンディー語通訳の浦河町駐在員（稲岡千春さん）を中心に、外国人（主にインド人）へのニーズ調査や通訳などの生活支援を1年間行いました。

また、外国人と町との懇談会も実施し、町に住んでいて困っていることや要望したいことなどについて意見交換をし、外国人からの意見・要望を踏まえ、令和4年度には税金や年金、保険制度、交通ルールなどをテーマとした「外国人向けセミナー」を日本年金機構や浦河警察署などと共同で年3回実施し、延べ67名の外国人の参加がありました。

今後も外国人や各事業者の方々の意見に耳を傾けながら、引き続き多文化共生のまちづくりに向けて取組を行っていきたいと考えています。



○ふるさと納税（寄附）

○「ご当地特産品開発支援事業補助金」について

浦河町では、まちのPRになるような特産品を開発する個人や事業者への補助を行っています。

この事業は、皆さんから寄せられたふるさと納税を充てさせていただいており、地場産品を加工した試作品の製作、各種許可の取得、市場調査、デザインの開発や容器の購入など、新たな事業にチャレンジする際にかかる経費を支援し、魅力的な特産品の開発を推進しています。

これまでにもこの補助金を使ってアイスクリームやハンバーグ、トマトジュースなど沢山の特産品が誕生し、その一部はふるさと納税の返礼品にもなっています。

引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

総務課（ふるさと納税担当）
電話番号　：0146-22-2311
FAX番号：0146-22-1240
メール：furusatourakawa@town.urakawa.hokkaido.jp

「丘と海のまきば」～浦河町～
観光スポット

北海道南部に位置する、人口約１２０００人のまち、浦河町。夏は涼しく冬は温暖、雪が少ない海洋性気候で、「北海道の湘南」とも呼ばれる穏やかな気候が特長です。



ここには都会の様な大規模な娯楽施設や商業施設はありません。あるのは、資源豊富な太平洋と大地の恵みに支えられた、豊かな暮らし。うらかわへの旅路には、どこまでも広がる水平線と日高山脈、そして馬の牧場が広がります。



うらかわ優駿ビレッジ AERU

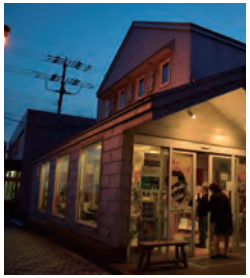
○馬とふれあう浦河

基幹産業である軽種馬産業に関連して、浦河は馬にまつわる施設が多い町です。

優駿の里公園の整備によりオープンした「うらかわ優駿ビレッジＡＥＲＵ（アエル）」は、約１０７㌶の広大な敷地に宿泊棟やレストラン、パークゴルフ場などのレジャー施設を有する複合宿泊施設。乗馬施設も併設しており、引き馬から川歩きなど野外コースをめぐる本格的なホーストレッキングまで、様々な乗馬体験メニューが用意されています。

また、明治40年に日高種馬牧場に建設された厩舎（きゅうしゃ）の外装を再現したノスタルジックな「再現厩舎」には、往年の名馬「オウケンブルースリ・スズカフェニックス・マイネルキッツ・ナカヤマフェスタ」たちが余生を送っており、道内外から競馬ファンが訪れます。

世界に通用する強い競走馬づくりを目指す、世界一流レベルの育成調教施設「ＪＲＡ日高育成牧場」。広大なグラス馬場や屋内調教場など充実した育成環境のもと、高いレベルの調教が行われています。全長１㎞の屋内直線馬場や屋内トラックのほか、展望台からは広大な敷地を駆け回る馬たちを一望できます。毎年７月から10月の夏季期間においては、総面積１５００㌶の広大な施設をめぐる見学バスツアーを実施しています。



○北海道最古の映画館「大黒座」

浦河町にある１００年以上の歴史を持つ全国でも数少ない単館映画館です。１９９４年に建て替えられ、現在は全48席のミニシアターとして営業しています。

地元有志の「大黒座サポーターズクラブ」をはじめ、町民にファンも多く、皆が応援する特別な映画館です。館主の三上さんがセレクトする映画の数々を、歴史が感じられる趣のある「大黒座」でゆっくりとご鑑賞ください。

○笑顔になれる「ルピナスの丘」

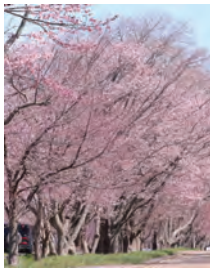
浦河町の海と町並みを望める高台に「ルピナスの丘」があります。６月上旬から名前のとおり「ルピナス」が咲き誇り、季節ごとに様々な花々や植物が丘を彩ります。土地の持ち主である町内の夫妻が整備や手入れを続けています。



丘に登ると眼下に広がる港や浦河の街並み、太平洋に沈む夕日を一望することができます。港まち「うらかわ」を満喫できるスポットの１つです。

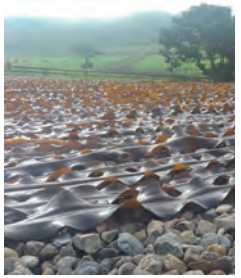
○四季折々の表情をみせる自然とイベント

春が近づくと、日に日に青々とまきばが色づき、とねっこ（仔馬）が駆けまわり、優駿の里公園の入口から約３㎞にわたって１０００本を超えるエゾヤマザクラが立ち並ぶ「優駿さくらロード」が美しいピンクに彩られます。また、



ＪＲＡ日高育成牧場内の丘に立つ、北海道最大の幹回りを誇るエゾヤマザクラ「うらかわオバケ桜」の美しい姿は圧巻の一言です。

５月上旬には、桜の見ごろに合わせて「浦河桜まつり」が開催されます。会場となる「うらかわ優駿ビレッジＡＥＲＵ」の中庭は、様々な品種の桜が植えられており、満開の時期がそれぞれ異なるため長い期間、桜を楽しむことができます。



昆布漁が始まる夏になると、海岸沿いは昆布が並べられ、まるで昆布の絨毯のよう。

夕暮れ時には真っ赤な夕焼けに染まる浦河港の近くでは、浦河の夏の風物詩「浦河港まつり」（８月上旬）が開催されます。祭りは２日間にわたって開催され、地元飲食店の屋台、餅まき大会、町民ステージが楽しめます。２日目のフィナーレには日高一の花火が打ち上げられ、浦河の港を色鮮やかな光で彩ります。



秋には、日高と十勝を結ぶ天馬街道の渓谷から美しい紅葉が望めます。五色渓谷とも呼ばれるとおり、赤や黄色、茶、黄緑などの様々な色で彩られます。日高山脈を源とする日高幌別川や元浦川では、遡上する鮭を間近で見ることもできます。

気温がぐっと下がり澄み切った青空が映える冬には、真っ白な日高山脈がそびえます。浦河の冬は、道内でも雪が少なく過ごしやすい環境です。

町内の河川では、国の天然記念物にも指定されている希少なオオワシ・オジロワシを見ることができ、イーグルウォッチングも開催されます。浦河町は毎年多くのオオワシやオジロワシがやってくる北海道有数の飛来地です。また、町営の乗馬公園では屋内の乗馬場があるため、冬でも天候を気にせず乗馬を楽しむことができます。

○イメージキャラクター「うららん&かわたん」

浦河高校の生徒が考案し、町内外より応募された４６４点の中からネーミングされました。

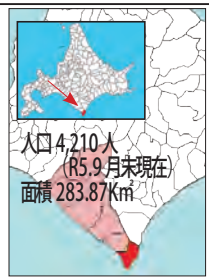
「うららん」は８月８日が誕生日の女の子。いちご大福が好物でネイル（蹄）アートが趣味で、一見おっとりしているが、根は頑固です。「かわたん」とは幼なじみ。

「かわたん」は８月８日が誕生日の男の子。イクラ丼が好物で野球やサッカーが得意。ひょうきんでお調子者だが、浦河の海に沈む夕日に黄昏たり、ちょっと寂しがりやな一面も。「うららん」とは幼なじみ。



●お問い合わせ
○浦河町役場企画課　〒０５７－８５１１　北海道浦河郡浦河町築地１丁目３番１号
ＴＥＬ：０１４６－２６－９０１２　ＦＡＸ：０１４６－２２－２３１１
E-mail：kikaku@town.urakawa.hokkaido.jp
公式ホームページ：https://www.town.urakawa.hokkaido.jp/

えりも町とは



○概要

北海道中央部、その最南端に位置するえりも町は、豊かな水産資源と雄大な自然景観に恵まれた漁業と観光の町です。逆三角形を成して太平洋に突き出ていて、北海道の背骨と呼ばれる日高山脈が落ち込む襟裳岬、断崖絶壁が続く黄金道路など、数多くの景勝地を有しています。

また、その特異な地形により風速10m/s以上の強風・暴風日数が年間260日以上もあることから、「風のまち」として歴史を刻み、文化を育んできました。

○歴史

えりも町が初めて文献上に現れたのは寛文9年（1669年）の「津軽一統志・巻十」で、「おた別（歌別）」「あぶらこ潤（油駒）」「ゑとも崎（襟裳岬）」「せうや（庶野）」等の地名が記録されています。

この当時既に、松前藩士の知行地として商場（交易所）が設けられ、アイヌの人々との交換貿易によって初期の経済活動が営まれていました。

寛文年間に開設し、300年以上前の昔から漁業を中心に松前藩のコンブ場所として、日高管内で最も早く開かれた「幌泉場所」は、その後、幕府直轄時代、松前家の復領時代、幕府再直轄時代へと変遷し、次第に生産を増加させながら時代は更に明治の開拓使支配へ移り、明治2年8月15日に初めて原名＝ホロエンルム＝を転じて「日高国幌泉郡」に地名称が確定されました。明治13年2月には本町に戸長役場が設置され、今日に至っています。

本町に初めて自治制が施行されたのは明治39年4月で、一郡一村の「幌泉村」が誕生し、新しく町村会議員制度も設けられて、自治制度の第一歩を踏み出しました

○基幹産業

えりも町の基幹産業は漁業です。年間3000tを超える水揚げを誇るサケ・マス漁。この水揚げのほとんどが9月から11月まで続く定置網漁によるもので、まだ夜が明ける前から漁師たちは漁場へ向かい、大漁の秋サケを積んだ船が帰港すると、港はにわかに活気付き威勢のいい掛け声が飛び交います。

また、漁業の中で中心的な役割を占めているのがコンブ漁です。その水揚げは年間10000tにも昇り、多くは関西方面に出荷されています。

初夏から晩秋まで、えりも町の3分の1の世帯がコンブ漁に携わっています。

○イベント情報

・えりもの灯台まつり

コンブ漁の最盛期でもあるお盆時期、毎年8月14日から16日までの3日間、町民や帰省・観光で訪れる人たちが一緒に楽しめる「えりもの灯台まつり」を開催します。

えりも町灯台公園を舞台に、小学生による鼓笛隊パレードで幕をあけ、「えりも駒踊り」や「襟裳神楽」といった郷土芸能や歌謡ショーが会場を盛り上げ、2日目には、大迫力のスターマインや海面に設置された仕掛け花火が間近に打ちあがり、海と夜空を彩ります。

・えりも海と山の幸フェスティバル

毎年10月第一日曜日に開催されるイベントで、メインの「鮭のつかみ捕り」では、一度に20人の参加者が大きな特注の生け簀の中に入り、勢いよく泳ぎ回る鮭に悪戦苦闘しながら鮭を捕まえます。見ているだけでも楽しく、応援にも力が入ります。

また、会場では鮭鍋の無料提供や生鮭、活ツブ、黒毛和牛、角短牛、エゾシカ肉、野菜などが格安で販売され、えりもの秋の味覚を存分に堪能できます。

町の取組み

第6期えりも町総合計画を基本とし、「活力ある地場産業をはぐくむまちづくり」、「健康で安心して暮らせるまちづくり」、「自然豊かで安全・快適なまちづくり」、「人を大切にし、人にやさしいまちづくり」、「みんなが参画して進めるまちづくり」の5つの基本理念を掲げ、まちづくりに取り組んでいます。

○えりも岬緑化事業

当町のえりも岬地区はかつて、カシワやミズナラ、シラカバなどを主とする広葉樹の原生林で覆われていました。しかし、明治以降、燃料としての木々の伐採や、牛、馬・綿羊の放牧によって、原生林は切り開かれ、えりも特有の強風にさらされ、大地は砂漠化してしまいました。

砂漠化した大地から強風により舞い上がった砂は、住宅や飲料水に入り込み人々の生活環境を悪化させ、さらには海に赤土が入り込み、漁業にも大きなダメージをもたらしました。

砂漠化を食い止めるため、昭和28年、緑をよみがえらせる緑化事業がスタートしました。緑化の第一歩は砂漠化した大地に草をはやすことでしたが、強風により草花の種は飛ばされ、困難を極めました。

その後、試行錯誤を繰り返す中、海岸に打ちあがっている雑海藻を、種をまいた土の上に覆うことで、種を飛ぶことを防ぐことに成功しました。

また、植樹した苗木を強風から守るため防風柵を設置するなど、厳しい自然環境に対応しながら、大地に緑をよみがえらせてきました。

毎年、小学生やボランティアの方々に協力してもらい、植樹が行われており、令和5年で緑化事業は70周年を迎えています。

○緑化事業を題材にした映画製作

えりも町を含む、近隣の浦河町、様似町、広尾町の四町が協力し、四町及び北海道の活性化・観光誘致を目的に、えりも町の苦難の緑化事業を題材にした劇場映画製作を企画しています。

浦河町出身の映画監督田中光敏氏に要請し、2025年の公開を目標に、現在映画製作に取り組んでいます。

詳しくは町の映画製作HPをご覧ください。

映画製作HP：https://www.town.erimo.lg.jp/section/kikaku/sg6h940000008r6k.html

○ふるさと納税（寄附）

えりも町は豊かな海と大地の恵みを支えに発展してきました。

今後も自然と共生しながら産業を伸ばし、活力あふれる郷土づくりに取り組んで行きくため「ふるさと寄付」を募っています。

寄附金は「産業、観光の振興」、「保健、福祉及び医療の充実」、「教育文化の進行」等の他、先述した「映画製作」に有効活用させていただきます。

寄附をいただいた方には、えりもの特産品、鮭やイクラ、毛ガニといった返礼品をご用意していますので、ふるさと納税を機に、ぜひ、えりもの味覚を堪能してください。

詳しくは当町ふるさと納税のHPをご覧ください。

HPはこちらから↓



人気の返礼品

●お問い合わせ
えりも町役場　〒058－0292　北海道幌泉郡えりも町字本町206番地
TEL：01466－2－2111　FAX：01466－2－3367
E-mail：erimo-kikaku@town.erimo.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.erimo.lg.jp/

「海と大地のふるさと　えりも町」
観光スポット

○襟裳岬

襟裳岬は風速10m/s以上の風が吹く日が年間260日以上もある日本屈指の強風地帯で、「風極の地」と呼ばれています。



北海道の背骨と呼ばれる険しい日高山脈が次第に標高を下げ、そのまま太平洋に沈み込んでいく、壮大な大自然のドラマを実感できる場所で、遠く2km沖まで岩礁地帯が続く光景は感動的です。

岩礁は海面下に没して6kmも続き、山脈がそのまま海に続いていることを物語っています。

また、点々と続く岩礁地帯は、体に小銭のような模様があるゼニガタアザラシの生息地となっており、岩の上でアザラシがのんびり日光浴している姿がしばしば見られます。

平成22年8月には、アイヌ民族の精神的・聖地的に重要な場所であるとして、国指定の名勝ピリカノカに指定されました。

○豊似湖



原生林に囲まれた湖面は、上空から見るとハートの形に見えることから「ハートレイク」という愛称があります。

また、その形が馬の蹄に似ていることから、地元では「馬蹄湖」とも呼ばれています。周囲1km、水深は最深部18m、エメラルド色がとても美しい森の中の静寂な湖です。

湖周辺には、氷河期の生き残りといわれる「エゾナキウサギ」の生息が確認されています。

○幌泉燈台記念塔



1978年に廃灯となった灯台を国から譲り受け、灯台山を切り崩して造成された「えりも町灯台公園」のシンボルとして設置されました。

記念塔は四角柱の外観で入口は半円アーチの形をしているなど、国内鉄筋コンクリート造灯台の形状をよく残しており、造形の模範となっていることから、2019年12月に登録有形文化財に登録されました。

また、2021年12月には、灯台のふもとに「ポケモンマンホール」が設置され、観光客が多く訪れるスポットとなっています。

○猿留山道

猿留山道は江戸時代末、1799年に蝦夷地（北海道）防衛のため、江戸幕府の公金で造られた最初の官製道路の一つで、1800年に伊能忠敬が測量し、北海道の名付け親である松浦武四郎が探検した古道です。2003年から「猿留山道復元ボランティア事業」が行われ、江戸時代その食材を使用した料理のほか、ホットコーヒー、ソフトクリームなどのサイドメニューも提供しています。



館内はウォシュレット付きトイレやWi-Fiも完備していますので、豊似湖の散策、釣りやサーフィン、観光でえりも町を訪れる際の休憩所として、お気軽にお立ち寄りください。

○襟裳岬　風の館

風の館は日高山脈国定公園内の襟裳岬にあり、すぐ隣には襟裳岬灯台があるため、灯台の明かりを遮らないよう地下に建設されるなど、周囲の景観に影響を与えないように設計された観光施設です。

○森と湖の里　ふれ愛館

2006年に廃校となった旧目黒小学校の一部を改修した、昔ながらの学校の雰囲気を残した懐かしい施設です。

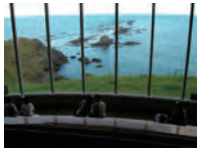


観光交流スペースでは、えりも町の風景写真や、野生動物の剥製を展示。飲食スペースでは、えりも産のものの風景の中を歩くことができるようになっており、毎年町内外の多くの方々が、自然と歴史を楽しんでいます。

また、2018年には国史跡にも指定されています。自然をそのまま残した山道ですので、山歩きの際は十分な準備と装備が必要となります。

館内には、えりもの強風（最大で風速25m/s）を体験できる「えりもの風体験コーナー」があります。まっすぐ立つこともできない、声を出したくても声にならない風の強さを感じてください。

全面ガラス張りの展望室からは、襟裳岬の景色を眺めながら、アザラシウォッチングをすることができ、季節とともに表情を変える襟裳岬の風景を楽しむことができます。





○庶野さくら公園

戦後まもなく行われた「北海道観光地百選」に、庶野（しょや）の高台に自生する桜の群落の写真が入選したことがあります。

以来、庶野の桜は北海道でも桜の名所の一つとして広く知られるようになりました。



春の訪れからちょっと遅れて満開となり、毎年5月の中旬にはたくさんの花見客で賑わいます。

○黄金道路

国道336号線の名を知らなくても、通称の「黄金道路」の名前を知らない人は北海道にはほとんどいません。その建設に多額の費用がかかったことが、その名前の由来となっています。

この黄金道路には、道路トンネルとしては道内最長の4・941mの「えりも黄金トンネル」をはじめとした数々のトンネルや覆道があり、太平洋沿いを走るトンネルの切れ目から、美しい断崖絶壁の海岸線が見える道路となっています。



○町のキャラクター紹介

「ウインディーくん」

えりも町のキャラクター「ウインディーくん」は、襟裳岬に生息しているゼニガタアザラシがモデルとなっており、風でマントをなびかせている姿となっています。

名前の由来は、風が強いことを英語で「Windy」ということから、これにちなんで命名されました。

ウインディーくんは、「えりも町観光PRキャラクター」として、町のイベントに参加しますので、見かけたら、声をかけてあげてください。

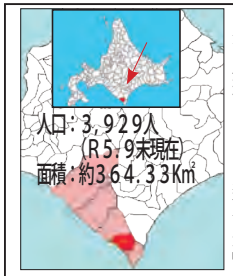
ちなみにウインディーくんの体には、ゼニガタアザラシと同様に丸い銭形模様があるのですが、ひとつだけ違う模様があります。ヒントはえりも町にある「湖」の形です。えりもに来て実物を見る機会があれば、ぜひ探してみてください



●お問い合わせ
えりも町役場　〒058－0292　北海道幌泉郡えりも町字本町206番地
TEL：01466－2－2111　FAX：01466－2－3367
E-mail：erimo-kikaku@town.erimo.lg.jp
公式ホームページ：https://www.town.erimo.lg.jp/

えりも町のご紹介

様似町とは



○概要

様似町は、日高山脈を背後に、前面には太平洋を臨み、その海岸線は変化に富んだ景勝地が点在しています。町の中央部に秀峰アポイ岳（約８１０ｍ）、ピンネシリ（約９５８ｍ）の連山がそびえ、日高山脈の支脈となり、「日高山脈襟裳（えりも）国定公園」の一部を形成しています。特にアポイ岳の高山植物は、数多くの固有植物が生育し国の特別天然記念物にも指定されています。

海岸線には、「親子岩」、「ソビラ岩」、「ロウソク岩」など、遠く昔に形成された火成岩が多く見られます。奇岩「親子岩」は今も昔も変わらない形で、太平洋にその姿を見ることができます。

北海道の中でも古い歴史を持ち、豊かな自然に恵まれた町で、「夢を絆を　笑顔でつなぐ　まちづくり」を創生のテーマに、だれもが安心して暮らしていける町をめざしています。

○北海道遺産

江戸末期に幕府が建立した３つの寺院、様似の等澍院・有珠の善光寺・厚岸の国泰寺の蝦夷三官寺は、平成30年11月に北海道遺産に選定されました。

北海道遺産に選定される基準は、学術的な価値だけでなく、地域が保全・活用に取り組んでいることや、今後の取り組みに期待できるものなどが重視されます。



○アイヌ文化

様似町では、先住民族であるアイヌ民族が古くより暮らし、豊かな文化を築いてきました。

町名の「サマニ」をはじめ、町内には、アイヌ語由来の地名が数多く残されており、アポイ岳や親子岩をはじめとする、山や奇岩にはそれぞれアイヌ民族に伝わる興味深い伝説が残されています。

また、国の重要無形民俗文化財およびユネスコの無形文化遺産に登録されているアイヌ古式舞踊や儀式、工芸、料理など、さまざまな伝統文化が伝承されています。

○イベント

８月には様似の夏の一大イベント「アポイの火まつり」が行われます。アポイ太鼓、ダンス、歌謡ショーなど、多くの演目で、人々の目を楽しませます。

秋には収穫された地場の野菜、魚介などを販売する地場産フェアが開催されます。秋サケのつかみ取りや野菜詰め放題など人気イベントがたくさんあり、会場を盛り上げます。

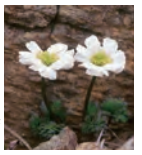
○町の木「日高五葉」

幌満地区に自生しているものが北限として国の天然記念物に指定され、数多い樹木の中にあって、本町を代表する樹木です。常緑樹でその姿も優れており、「絶えない緑、伸びゆく様似」を表しています。



○町の花「ヒダカソウ」

アポイ岳の高山植物群落は、高山植物の宝庫として国の特別天然記念物に指定されポイ岳の固有種です。開花は５月上旬から下旬で、可憐な白い花を咲かせます。



町の取組み

○アポイ岳ジオパーク

「ジオ」は地球や大地を意味する言葉でユネスコ世界ジオパークとは、科学的に重要な、あるいは景観として美しい地質や地形を持ち、その上に成り立つ自然、そしてそこに暮らす私たち人間の歴史や文化を、守り・学び・活かすという包括的な概念で管理する地域です。

様似町には、世界でも類を見ない新鮮で多彩なかんらん岩から成る山々や渓谷、特殊な土壌条件などによって育まれた固有な高山植物群落、そして、海岸の特殊な地形が天然の良港となり古くから交易の拠点として栄えてきた歴史と文化があります。

アポイ岳ジオパークは、これら様似町の貴重な大地の遺産、豊かな自然環境および由緒ある歴史文化を守り、丸ごと学び楽しむという活動理念に共感し、活動をともに行う団体や企業などと地域に活動を広げながら推進します。２００８年には「日本ジオパーク」に、２０１５年には「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。

○産業振興

農業では、日高地方の特色である軽種馬生産や水稲があるほか、近年では、夏秋採りイチゴ「すずあかね」の生産が行われており、生産量・生産高ともにここ数年上がり続け、新規就農者数も増えています。

林業では、森林資源を持続的に活用できるようにするため、間伐などの整備を計画的に実施しています。整備の中で出た木材を木質バイオマスチップに加工したり、製材加工したりして、無駄のないエネルギー利用に貢献できる取り組みや、付加価値をつけての製材販売を進めています。

○教育

教育では、小学１年生から中学３年生までの９年間を見通した学習や発達段階に応じた指導を行う「小中一貫教育」を進めています。郷土愛を育むために、「ふるさとアポイ学」で様似町の自然・歴史・産業などについて学び、ふるさとについての知識を積み重ねています。

また、コミュニティ・スクールを取り入れ、地域全体で子どもたちを育てていく取り組みをしています。

○ふるさと納税（寄附）

様似町では、世界ジオパークに認定されているスペシャルな大自然が育んだ特産品を返礼品として、「ふるさと様似応援寄附」を募っております。

寄附金を活用した事業メニューとして、特徴的な事業が「様似型スクールランチ事業」です。様似町には給食センターが無く、小中学生の昼食が弁当であるため、ご家庭に弁当調理の負担がかかっております。そこで、家庭の弁当調理の負担軽減を目的としたお弁当を提供しており、経費の一部として寄附金を使用させていただいております。

オススメ返礼品として、「鮭の山漬け」をご紹介いたします。適度な塩気と旨味で箸が止まらなくなりますので、食べすぎにご注意ください。他にも自慢の特産品をご用意しております。詳細はＱＲコードより、特設ページを是非ご覧ください！

＜オススメ返礼品＞



ＱＲコードは
こちらから

●お問い合わせ
○様似町役場　〒０５８－８５０１　北海道様似郡様似町大通１丁目２１番地
TEL：０１４６－３６－２１１１　FAX：０１４６－３６－２６６２
E-mail：samani.chou@samani.jp
公式ホームページ：http://www.samani.jp/

「アポイの樹風呼ぶまち　様似町」

観光スポット

○アポイ岳

アポイ岳は軽装備で楽しめる比較的登りやすい山です。登山口からしばらくは広混交林の中を登って行きますが、この中でもさまざまな草本植物を楽しむことができます。５合目の山小屋付近から森林限界となり、ゴツゴツとした、かんらん岩の露地にハイマツ帯が広がり、色とりどりの高山植物もこの辺りから目立つようになります。天気が良ければ眼下に広がる太平洋のパノラマや、馬の背から望む日高山脈なども楽しめます。

頂上までの道のりは、人によって２時間半～３時間半、往復４時間半～６時間程度です。地下深くのマントルからやってきたかんらん岩がつくる「花の山・アポイ岳」はその貴重な自然を求めて毎年多くの登山客がここを訪れています。



○アポイ岳ジオパークビジターセンター

アポイ岳ジオパークビジターセンターは、様似町の地形・地質、自然、歴史・文化・産業に関する展示や映像、解説を通してアポイ岳ジオパークをより楽しむために必要な情報の提供を行う施設です。併せて、より楽しく、より安全にアポイ岳登山をしていただくために、高山植物やヒグマなどに関するリアルタイム情報の提供を行っています。



○アポイ山麓ファミリーパーク

アポイ岳の麓に位置し、キャンプ場をはじめさまざまな施設があり、登山者、仲間や家族そろって楽しめます。



○親子岩

太平洋に浮かぶ様似のシンボル「親子岩」は多くの海水浴客で賑わう夏とは別の顔を持っています。それは、夕日の絶景ポイントであることで冬の時期だけ、３つの岩の間にちょうど夕日が沈むのです。空が深紅に染まり、岩の間から一条の光が海面を照らし出す光景は荘厳そのもので、この親子岩には、親子の強いきずなにまつわるアイヌの伝説が残されています。そのため、ここで夕日を眺めながら祈ると家族に幸福をもたらすと言われています。

○様似ダム

様似ダムは１９７５年、様似川下流域の治水を目的として北海道により建設された堤高４４ｍの重力式コンクリートダムです。



○エンルム岬

エンルム岬の展望台からは、天気が良ければアポイ山塊（アポイ岳～ピンネシリ）と様似の街並み、遠くは日高山脈の脊梁や襟裳岬を一望することができます。

アポイ山塊は、地下深いマントル（地球をゆで卵に例えると白身の部分）が地表に現れた「かんらん岩」の山です。約１３００万年前、東側の北米プレートがこの場所でユーラシアプレートとぶつかりめくり上がってつくられたと考えられています。壮大な地球の動きによってアポイ岳はここにあるのです。

火星に探査機を送るほどの科学技術をもつ人類にとって、マントルはいまだたどり着けない未知の世界であり、アポイ岳は、その未知の世界を垣間見ることのできる世界的にも貴重な場所です。

○観音山

観音山の展望台からの眺めは、エンルム岬に負けず劣らず爽快です。真下に見えるのが様似漁港ですが、漁港の内外に点在する奇岩（看板参照）は、「ひん岩」というマグマが冷えて固まった火成岩の一種で、横一線に並んでいるのは、プレート運動によって地殻がこの方向に強く圧縮され、その力と同じ方向に割れ目ができ、そこに下からマグマが入り込んだことを示しています。

この山頂には、アイヌのチャシ（砦）があったといわれており、エンルム岬に布陣した敵アイヌとの戦いの伝説が残されています。

また、観音山の名は、明治維新後、廃寺となった蝦夷三官寺・等澍院を再興した13世住職・塚田純田が、33体の観世音の石像を安置したことに由来します。

また、春は桜の名所として、５月上旬から中旬ごろに見ごろを迎えます。日本でも最も遅い時期に花見の季節を迎える場所の一つです。

キャンプ場を併設しているため、海水浴場開設期間の休日は混雑しますので、早めの到着をお勧めします。

お風呂は隣接している宿泊施設「ホテルアポイ山荘」で日帰り入浴が可能です。

○パークゴルフ場

太平洋を望むパークゴルフ場には、３コース２７ホールの国際パークゴルフ協会認定コースがあります。起伏に富んだ、ちょっと難しいコース設定になっていますが、町内外から多くの愛好者が訪れています。

○親子岩ふれ愛ビーチ

太平洋に浮かぶ親子岩を望み、国道３３６号線をドライブする人たちの心を和ませる絶景ポイントである海水浴場・親子岩ふれ愛ビーチがあり、日高管内唯一の海水浴場です。

シャワー（水のみ）や更衣室、水洗トイレが完備されています。海水浴はもちろん、釣り防波堤、遊具施設など、家族が楽しめる海水浴場になっています。

○アポイ岳ジオパークキャラクター

★カンラン君

アポイ岳を形成するかんらん岩から生まれた岩石の妖精。正義感が強く、意思が固い（石が固い）が、ちょっぴりおっちょこちょいなところもあります。趣味は山登りやアポイ太鼓で特技は昆布干しです。好きな言葉は石の上にも三年です。



★アポイちゃん

アポイ岳に生育するサマニユキワリから生まれた花の妖精。太陽のように明るく、誰にでも優しいしっかり者です。趣味は日向ぼっこやテニポンで特技は出会った人を元気にすることです。好きな言葉は十人十色です。



●お問い合わせ
○様似町役場　〒０５８－８５０１　北海道様似郡様似町大通１丁目２１番地
TEL：０１４６－３６－２１１１　FAX：０１４６－３６－２６６２
E-mail：samani.chou@samani.jp
公式ホームページ：http://www.samani.jp/

さまに
様似町のご紹介

年間の公益事業・行事など

新年交礼会開催（1月　有料）
北方領土返還推進運動「ブラウンリボンバッジ」キャンペーン
「千島桜」シンボルバッジキャンペーン
「北海道新幹線早期実現」「新幹線バッジ」キャンペーン
「ふるさと納税推進」キャンペーンなどの年初スタートを実施。

「北方領土返還要求全国大会」に参加（2月7日　北方領土の日）

「北方領土返還要求中央アピール行進」に参加（１２月１日）

交流の夕べを開催（8月4日前後　有料）
キャンペーン、北海道等の広報を目的とした夏の交流事業を実施。

交流イベント「We Love Hokkaido」の開催（旧道産子の会、10月　有料）
北海道関係者、北海道ファン、一般参加者２～300名、有料
キャンペーン、公益事業の広報、地域活性化イベントなどを実施。

講演会、シンポジウムの開催（無料）
当倶楽部の公益事業と関連した講演テーマを検討する。一般の参加歓迎（講演テーマ、行政との協調などにより公益性のあるものとし、一般参加を呼びかける。）

情報紙「北海道 "NOW"」の発行・配布
倶楽部の事業に係る広報のため、情報紙「北海道 "NOW"」 本紙・増刊号　年11回）を発行。一般配布（有料　月額８０円）有り。

「北海道の市と町と村をご紹介（WEB版）」の発行・配布
本誌

北海道情報ラックに北海道情報を配布（毎月、無料）

ホームページで倶楽部公益事業を広報（適時）

その他
倶楽部内交流の同好会の活動に協力。（独立運営・会計、北星会（ゴルフ））


「摩周湖」（弟子屈町）

入会希望の方は定款（HP にあります）をご了承の上、
下記申込書を A4 にコピーし、ご記入の上郵送下さい。

入会案内のページ
上記ページを参照し、ホームページ上からも、各申込書のダウンロード及び入力送信が出来ます。(QR コードを読みとるかクリックも可)

公益社団法人北海道倶楽部

正会員

□入会申込書　□登録事項変更申込書

申込年月日　令和　　年　　月　　日	印
ふりがな 氏 名	
生年月日　大　昭　平　　年　　月　　日	

新規登録、変更は下記に記入／会員抹消は氏名のみ記入
連絡先は□勤務先・□自宅とします。　会報、郵送物の送付先を指定。(左記□にチェック)

勤務先	会社名（ふりがな　　）
	役職名
	住所　〒(　　—　　)
	電話　　—　　—　　FAX　　—　　—
	業 種
連絡用mail	@
自宅（名簿非掲載希望は□チェック）	住所　〒(　　—　　)
	電話　　—　　—　　FAX　　—　　—

出身地　　市町村	最終学校	北海道との関係

関心分野（各1個）	支援　□総務　□広報　□北方領土返還　□地域活性化・ふるさと納税　□新幹線延伸
	事業　□新年交礼会　□交流のタベ　□北海道フェア　□交流イベント
趣味	□ゴルフ　□囲碁　その他(　　)
紹介会員	(1)　　(2)

正会員の入会申込後、直近の理事会での入会承認後、入会のご連絡と入会金（5千円）年会費（15千円）納入のお願いを差し上げます。